

中山道東美濃路における  
景観資源及び地域活性化に関する研究

2016年3月

尚 偉





## 目次

### 第1章 序論

第1節 研究の背景	1
第2節 研究の対象	6
第3節 研究の目的	10
第4節 研究の構成	12
第5節 既往研究	14
参考文献	

### 第2章 中山道東美濃路における景観資源の現状と特性

第1節 はじめに	25
第2節 景観資源の現状調査	28
2-2-1 調査対象と調査方法	28
2-2-2 各宿場町及び宿場町間の景観資源数	31
第3節 景観資源の現状分布状況	32
2-3-1 景観資源の分布図	32
2-3-2 景観資源の集計	36
第4節 景観資源の分布特性	41
2-4-1 中山道東美濃路沿道全体における路面材料特性	41
2-4-2 宿場町別路面材料特性	42
2-4-3 宿場町における景観資源の特徴	43
2-4-4 宿場町における景観資源の分布特性	45
2-4-5 宿場町間別沿道路面材料特性	46
2-4-6 宿場町間における景観資源の特徴	48
2-4-7 宿場町間における景観資源の分布特性	50
第5節 小結	51
参考文献	

### 第3章 中山道東美濃路における観光客の旅行環境評価

第1節	はじめに	57
第2節	観光客についてのアンケート調査	60
3-2-1	調査対象と調査方法	60
3-2-2	調査時期と調査場所	61
3-2-3	調査内容	63
3-2-4	回答数	66
第3節	観光客の属性	68
3-3-1	国籍別観光者属性	68
3-3-2	観光場所別観光者属性	70
第4節	観光客の観光動向	76
3-4-1	国籍別観光客の観光動向	76
3-4-2	観光場所別観光客の観光動向	82
第5節	観光客の観光意識	94
3-5-1	国籍別観光客の観光目的	94
3-5-2	観光場所別観光客の観光目的	95
3-5-3	宿場町間における観光客の要望	97
第6節	観光客の観光環境評価	99
3-6-1	観光客についての観光評価項目及び有効回答数	99
3-6-2	性別、年齢、国籍別、観光場所別観光環境評価	101
3-6-3	観光環境評価構造の抽出	106
第7節	小結	128
	参考文献	

### 第4章 地元官、民による中山道東美濃路地域のまちづくり意識

第1節	はじめに	133
第2節	行政、まちづくり団体、観光案内施設のアンケート調査	135
4-2-1	調査概要	135
4-2-2	調査内容	137

第3節	行政のまちづくり事業と観光客を受け入れる意識	141
4-3-1	まちづくり事業	141
4-3-2	まちづくり意識	144
4-3-3	観光客を受け入れる意識	148
第4節	まちづくり団体の活動と観光客を受け入れる意識	151
4-4-1	まちづくり団体の現状	151
4-4-2	まちづくり活動	153
4-4-3	まちづくり意識	158
4-4-4	観光客を受け入れる意識	162
第5節	観光案内施設の現状と観光客を受け入れる意識	165
4-5-1	観光案内施設のスタッフ現状	165
4-5-2	観光案内施設の現状及び運営上の課題	167
4-5-3	まちづくり意識	169
4-5-4	観光客を受け入れる意識	173
第6節	行政、まちづくり団体、観光案内施設のまちづくり意識 と観光客の対応	176
4-6-1	まちづくり意識	176
4-6-2	観光客を受け入れる意識	178
第7節	小結	180
	参考文献	
第5章	結論	185
第1節	総括	185
第2節	今後の課題	191

謝辞

# 第1章 序論



## 第1節 研究の背景

### 1. はじめに

中山道は、かつて江戸と京都を結ぶ日本の動脈であり、人が集まってできた「まち」を道によって結び、道によって「まち」や人を活気づけてきた。人々の移動手段は、「歩くこと」（徒歩）が主要なものであり、時間をかけて歩くことで、必然的に相互交流と扶助が育まれてきた。しかし、産業革命以降、急速な近代化、高度成長期以降の急速な都市化やモータリゼーションは、利便性の向上に寄与し、観光として印象に残る景観を提供してきたものの、人々の相互交流や扶助を育むことを遠ざけ、中山道を記憶に残る原体験や舞台となることを遠ざけてきた。そこで、中山道を移動する方法として、かつての主たる移動手段である「徒歩」に注目した。ほかにも、歴史の軸をたどれば、バスや鉄道などの公共機関（産業革命以降）や船などを利用した水運（産業革命以前）などといったさまざまな選択肢を徒歩に組み合わせることで、まちをあるく人々に、それぞれの物語を自然の中でつくる手助けをすることが可能となる。徒歩を主とする移動を通じて、中山道を通じて育まれてきた「まち」、そして「まち」にある「生活」を知る。特に、かつて旅人が、たどった徒歩によるそれぞれの宿場町の生活空間の体験は、地域連合には欠かせないキーポイントである。住民同士のヒューマンスケールでの「協働と交流」、住民と観光客との「語り」と交流、からきめ細かな、「心遣い」が可能である。

### 2. 中山道の概略

中山道は、江戸日本橋を起点とし、草津で東海道と合流して、京都三条大橋に至る日本の五つの陸上交通動脈のひとつであった。全長136里弱（約534km）、東海道と兼宿の草津・大津宿を加えると69宿であった。その道筋は中部山岳地帯を横断しており、江戸（東京都）・武蔵（埼玉県）・上野（群馬県）・信濃（長野県）・美濃（岐阜県）・近江（滋賀県）・山城（京都府）を通過する。

東海道は中山道により 10 里程短く、比較的平坦な道筋ではあったため、両街道の交通量は東海道が圧倒的に多いが、「箱根八里は馬でも越すが、越すに越されぬ大井川」といわれたように川渡しを必要する箇所が多く、また危険を伴う海路も有しており、悪天候などによって行程に支障をきたすことも多かったとされる〔参考文献 1〕。

整備として一里ごとに一里塚（約 3.927 キロメートル）を設けたほか、一定間隔ごとに宿場を用意した。道を徒歩によって結び、道によって「まち」や街道を行き交い、街道を往来する人々にとって様々な施設を提供し、活気をおびていた。

江戸末期に参勤交替制が廃止され、明治以降には新たな交通手段も加わり、徐々にその役割を減じていった。さらに、昭和 30 年以降の高度成長期には人口の都市集中により地方の小都市の衰退を招いた。一方では、交通手段の中心が自動車になり、バスや鉄道などの公共機関（産業革命以降）や船などを利用した水運（産業革命以前）などといったさまざまな選択肢を組み合わせることで衰退した宿場町にも容易に訪れることが可能になり、観光化の道が開けてきたことも事実である。

### 3. 美濃国内の宿場

軍事・行政のために宿場町を設置し交通網を把握することが目的であったものが、旅人を宿屋に泊めたり、休ませたりなどの役を果たした。宿場を構成する本陣や旅籠は、当然のことながら木造建築物であり、また建物が密集していた。

美濃国内の宿場町は、東により落合、中津川、大井、大湫、細久手、御嶽、伏見、太田、鶉沼、加納、河渡、美江寺、赤坂、垂井、関ヶ原、今須の 16 宿があり、これらを総称して「美濃 16 宿」という。このうち落合宿から鶉沼宿を「東美濃 9 宿」、加納宿から今須宿までを「西美濃 7 宿」とよび二つの連帯組織に分かれていた。東濃においては中津川宿が最も大きいですが、西濃地域に比べて、全

体的に小規模な宿場町が多かったようである〔参考文献 2、3〕。

#### 4. 中山道東美濃路に隣接する自治体の現状

地方都市の中小都市の多くは、現在、過疎や高齢化、少子化に見舞われている。都市を活性化するために多くの都市で様々なまちづくり活動がなされている。2004年の景観法の施行により、景観計画が日本各地で策定され、まちづくりのひとつの潮流となっている。その中で、景観の目玉として歴史遺産や伝統的な環境が位置づけられている。この中山道東美濃路地域においても、2015年11月の時点で、すでに中津川市と、恵那市、可児市、美濃加茂市において景観計画が策定されており、中山道の景観が景観計画の背骨として位置づけられている。現在、瑞浪市が景観計画策定をしており、中山道の宿場町を含むこれらの都市地域において景観計画が出そろってくることになる。しかし、各自治体でそれぞれ別々に景観計画を策定しており、都市をつなぐ連携については関心が薄い現状である。連携を強化し、複数地域の連合として扱うことで都市の魅力の幅が増し、地元の生活環境を豊かにするとともに、この地域への観光客を増大させ、地域が一体となった新たな文化創造することが可能である。

#### 5. 中山道東美濃路の景観資源

中山道東美濃路は、江戸から大津までの距離を結び、さらには京都へと続く交通の動脈であった中山道地理的な中心部であり、東海道のバイパスとして数多く茶屋や旅籠などの利便施設や娯楽施設が存在し、徒歩移動の時代にその中途を占める区間として、たいへんな活況を呈していた。現在、街道を利用の便に供することはなくなっているが、これらの痕跡は残存し、かつての面影を今日に忍ばせている。たくさんの古い良い時代の歴史景観資源が残され、当時の面影を残しているが、今まで注目されてない。

妻籠宿は、70年代後半から80年代前半の歴史の道事業に対する地域の反応及び事業を通じて展開された最初期の事例として重要伝統建造物群保存地区の



指定はその代表例のひとつである〔参考文献4、5〕。しかし、東美濃路は木曾路の延長地域として制度的な連携が不足している、地域の価値を定めるための系統だった研究がなされていないことが現実である。

## 6. 国内外観光客の増大

昭和となり高度経済成長期に突入すると、日本各都市の開発により、伝統的な町並みは次々と破壊されていった。昭和40年代に入るとこの状況に対する危機感が募り、日本の町並み保護の意識を高め、重要伝統的建造物群保存地区の制度が始まるきっかけとなった。この中、妻籠の人々は宿場を構成する町家に対し「売らない、貸さない、壊さない」の三原則を自らに課し、町並みの保存活動を開始した。

馬籠宿は何度も大火にあって、古い町並みは石畳と枡形以外はすべて消失したが、昭和43年に長野県明治100年記念事業の一環として、江戸末期の宿場の姿を再現するために、家並みの改築をはじめ、宿場町を当時の姿に復元した。

衰退した木曾路などの宿場町が一連の復元事業を始め、多くの観光客を招き、新たな観光地として再び賑わっていた。また、H18年に観光立国基本法を成立し、H24年に観光立国推進基本計画の策定を背景として、各観光地においては日本人及び外国人観光客の来訪の促進、地域の景観資源の保護、開発や観光利便施設の整備等のための施策をしていた。

妻籠を愛する会が行った馬籠峠を越えるハイカー調査により、外国人観光客は東日本大震災から一旦減ったが、それから円安の影響で、旧街道へ歴史探訪する欧米人による街道トレッキング、健康志向によるウォーキングなど、単に宿場町だけでなく宿場町間の徒歩散策は賑わいを見せている。その中で、中山道東美濃路は木曾路の延長として観光客を受け入れるため、観光地化へ向けて新たに脚光を浴びてきている。

さらに、行政サイドでは、2014年に中津川宿と大井宿の間の坂本地区へのリニア新駅の設置が登録され、この地区が観光客の増加が期待される。各町の点

的な観光に留まらず、宿場町間の街道をつなぐ線的な広がり、地方の観光活性化に繋がり、中山道東美濃路地区を一体とする観光資源の見直しが必須な条件となっている。

## 第2節 研究の対象

中山道東美濃路は、落合宿から今須宿まで約128kmで、中山道全体が534km、その約4分の1に相当するが、本研究で対象とする中山道東美濃路では、岐阜県東濃地方の落合宿から太田宿まで、さらに木曾路の最西端に位置する妻籠宿と馬籠宿を加えた約70kmの旧中山道沿道地域とする、図1-2-1に示す。この区間は、行政単位として長野県の南木曾町、岐阜県の中津川市、恵那市、瑞浪市、御嵩町、可児市、美濃加茂市が含まれている。この間には、旧宿場町が10、宿場町間が9存在し、延長約70kmに及ぶ。馬籠峠、十曲峠、十三峠、琵琶峠等を経る道の高低さが激しく、また、鉄道交通が発達ゆえに、中山道の交通役割が消え、これまで開発もゆっくりと進展してきた。そのため、東海道と比較して往時の歴史景観や雰囲気がよく残されている。

対象地域の中山道の道筋については、Ⅰ妻籠～馬籠からⅦ細久手～御嶽までは主に山間部を通過する起伏のある山道が多いが、Ⅶ御嶽～伏見とⅧ伏見～太田は、平坦な道筋である。この地域においては、豊かな自然景観や一里塚、茶屋、馬頭観音、道祖神などの歴史遺跡、往時の雰囲気が濃い山道や石畳などの徒歩道が多く現存している。

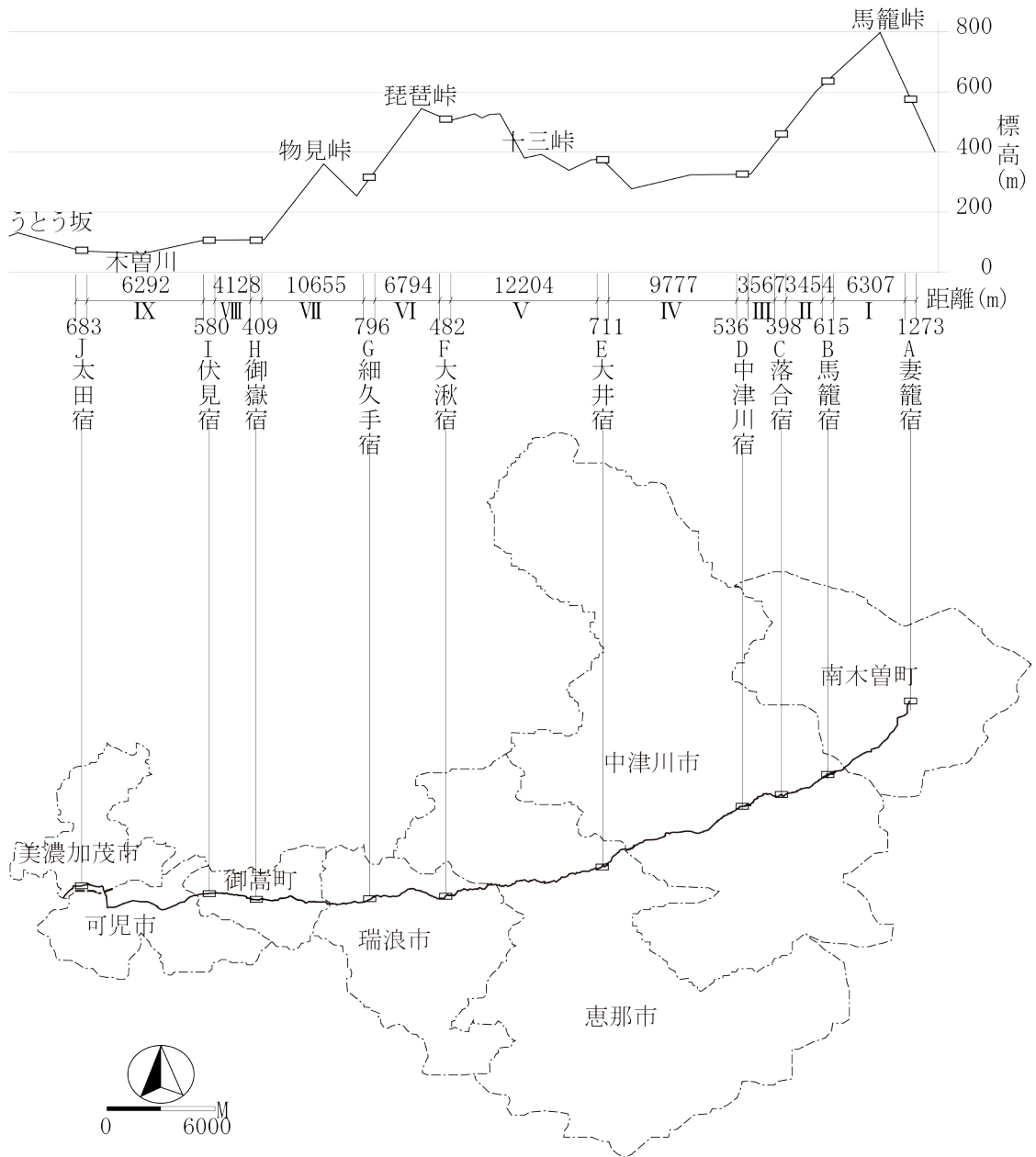


図 1-2-1 研究対象地域及び断面図



妻籠宿



馬籠宿



大湫宿



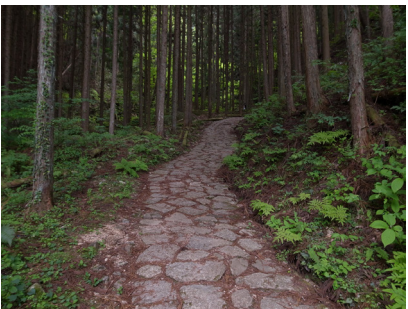
太田宿



間宿



集落



落合石畳



一里塚





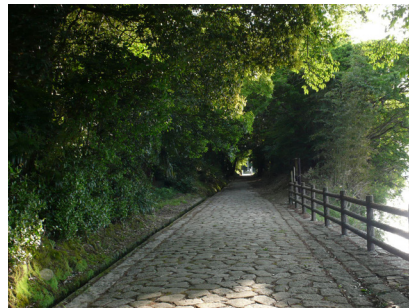
男滝



樹齡千二百の大杉



木曾川



川沿い遊歩道



開基 1200 年の願興寺



石仏群



地藏



馬頭観音

### 第3節 研究の目的

中山道東美濃路は、江戸から京都へと続く交通の動脈の中心部として栄えていた。かつては、「あるくこと」が主な移動手段であり、活気をおびていた。交通手段の中心が自動車になると、衰退した宿場町にも容易に訪れることが可能になり、観光化の道が開けてきたことも事実である。その一方で、徒歩による観光は廃れ、宿場町間にある豊かな歴史景観資源をどんどん記憶から退けている。宿場町間にある間宿や脇宿、歴史資源に関する研究、調査が全くなされていなかったようである。

研究の背景で述べたとおり、中山道東美濃路と木曾路を繋がる宿場町としての妻籠宿と馬籠宿は観光名所となり、大勢な国内外からの観光客が訪れられている。海外からの観光客が東日本大震災で一旦減ったが、近年非常に増えている傾向である。しかし、その影響は東美濃路までには及ぼしていなかった。

この状況下で、木曾路の延長地域とした中山道東美濃路という伝統的な環境にある地区の住民の生活環境を物的なハード面、心的なソフト面で豊かにすることが可能である。そのためには、これまで培われてきた地域資源を活用し、あらたな生活基盤の充実が急務であると考えられる。

そこで本研究では、東美濃地方の中山道の沿道地区を対象にして、その住民、新しく移り住んだ住民、観光客が、そこでの歴史的・伝統的な環境を活用して、徒歩で互いに交流することを可能にし、より豊かな生活環境を創出することを目標に、この地方の連合を計り、その延長線にある中山道木曾街道、あるいは西濃美地方との連携を強化し、この地域の観光客を増大させることにより、地域活性化するための基礎資料を作成することを目的とする。

その手順は以下の通りである。

①東美濃地方の中山道の沿道地区を対象にして、景観資源の存在を確固とし、

その特性を分析により地域特徴を抽出する。

②中山道東美濃路の宿場町と宿場町間に訪れる外国人および日本人観光客の属性、観光動向、観光意識、満足度について調査を行い、日本人及び外国人観光客の視点から街道の景観資源についての魅力評価を行うことで、潜在的な街道の特性と観光動向を把握し、宿場町間を繋ぐ連続的なまちづくりの方針を示し、観光資源の魅力のさらなる向上させ、観光客の観光利便性を向上するに向けて、安心して快適に観光できる環境整備する必要な要素を明らかにする。

③東美濃地方各行政、地元住民まちづくり団体との連携を強化し、中山道東美濃路での歴史的・伝統的な環境を活用して、住民と観光客が徒歩で互いに交流することを可能にし、より豊かな生活環境、観光環境を創出するためのまちづくりの方針を抽出する。

④東美濃地域の複数行政、まちづくり団体の連合として扱うことで都市の魅力の幅が増し、地元の生活環境を豊かにするとともに、この地域への観光客を増大させ、地域が一体となった新たな文化創造のための資料としたい。



## 第4節 研究の構成

研究の手順による本研究の構成を以下に述べる〔図1-4-1〕。

第1章「序論」では、中山道美濃路における景観資源と歴史地域特徴に関する研究を行う背景とその目的などについて述べる。

第2章「中山道東美濃路における景観資源の現状と特性」では、景観資源の存在を確固とし、その特性を分析し、得られた結果を述べる。

第3章「中山道東美濃路における観光客の旅行環境評価」では、中山道東美濃路の宿場町と宿場町間に訪れる日本人及び外国人観光客の視点から街道の景観資源についての魅力評価を行うことで、潜在的な街道の特性を把握する。また、観光客の観光動向と意識調査を行うことで、各宿場町と宿場町間における交通、宿泊、案内などの観光利便性の不足を述べる。

第4章「行政、まちづくり団体、観光施設による中山道東美濃路地域のまちづくり活動・意識・将来像及び観光客を受け入れ意識」では、中山道東美濃路地域の行政、まちづくり団体、観光施設のまちづくり活動や課題、まちづくり意識及び観光客の対応について調査を行うことで、各地域まちづくり活動の不足と観光客を受け入れるための必要な取組みを述べる。

第5章では、各章で得られた結果を総合し、宿場町と宿場町間を繋ぐ連続的なまちづくりの方針と今後の展望について述べる。

研究の流れ

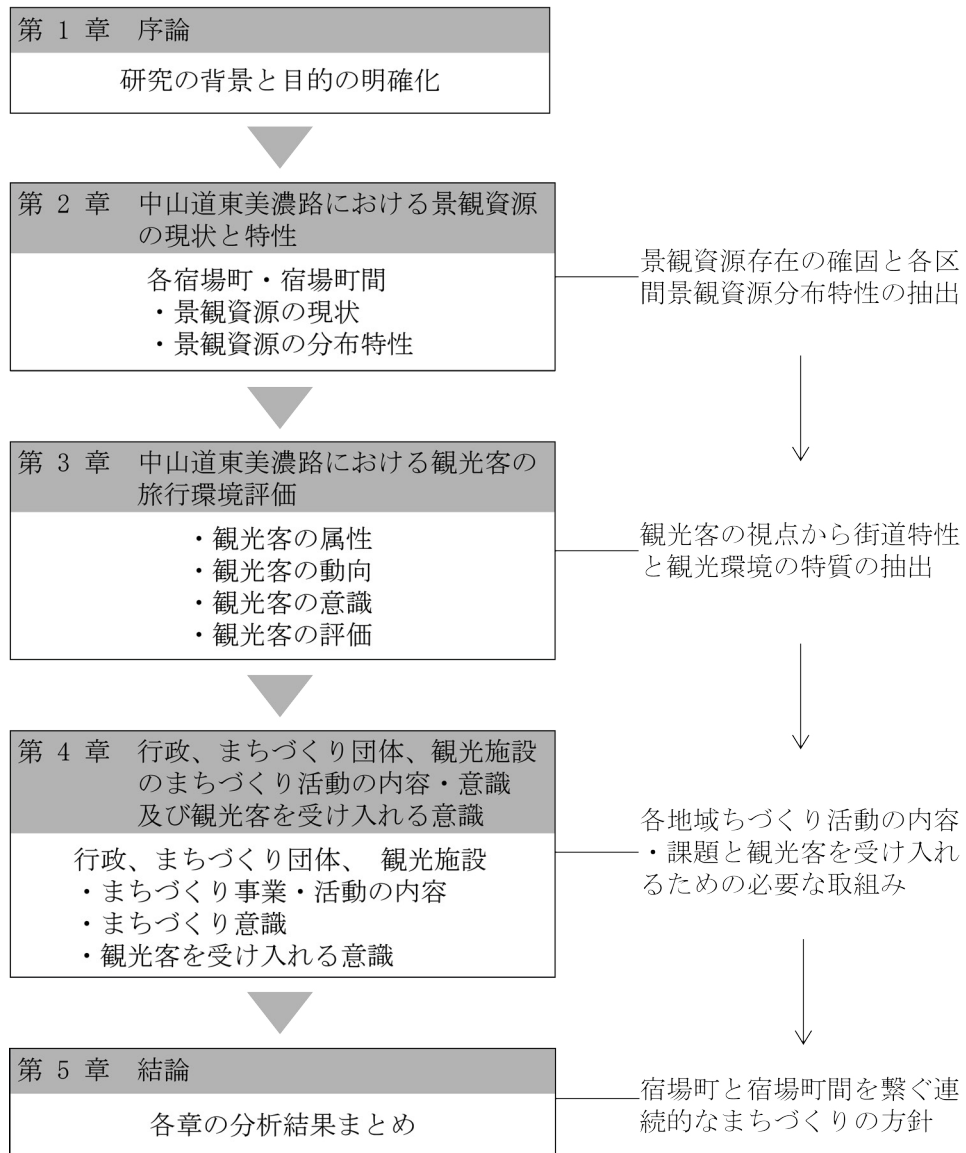


図 1-4-1 研究の構成

## 第5節 既往研究

本研究では、宿場町を結ぶ宿場町間の間宿を含む街道に注目している点の特徴であり新規性がある。今までの研究は木曾路に関するものが多いが、中山道東美濃路に関する研究がかなり少ない。また、中山道に関する研究においても研究対象を宿場町に注目され、宿場町間に関する研究はまだ未だ為されていない。以下それぞれの既往研究を表1-5-1に示し、上付き数字は表の番号に対応できる。

### (1) 中山道東美濃路研究

中山道東美濃路の宿場町に関する調査研究としては、小寺らの妻籠宿の民家保存計画と観光振興に関する基本調査があげられる。他に長谷川や小田らの馬籠宿、落合宿、中津川宿に関する景観要素特性、建築特性の研究、鈴木が大湫宿と細久手宿の歴史遺構についての研究を行っている。太田宿に関しては橋本が街並みや屋敷割り、横山らが景観特性、景観修景計画など、一連の研究を行っている。東美濃路を含む中山道全体に関して、道尾が旧街道の道路幅員や道路面積といった物的な特性を研究している。中山道の宿場町に着目した歴史的建造物と交通に関する既往研究は多数あるが、各宿場町の連携に関わる研究や宿場町間の歴史景観資源の魅力及び重要性についての研究は未だ為されていない。

### (2) 観光客研究

岐阜県の観光客に関する既往研究として、木曾町における観光客の動向を、和田は飛騨高山を対象に観光実態や交通状況の把握から今後の観光における課題を述べている、羽生らは白川村荻町地区において観光客の行動と視認風景から観光特性を述べている。

旧街道に関する既往研究として、道尾は、中山道の宿場町の旧街道について

道路の現状実態について述べている。

外国人の観光客に関する既往研究は、松本城に来訪した外国人観光客を対象に、観光目的やその経緯を街の特色や都市からの交通の利便性から推察している。

中山道が通る岐阜県で宿場町に着目した観光や歴史的建造物に関する既往研究は多数あるものの、宿場町間の街道の魅力及び街道を散策する観光客の動向についての研究は未だ為されていない。稲垣は「町並みが文化財ならば、それには含まれた道路もまた、そのような意味での文化財にほかならない」として宿場町だけでなく街道の重要性について言及している。

### (3) 行政・住民・観光案内施設研究

地元住民のまちづくりのに関する既往研究として、全国各地地方小都市居住地域における地元住民の環境評価や地区将来イメージ、まちづくりの意向などの研究がある。

官民協働によるまちづくりの可能性や民官学の連携による地方都市中心市街地の将来ビジョン形成に関する研究がある。岐阜県の産官学連携事業に関する研究がある。

表 1-5-1 既往研究

内容	タイトル	著者 研究者	出版社	掲載 年月	巻 頁
1 中山道 東美濃 路宿場 町の研 究	旧中山道妻籠宿の民家について：妻籠宿保存計画基本調査	小寺武久 川村力男 佐藤彰 上野邦一	日本建築学会 学術講演 梗概集	1968	p865-866
	中山道大久手・細久手の宿駅とその遺構について	鈴木楸	日本建築学会 論文報告 集	1968	p637-640
	中山道馬籠峠集落の家屋遺構	小野木重勝 金高正典 室屋千秋 澤村喜久夫 川上順一 村上修	日本建築学会 学術講演 梗概集	1986	F, p803-804
	太田宿の町並構成と屋敷割について、中山道宿駅の研究 その6	橋本敬治郎	日本建築学会 学術講演 梗概集	1987	p931-932
	地域における観光振興方策の形成に関する研究：妻籠宿の経緯分析から	三村浩史 西山徳明 久保田孝幸	日本建築学会 学術講演 梗概集	1990	p27-28
	旧中山道中津川宿・落合宿・馬籠宿の景観要素特性：街並みの景観計画に関する研究(その1)	長谷川博一 松本直司 小田憲治 前田将嗣 渡辺悠司	日本建築学会 東海支部 研究報告集	2007	p633-636
	旧中山道中津川宿・落合宿・馬籠宿の建物特性：街並みの景観計画に関する研究(その2)	小田憲治 松本直司 長谷川博一 布村圭祐 栢木亜衣	日本建築学会 東海支部 研究報告集	2007	p637-640
	歴史地区における道路利用と駐車に関する研究：街道沿いに発展した妻籠宿、奈良井、木曾平沢を事例として	道尾淳子	日本建築学会 学術講演 梗概集	2008	F1, p803-804
	歩行者専用道路の導入実施実態に関する研究：重要伝統的建造物群保存地区を事例として	道尾淳子 伊藤恭行 久野紀光	日本建築学会 計画系論 文集	2008	p1759- 1766
	中津川市本町中山道地区における住民のまちづくり実践意識：街並みの景観計画に関する研究(その3)	長谷川博一 松本直司 瀬田恵之	日本建築学会 東海支部 研究報告集	2009	p357-362

内容	タイトル	著者 研究者	出版社	掲載 年月	巻 頁
1 中山道東美濃路宿場町の研究	美濃市川湊地区の景観特性：街並みの景観計画に関する研究(その4)	高北卓軌 松本直司 岩井一樹 瀬田恵之	日本建築学会東海支部 研究報告集	2009	p597-600
	重要伝統的建造物群保存地区における空き家利活用方策に関する研究：空き家利活用方策に取り組む組織および活動に着目して	後藤将人 川島和彦	日本建築学会東海支部 研究報告集	2009	Ⅱ, p169-172
	地域連携を促す景観まちづくり方策に関する研究：(その1)恵那市山岡町における景観資源の発掘	岡田智秀 横内憲久 川島正嵩	日本建築学会学術講演 梗概集	2010	F1, p839-840
	美濃加茂市中山道太田宿の景観特性：街並み景観計画に関する研究 その1	横山太郎 松本直司 高井智代 吉永明典	日本建築学会学術講演 梗概集	2010	F1, p833-834
	美濃加茂市中山道太田宿の住民の景観づくり意向：街並み景観計画に関する研究 その2	高井智代 松本直司 吉永明典 横山太郎	日本建築学会学術講演 梗概集	2010	F1, p835-836
	美濃加茂市中山道太田宿における景観修景計画：街並み景観計画に関する研究 その3	吉永明典 松本直司 高井智代 横山太郎	日本建築学会学術講演 梗概集	2010	F1, p837-838
	木曾川沿い遊歩道整備のための中山道太田地区・今渡地区の住民意向と地区特性に関する研究：中山道東美濃地区宿場町の連携に関する研究 その1	朝倉陽 松本直司 瀬田恵之 横山太郎	日本建築学会学術講演 梗概集	2010	F1, p649-650
	中山道太田地区・今渡地区地元住民の意向に基づく木曾川沿い遊歩道整備計画条件：中山道東美濃地区宿場町の連携に関する研究 その2	瀬田恵之 松本直司 朝倉陽 横山太郎	日本建築学会学術講演 梗概集	2010	F1, p651-652
	旧街道の自動車交通対応の実態に関する研究：中山道の宿場町67宿を対象として	道尾淳子	日本建築学会学術講演 梗概集	2010	F2, p543-544
	景観計画策定後の住民・行政・専門家の協働によるまちづくり--中津川市本町中山道地区を対象として	松本直司 瀬田恵之 岩井一樹	日本建築学会技術報告 集	2010	16, p357-362

内容	タイトル	著者 研究者	出版社	掲載 年月	巻 頁
1 中山道東美濃路宿場町の研究	観光ルートの景観資源を活用したシークエンス景観に関する研究	木村愛美, 鳩心治, 小林剛士	日本建築学会 学術講演 梗概集	2011	F1, p371-372
	中山道分間延絵図にみる宿場町の境界表現に関する研究：中山道宿場町67宿を対象として	道尾淳子	日本建築学会 学術講演 梗概集	2011	F2, p575-576
	旧中山道の街路及び小景域の景観特性に関する研究：長野県木曾地域を対象として	興石和弘, 清水裕之 村山顕人	日本建築学会 学術講演 梗概集	2011	E2, p579-580
	中津川市本町中山道地区の公共部分の計画：景観計画に基づく修景実践その4	木村彰宏 松本直司 東美緒 船曳悦子 岩井一樹	日本建築学会 学術講演 梗概集	2011	F1, p345-346
	中津川市本町中山道地区における公的部分のまちづくり実践計画：街並みの景観計画に関する研究(その5)	岩井一樹 松本直司 東美緒 船曳悦子 木村彰宏	日本建築学会 東海支部 研究報告集	2011	p501-504
	景観計画に基づく街路に面する私的部分の修景実践：中津川市本町中山道地区を対象として(その2)	松本直司 船曳悦子 瀬田恵之	日本建築学会 技術報告 集	2012	18, p325-330
	山道宿場町67宿における旧街道の道路特性に関する研究：道路幅員と道路の種類にみる旧街道の今日的位置付け	道尾淳子	芸術工学会 誌	2012	p43-50
	交流施設整備による地域活性化効果の事例研究：御嵩町の中山道御嶽宿の事例	川本貴哉 鈴木博志 長谷川直樹	日本建築学会 東海支部 研究報告集	2012	p713-716
	美濃加茂市中山道太田宿における景観構成要素と街路の魅力範囲：伝統的街路景観の魅力に関する研究 その1	谷英紀 松本直司 青木一郎 横山太郎	日本建築学会 学術講演 梗概集	2012	p707-708
美濃加茂市中山道太田宿における景観構成要素と街路景観の魅力の関係：伝統的街路景観の魅力に関する研究 その2	横山太郎 松本直司 谷英紀	日本建築学会 学術講演 梗概集	2012	p709-710	

内容	タイトル	著者 研究者	出版社	掲載 年月	巻 頁
2 観光客 動向 ・ 意識 の 研究	鎌倉における観光の研究：外国人観光客に対するアンケートによる意識調査と、CVMによる鎌倉の観光資源の定量評価	江頭瑠威 三宅理一	日本建築学会 学術講演 梗概集	2005	F1, 199-200
	観光客の旅行ルートの類型化からみた観光活性化	和田章仁 池田岳史	日本建築学会 学術講演 梗概集	2007	F1, 919-920
	広島県呉市における観光の現状と課題：観光客と住民のアンケートを踏まえて	金高文香 フंक カ ロリン	地理科学	2007	62, 212-213
	観光街づくりにおける外国人観光客の評価と方向性	藤岡雄太 熊野稔	日本建築学会 中国支部 研究報告集	2007	30, 769-772
	外国人観光客に見る松本城の魅力：訪松本城外国人観光客のアンケート調査結果より	中田和子	地域総合研究	2009	10, 105-120
	高山における観光客の交通機関利用の実態	和田章仁 池田岳史	日本建築学会 学術講演 梗概集	2009	F1, 221-222
	観光客へのアンケート調査による日奈久温泉街の魅力と課題：八代市日奈久温泉街のまちづくりに関する研究 その7	角田幸子 磯田節子 下田貞幸 森山学 勝野 幸司	日本建築学会 学術講演 梗概集	2010	F1, 273-274
	観光地における街路計画に関する居住者意識の研究：出雲大社・神門通りを対象として	吉城秀治 橋本成仁 森山昌幸 西村成人	都市計画論 文集	2011	p799-804
	外国人観光客に対する案内情報サインの実態と課題：一浅草を対象として	岩本智樹 増田慎 室田昌子	都市計画報 告集	2011	9-4, p154-157
	観光客アンケートからみた世界遺産・古都ホイアンの現状と課題：ベトナム・ホイアンの町並み保存に関する調査研究 その16	内海佐和子 福川裕一	日本建築学会 学術講演 梗概集	2013	p1209 -1210
	重要文化財自由学園明日館の保存活用：利用者へのアンケート調査	山本裕喜 赤川貴雄	日本建築学会 学術講演 梗概集	2013	p655-656
箱根・宮ノ下における外国人観光客の受け入れ態勢の現状	伊藤修平 青野由季 佐藤由佳 横手麻衣子 有馬貴之 菊地俊夫	観光科学研究	2013	p183-188	



内容	タイトル	著者 研究者	出版社	掲載 年月	巻 頁
2 観光客動向・意識の研究	箱根・強羅における外国人観光客の受け入れ態勢の現状	河東宗平 雨宮尚弘 梶山桃子 川嶋裕子 塩川さところ 有馬貴之 菊地俊夫	観光科学研究	2013	p189-194
	箱根町箱根における外国人観光客の受け入れ態勢の現状	山本大地 小林菜里奈 中塚典孝 前澤由佳 有馬貴之 菊地俊夫	観光科学研究	2013	p195-200
3 行政・住民まちづくり意識	地方小都市における快適環境に関する研究：その2居住地域の環境評価と将来イメージ	桂久男 神成陽容 高橋陽子 佐藤修 北原啓司	日本建築学会学術講演梗概集	1984	p1899-1900
	歴史的町並みに関するアンケート調査結果の概要その1	大坂谷吉行	日本建築学会学術講演梗概集	1984	p217 7-2178
	仙台市中心地区における住民主体のまちづくり実践運動の報告3：まちづくりアンケートの結果から	山田晴義 高橋隆博 小松代潤吉 武田忠義	日本建築学会東北支部研究報告集	1989	52, p111-116
	市民アンケートを用いた景観整備に関する考察：景観資源に対する意向：赤穂市を事例として その3	鳴海邦碩 田端修 隆浩 楠本博 前川晃三 大和正典	日本建築学会近畿支部研究報告集	1990	p493-496
	中国山地の地域振興に関する研究：その5 出身子女の帰還意識と地域の将来像(都市計画)	篠部裕 地井昭夫 山下和也 林康文 井筒俊樹 上木薫	中国支部研究報告集	1994	18, p417-420
	地方小都市の駅周辺新市街地におけるまち環境再生に関する基礎的研究：その4・地区将来イメージとまちづくりの意向	南部繁樹 菅隆	日本建築学会学術講演梗概集	1994	p575-576
	北海道の地方都市におけるまちづくりに関する研究：八雲町・倶知安町・中標津町の住民アンケートによる比較分析	山本進一 大垣直明	日本建築学会学術講演梗概集	1998	F-1, p25-26

内容	タイトル	著者 研究者	出版社	掲載 年月	巻 頁
3 行政・住民まちづくり意識	地方小都市の歴史的市街地における現状と整備方向に関する考察	福本佳世	日本建築学会技術報告集	1999	p191-194
	住民からみた地域資源の価値に関するアンケート調査とその分析 1：福島県原町市におけるGISを活用した環境調和型まちづくりに関する実践的研究 その3	鈴木亜希子 秋田典子 田中貴宏 佐土原聡 村上處直	日本建築学会学術講演梗概集	2000	D-1, p671-672
	住民からみた地域資源の価値に関するアンケート調査とその分析 2：福島県原町市におけるGISを活用した環境調和型まちづくりに関する実践的研究 その4	秋田典子 田中貴宏 佐土原聡 村上處直	日本建築学会学術講演梗概集	2000	D-1, p673-674
	ワークショップで検討した「地域の将来像」の比較：地方都市と中山間地域における農村振興基本計画を事例として	山口忠志	日本建築学会学術講演梗概集	2003	p749-750
	歴史的資源を活かした地域活性化の経緯と課題：新潟県村上市を事例として	梅宮路子, 岡崎篤行	日本建築学会学術講演梗概集	2003	p239-240
	北九州学術研究都市のまちづくりのための周辺住民の意識調査：その2 認知度、利用状況、今後の要望に関する分析結果	平田裕二 大貝保志 河原真紀子 白石靖幸 原田昌幸	日本建築学会学術講演梗概集	2004	F1, p831-832
	協働のまちづくりを目的とした地域主体の関係構築に向けた取り組み：市川市行徳地区を対象として	金子拓史 森永良丙	日本建築学会関東支部研究報告集	2005	II, p253-256
	NPO活動に関する活動団体及び住民・市民の意識調査：住民・市民による持続した活動へ向けて	新福泰雅 田中直人	日本建築学会近畿支部研究報告集	2005	p641-644
	古河市における雪のまちづくりと住民意識に関する研究	松村光太郎	日本建築学会学術講演梗概集	2005	F1, p1041-1042
	小地域におけるまちづくり計画策定の課題と展望：北九州市N校区の事例を手がかりに	樋口真己	西南女学院大学紀要	2006	10, p65-73
名古屋市白壁町並み保存地区におけるまちづくり方策の研究（その1）：アンケート調査にみる住民意識の実態	吉村輝彦 井上恵介 太田明 兼田敏之	日本建築学会学術講演梗概集	2006	p381-382	

内容	タイトル	著者 研究者	出版社	掲載 年月	巻 頁
3 行政・ 住民 まち づくり 意識	民官学の連携による地方都市中心市街地の将来ビジョン形成に関する研究：喜多方における地域資源を活かしたまちづくりの実践 その6	永瀬節治 早坂勝一 鄭一止 野原卓 柴田直	日本建築学会 学術講演 梗概集	2006	F1, p1029- 1030
	岐阜における地域支援のための公共空間創出のモデルづくり：岐阜地域の地域活性化に資する産官学連携事業に関わる研究 その2	小笠原伸 廣瀬康之 藪野健	日本建築学会 学術講演 梗概集	2006	F1, p35-36
	市民団体による地域将来像の連続的提案活動の実態に関する研究：杉並区「まち夢」による市民版マスタープラン提案から市民版緑の基本計画提案への展開に着目して	岡本肇 有賀隆 村山顕人 清水裕之	日本建築学会 東海支部 研究報告集	2007	p609-612
	中山間地域における定住意向別にみたまちづくりに対する住民意識の研究：新城市総合計画策定のための住民アンケートの分析	李壮 谷武 大貝彰 江本晃美 間藤辰則	日本建築学会 東海支部 研究報告集	2008	46, p653-656
	文化遺産を活用した官民協働によるまちづくりの可能性：福岡県太宰府市を事例として	武藤亜弓 西山徳明	日本建築学会 九州支部 研究報告集	2010	p409-412
	美濃加茂市中山道太田宿の住民の景観づくり意向：街並み景観計画に関する研究 その2	高井智代 松本直司 吉永明典 横山太郎	日本建築学会 学術講演 梗概集	2010	p835-836
	地区レベルのまちづくりを支援する情報の整備・公開のあり方に関する研究：自治体を対象としたアンケート調査に基づく分析	佐藤真帆 田中貴宏 西名大作	日本建築学会 中国支部 研究報告	2011	34, p709-712
	まちづくり活動に対する住民意識の調査と考察：京都・明倫学区における取り組み	山本貴大 佐々木厚司	日本建築学会 近畿支部 研究報告集	2012	計画系, p505-508
	観光地における地域ブランド構築の内部関係者による資源活用パターンと課題構造に関する研究：関東・甲信越地域の市町村を対象として	崔瑛 岡本直久	都市計画論 文集	2012	47, p105-116
市町村合併を実施した地方小都市における課題の整理：福島県田村市におけるまちの将来像検討-その1	久野恭平 遠藤友里恵 小笠原玲子 清水亮 清家剛 岡本祐輝	日本建築学会 学術講演 梗概集	2013	p29-30	

内容	タイトル	著者 研究者	出版社	掲載 年月	巻 頁
3 行政・ 住民 まち づくり 意識	市町村合併を実施した地方小都市における将来像提案とそのプロセス：福島県田村市におけるまちの将来像検討-その2	井上雄仁 宮崎智裕 清水亮 清家剛 田中大朗	日本建築学会 学術講演 梗概集	2013	p31-32
	島根県安来市母里と広瀬の歴史的な町並み地区での多世代居住への意識に関する比較考察	細田智久	日本建築学会 学術講演 梗概集	2013	p1433 -1434
	重要伝統的建造物群保存地区における空き家の観光施設への転用実態に関する研究：官民の連携に着目して	金子晟也 川島和彦	日本建築学会 関東支部 研究報告集	2014	84, p281-284
	河内長野市における産官民連携によるコミュニティ防災拠点整備に向けた活動報告	紅谷昇平	日本建築学会 学術講演 梗概集	2014	p71-72
	地方小都市における環境に配慮した住民参加型まちづくりの技法(その1) 住民アンケートに基づく生活環境評価	内田和音 田中貴宏 佐土原聡	日本建築学会 中国支部 研究報告	2015	38, p741-744
	まちづくり拠点の役割と体制の変化：柏の葉アーバンデザインセンターによる公・民・学連携型まちづくりの経過 その1	三牧浩也 岡本祐輝 砂川亜里沙 出口敦	日本建築学会 学術講演 梗概集	2013	p273-274

## 第1章に関する参考・引用文献

- 1) 岐阜県教育委員会：歴史の道中山道調査報告書，岐阜県教育委員会，1979.3
- 2) 太田三郎：中山道：美濃十六宿，大衆書房，1969.2
- 3) 太田三郎、安藤利道：定本中山道美濃十六宿，郷土出版社，1997
- 4) 松尾一：岐阜県の中山道（新版），まつお出版社，1993.7
- 5) 太田博太郎・小寺武久：妻籠宿一その保存と再生一，彰国社，1984
- 6) 恵那市：歴史の道 中山道保存整備事業報告書，恵那市，1992
- 7) 中津川市：歴史の道 中山道整備事業報告書，中津川市，1996
- 8) 瑞浪市：歴史の道 中山道保存整備事業報告書，瑞浪市，2008
- 9) 武川典靖：中津川の中山道，歴史の道楽学楽遊倶楽部，2002
- 10) 藤島亥志郎：中山道 宿場と途上の踏査研究，東京堂出版，1997.9
- 11) 山口村誌上巻編纂委員会：山口村誌上巻，山口村誌上巻編纂委員会，1995
- 12) 山口村誌上巻編纂委員会：山口村誌 下巻，山口村誌上巻編纂委員会，1995
- 13) 中津川市：中津川市史 上巻，中津川市，1968
- 14) 中津川市：中津川市史 中巻Ⅰ，中津川市，1988
- 15) 中津川市：中津川市史 中巻Ⅱ，中津川市，1988
- 16) 恵那市史編纂委員会：恵那市史 史料編，恵那市，1993
- 17) 瑞浪市：瑞浪市史 史料編，瑞浪市，1972
- 18) 瑞浪市：瑞浪市史 歴史編，瑞浪市，1974
- 19) 御嵩町史編纂委員会：御嶽町史，御嵩町，1959.11
- 20) 美濃加茂市：美濃加茂市史 史料編，美濃加茂市史，1977

## 第2章

### 中山道東美濃路における景観資源の現状と特性



## 第1節 はじめに

中山道東美濃路においては数多くの歴史景観資源が残され、当時の面影を残している。近年の自動車交通の普及もそれを後押しし、衰退した木曾路などの宿場町を始め、新たな観光地として再び賑わっている。中山道東美濃路も木曾路の延長として観光地化へ向けて新たに脚光を浴びてきている。また、中山道東美濃路は景観計画の策定で中山道に対する地元の関心が高まり、さらに、リニア中央新幹線駅が中津川市美乃坂本駅への設置決定がきっかけとなり、地域おこしの波が一気に高まっている。地元の生活環境を豊かにするとともに、この地域への訪問客を増大させ、地域が一体となった新たな文化創造をすることが可能となっている。

本章では、宿場町だけではなく、宿場町を結ぶ宿場町間の間宿を含む街道にも注目している。中山道東美濃路の観光資源として価値あるものにするために文献調査と現地踏査調査を行い、木曾路と繋がる東美濃路における歴史資源の分布図の作成と、その特性を把握することで、各区間の特質を明確化することを目的とする。

続く第3章の国内外の来訪者が東美濃路地域についての観光評価及び第4章の行政、住民まちづくり団体などの歴史まちづくり意識を明らかにすることにより、地域の価値を高めることができると確信している。その第一歩として、景観資源の存在を確固とし、その特性を分析し、基礎資料として確固とすることが重要である。

### (1) 中山道東美濃路の景観資源についての研究

中山道東美濃路の宿場町に関する調査研究としては、妻籠宿の民家保存計画と観光振興に関する基本調査があげられる〔参考文献1、2〕。他に馬籠宿、落合宿、中津川宿に関する景観要素特性、建築特性の研究、大湫宿と細久手宿の歴史遺構



についての研究が行われている〔参考文献3、4、5〕。太田宿に関しては街並みや屋敷割り景観特性、景観修景計画など、一連の研究が行われている〔参考文献6、7、8、9〕。東美濃路を含む中山道全体に関して、旧街道の道路幅員や道路面積といった物的な特性が研究されている〔参考文献10、11〕。中山道の宿場町に着目した歴史的建造物と交通に関する既往研究は多数あるが、各宿場町の連携に関わる研究や宿場町間の歴史景観資源の魅力及び重要性についての研究は未だなされていない。

## (2) 用語の定義

中山道美濃路は、第1章の項で記述したように落合宿から今須宿までの32里(約128km)で、中山道全体の約4分の1に相当するが、本研究で対象とする中山道東美濃路では、岐阜県東濃地方の落合宿から太田宿まで、さらに木曾路の最西端に位置する妻籠宿と馬籠宿を加えた約70kmの旧中山道沿道地域とする。

国土交通省令で定義される景観資源は、「地域の自然、歴史、文化等からみて、外観が景観上の特徴を有し景観計画区域内の良好な景観の形成に重要なものであること」とされている。本研究は国土交通省令の定義に基づいて、国や県、市、町指定文化財、天然記念物、及び文献資料等で扱っている資源が地元で認められた資源であるとして、これらを抽出し、さらに、調査員による抽出資源を加えたものとする。

本研究の景観資源は、地元で認められているものが重要であると考え、国土交通省令の景観資源の定義に従い、まず調査地区に関わる図書、観光マップ・パンフレットなどの地元の紹介資料から景観資源を収集し、地図上に記録した。さらに、5人の調査員が現地踏査調査を行い、収集資源の存在状況を確認するとともに、新たに地蔵、石仏など良い景観を構成していると考えられるもの、銘文をともなっている要素や道標、常夜灯など、資料に漏れている景観要素を資源として追加した。

ただし、研究対象とした中山道地域周辺にある御嶽山、恵那山、笠置山などの

山は眺望資源として中山道沿道各地で姿を現すが、どの区間に属するのかが判然としないため、本研究では、これらの山は自然景観資源の構成要素に含んでいない。

歴史景観資源としての伝統的建物については、妻籠宿は重要伝統的建造物群保存地区として価値が高い伝統的建物を中心に宿場町全体の歴史的環境が保存、整備されている。しかし、他の宿場町間は伝統的建物について研究調査が必ずしも十分でないため、十分に把握されていない場合が多く、本研究では伝統的建物は国登録有形文化財、国指定文化財、県指定文化財、市指定文化財、市指定の景観重要建築物、町指定文化財などのみを対象とした。

峠、岩、池などの自然物は名称、由来が文献資料や観光マップ・パンフレットに記されているものを地元が重要な景観として認識していると考え、抽出した。

対象地区にある橋は、江戸時代に造られた木橋、石橋はすでに朽ち、現存するものはほとんど景観資源として重要でないと判断した。一部の妻籠橋、落合橋、太田橋などの近代から建てられたものであっても、文献資料や観光マップ・パンフレットの道しるべとして掲載され、重要であると考えられるが、ごく少数であるため、除いた。

樹木は中山道沿道に極めて多量に存在するが、地元住民や行政団体が認める樹木は限られている。地元文献資料や観光マップ・パンフレットにあげられたものや現地に銘板が掲げられた樹容や樹齢、樹種などに特徴があるもの、国や県、市、町によって指定されているものを本研究では抽出した。

## 第2節 中山道東美濃路における景観資源の現状について踏査調査

本節では中山道東美濃路の妻籠宿から太田宿までの10宿場町及びその9宿場町間にある景観資源の現状を把握するために、資料収集、現地踏査をそれぞれ行い、さらに、文献資料に記述された資源の存在有無についての検証調査を行っている。

### 2-2-1 調査対象と調査方法

調査対象：

調査対象は中山道の妻籠宿から太田宿に至る、約70kmの東美濃路である。この区間に、10宿場町、9宿場町間が存在し、馬籠峠、十曲峠、十三峠、琵琶峠等を経る山中が多く、これまで開発もゆっくりと進展してきた。そのため、東海道と比較して往時の歴史景観や雰囲気がよく残されている。

調査内容：

調査内容を表2-2-1に示す。

#### (1) 資料収集方法

南木曾町、中津川市、恵那市、瑞浪市、御嵩町、美濃加茂市の地元図書館、観光協会、観光案内所、観光センター、電車駅から、中山道東美濃路の道筋と景観資源に関わる図書5点、観光マップとパンフレット33点を収集した。収集した旧中山道道筋と景観資源の名称、場所をゼンリン住宅地図に書き込んだ。

#### (2) 現地踏査方法

東美濃路を一体とした景観資源の資料を作るために、資料収集から得たゼンリン住宅地図に基づき、徒歩により対象区間における景観資源の現状とその名称、

場所について、延べ6日にわたる現地踏査を行った。

中山道を歩いて対象地域における街道に関する資料収集を行い（徒歩環境）、景観資源について写真を撮影した。

景観資源調査：樹木、歴史建造物、一里塚、遺跡、伝統環境、文化財など

施設現況調査：鉄道駅、バス停、渡し場、駐車場、土産物屋、商店、食堂、喫茶店、  
酒屋、飲み屋、旅館、ホテル、公衆トイレなど

中山道実態調査：徒歩、鉄道利用、バス利用、自家用車利用、木曾川利用  
旧街道とバイパスの関係、道幅、距離

### （3）検証調査

正確な景観資源の名称、位置を把握するため、景観資源についての現地調査の検証を行った。

対象地域を宿場町と宿場町間に分け、調査日数は延べ8日間である。

表2-2-1 中山道東美濃路における景観資源現状調査概要

調査日	調査区間	収集資料	調査内容		
H24. 3. 28 29 30 5. 12 13 5. 20	現地踏査調査	図書： *道しるべの旅：稲神和子, 1982. 7 *岐阜県の中山道：松尾一, まつお出版, 1993. 8 *美濃路をゆく：児玉幸多, 学習研究社, 2001. 5 *中山道を歩く 下：安斎達雄, 学習研究社, 2002. 6 *中山道を歩く旅：栗津彰司, 山と溪谷社, 2008. 11	現地踏査調査： 調査員：4名 調査時間：8時～18時 調査目的：観光地図、パンフレット及び関連図書に及んでない景観資源を把握する。 調査方法：観光マップ、パンフレット及び関連図書に基づき、徒歩による対象区間における景観資源の名称、場所について		
	↑ B～V ↓			観光マップ・パンフレット： 南木曾町 南木曾町観光協会 3点 妻籠観光案内所 2点 中津川市 中津川市観光センター 6点 中山道歴史資料館 1点 中津川駅 3点 恵那市 恵那市観光案内所 2点 中山道ひし屋資料館 1点 恵那駅 2点 瑞浪市 瑞浪市観光協会 3点 大湫コミュニティセンター 1点 瑞浪駅 1点 御嵩町 御嵩町観光案内所 2点 美濃 美濃太田市観光協会 3点 みのかも観光案内所 2点 太田市 中山道会館 1点 美濃太田駅 2点	
	↑ F～J ↓				の現状調査を行い、また、中山道沿道路面材料と土地利用状況をGARMINハンディGPS及びゼンリン住宅地図に記録する。 検証調査： 調査員：2名 調査時間：8時～18時 調査目的：正確な景観資源情報を把握する。 調査方法：現地踏査調査による収集した景観資源の名称、位置を一体とした中山道ルート地図の作成による徒歩として景観資源の名称、位置の正確さ及び中山道沿道路面材料と土地利用状況を再確認する。
	↑ A～I ↓				
宿場町検証調査	宿場町間検証調査				
H25. 5. 16 5. 28 6. 5 H27. 4. 4 4. 11 12 4. 16 4. 21	↑ A～D ↓	宿場町間検証調査	宿場町間検証調査		
	↑ D～F ↓				
	↑ F～J ↓				
	↑ VIII、IX ↓				
	↑ V、VI、VII ↓				
↑ III、IV ↓					
↑ I、II ↓					

## 2-2-2 各宿場町及び宿場町間の景観資源数

以上の調査、検証により中山道東美濃路各宿場町と宿場町間の景観資源数を集計し、その比率と密度を算出した結果を図2-2-1に示す。宿場町の景観資源数は計117で、全景観資源総数の24.7%である。宿場町間の景観資源数は計357で、全景観資源総数の75.3%である。宿場町より宿場町間の景観資源数は多くなっている。これを密度に換算すると、宿場町の景観資源は、宿場町間を上回っている。宿場をつなぐ宿場間においても豊かな景観資源が存在し、密度は低くなることわかる。

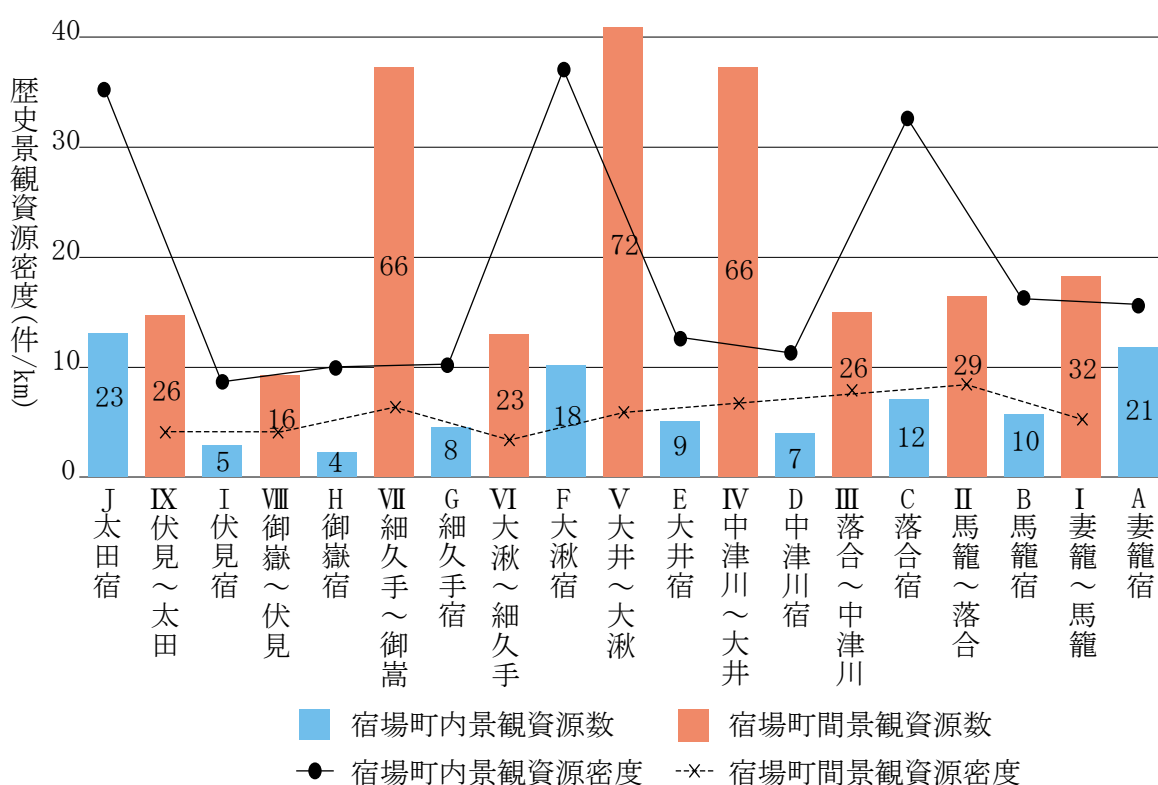


図2-2-1 宿場町間における調査時期と調査場所

### 第3節 中山道東美濃路における景観資源の現状分布状況

本節では中山道東美濃路の各宿場町及び宿場町間にある景観資源の名称、場所、周辺状況などの分布状況、景観資源数と密度の特徴を明らかにする。

#### 2-3-1 景観資源の分布図

現地踏査、検証調査により得られた中山道東美濃路の旧中山道ルートと景観資源の名称と位置を把握したものを図2-3-1(a)～(c)に示す。すべての景観資源を用途により「峠」、「坂」、「池」などの「自然物」、「寺院」、「文化財」などの「歴史建造物」、「道祖神」、「地藏」などの「象徴物」、「一里塚」、「碑」などの「歴史街道要素」、「城跡」、「番所跡」などの「遺跡」の5項目に分類した。

宿場町の特徴においては、「歴史街道要素」が多く、「自然物」が少ない。A妻籠宿、F大湫宿、J太田宿の景観資源密度が比較的高い。H御嶽宿、I伏見宿の景観資源密度が比較的低い。重要伝統的建造物群保存地区であるA妻籠宿、島崎藤村の小説「夜明け前」の舞台としたB馬籠宿、木曾川沿いのJ太田宿は比較的多くの観光客数が訪れられる宿場町である。C落合宿、D中津川宿、E大井宿は往時をしのぶ家並みが残っている宿場町である。F大湫宿、G細久手宿は往時の風情を感じることのできる、山あいの静かな宿場町である。I伏見宿は国道が通貫された宿場町である。

宿場町間の特徴においては、「歴史街道要素」が多く、「遺跡」が少ない。II馬籠～落合、III落合～中津川、V大井～大湫、VII細久手～御嶽の景観資源密度が比較的高い。VI大湫～細久手、VIII御嶽～伏見、IX伏見～太田の景観資源密度が比較的低い。II馬籠～落合、III落合～中津川は山道が少なく、比較的距離の短い区間である。次に、I妻籠～馬籠、V大井～大湫、VII細久手～御嶽はアップダウンの激しい山間部が多く、比較的距離の長い区間である。VI大湫～細久手、VIII御嶽～伏見、IX伏見～太田は平坦な国道沿い道が多い。



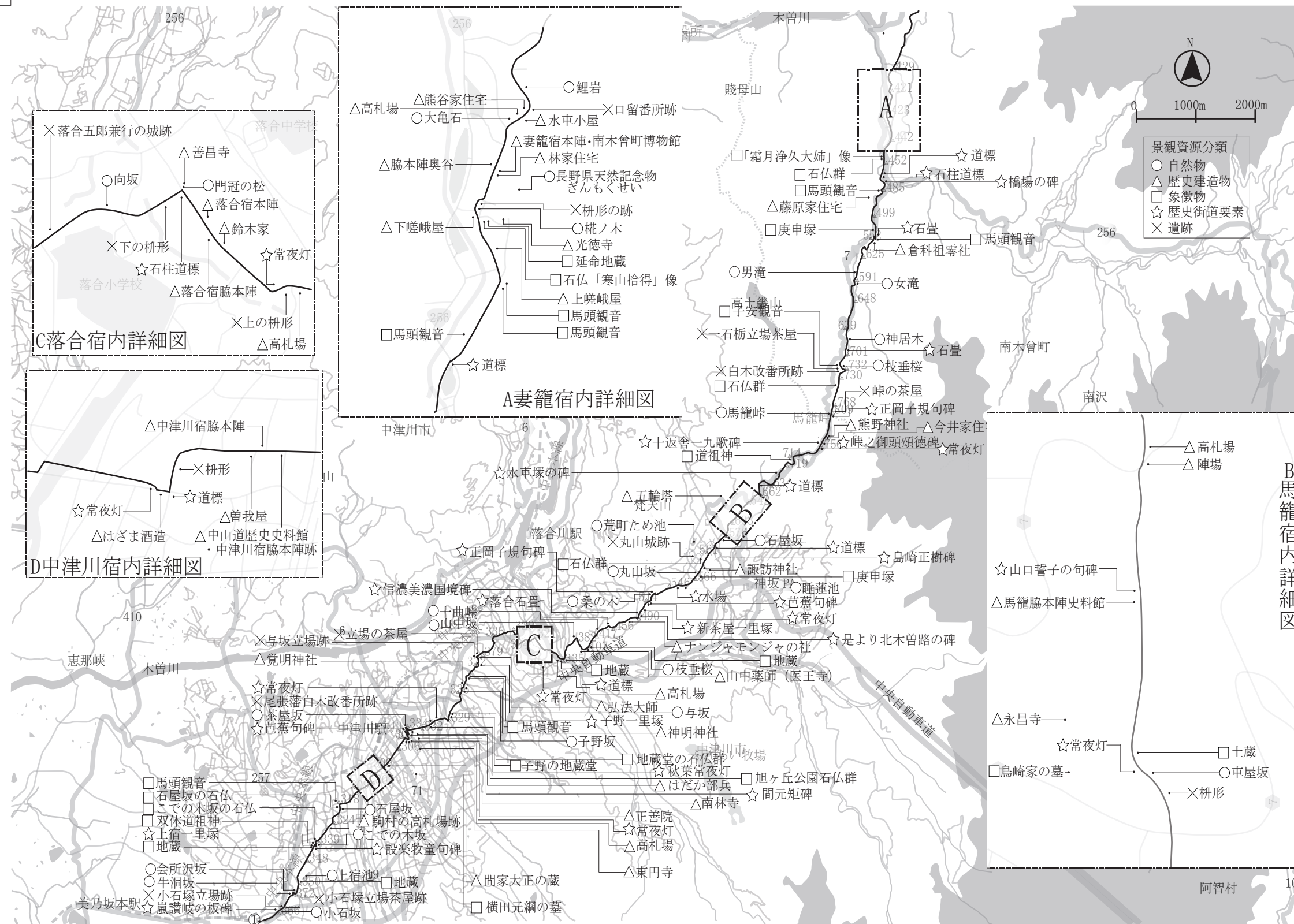


図 2-3-1 (a) 中山道東美濃路における景観資源分布 (妻籠宿～中津川宿～)



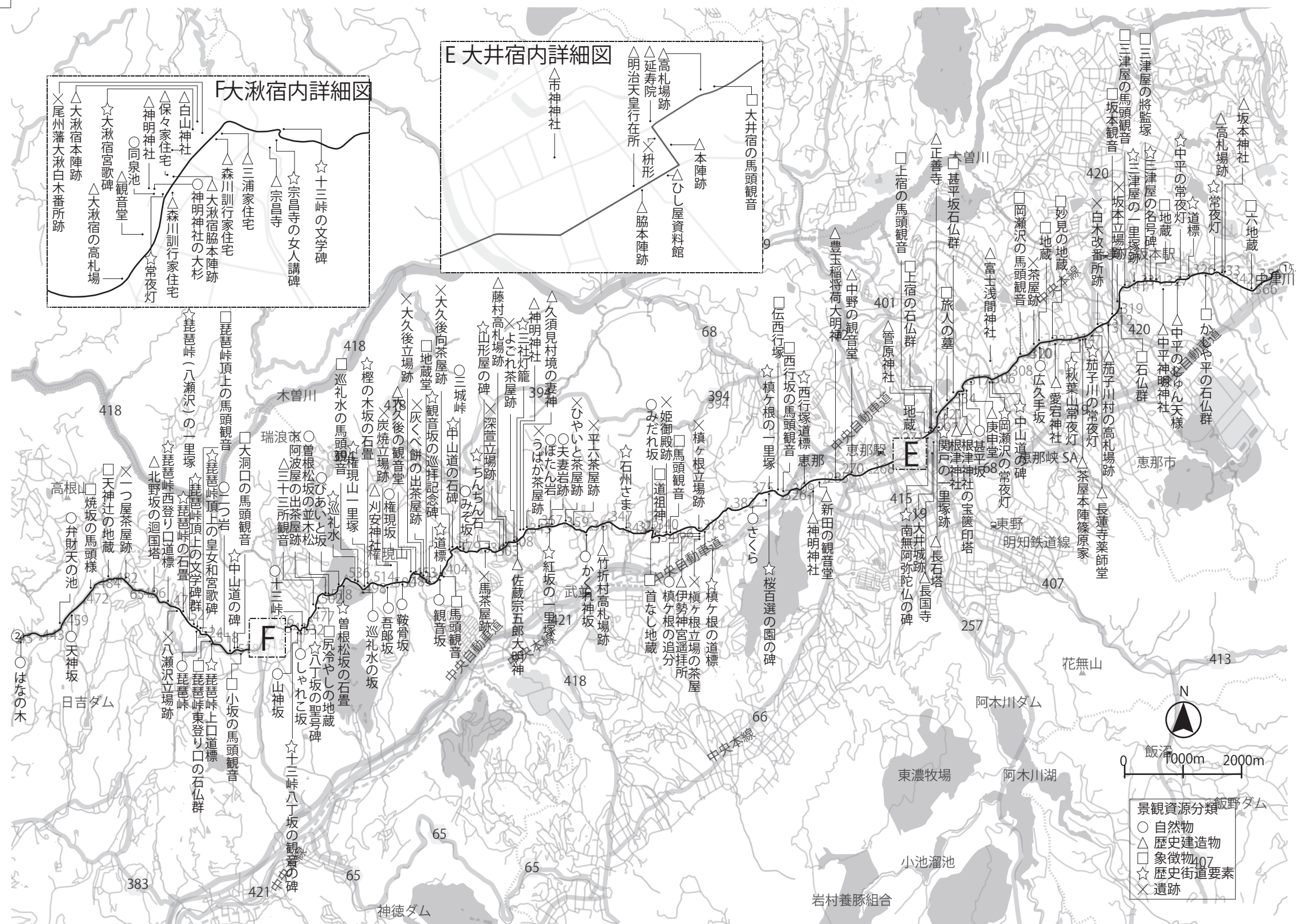


図2-3-1(b) 中山道東美濃路における景観資源分布(～大井宿～大湫宿～)



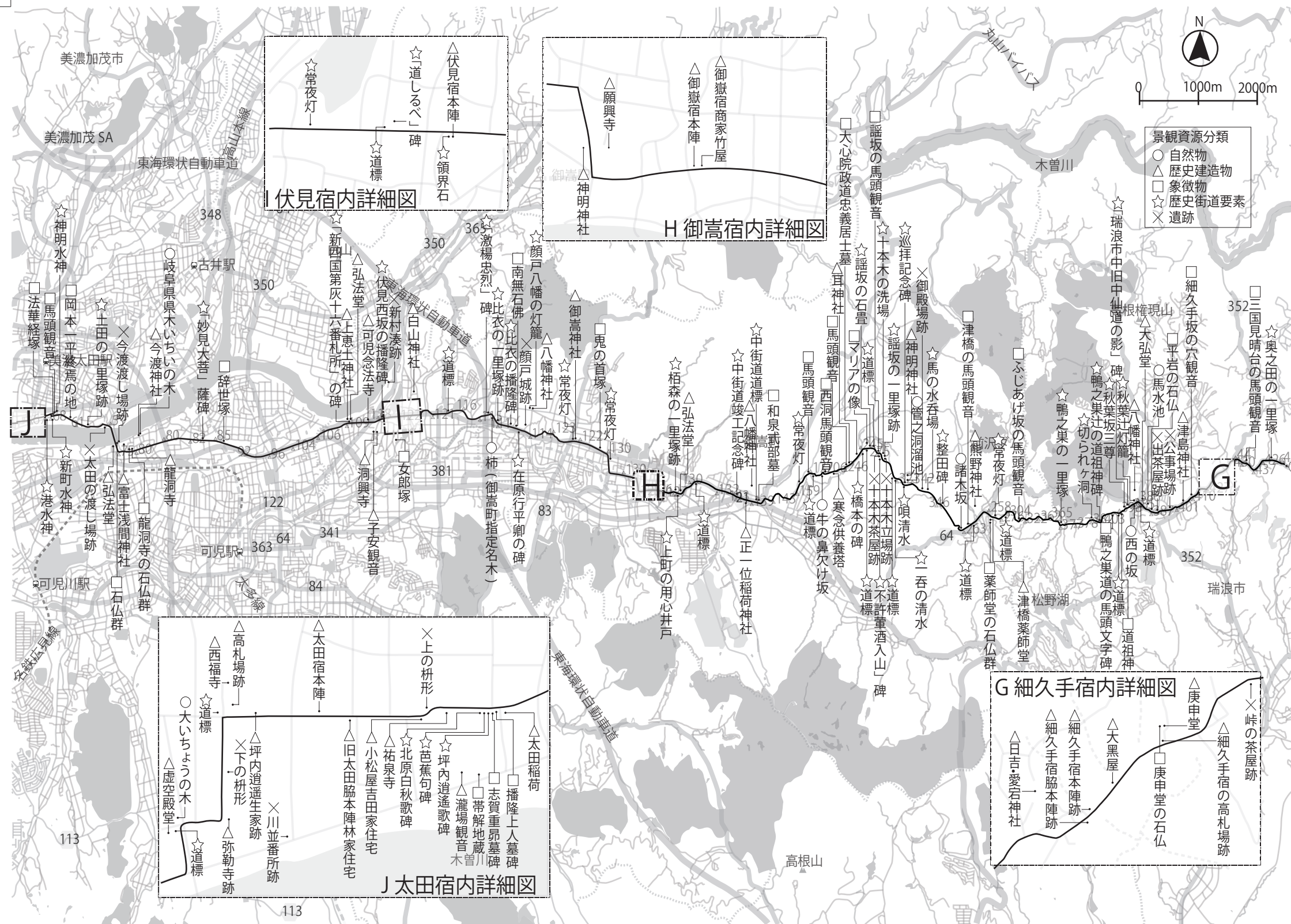


図2-3-1(c) 中山道東美濃路における景観資源分布(～細久手宿～太田宿)

## 2-3-2 景観資源の集計

宿場町と宿場町間の特性を明らかにするために、地区ごとに景観資源の数、比率、密度と路面材料の距離、比率を集計、算出した結果を表2-3-1(a)～(d)に示す。また、31種類の景観資源を「自然物」、「歴史建造物」、「象徴物」、「歴史街道要素」、「遺跡」の5項目に分類し、集計した。各宿場町の分布密度が高い景観資源の特徴としては、A妻籠宿、F大湫宿が「文化財」である。B馬籠宿が「本陣・脇本陣」である。C落合宿が「枡形」である。D中津川宿が「文化財」である。E大井宿が「寺院」、「文化財」である。G細久手宿、H御嶽宿、J太田宿が「寺院」である。I伏見宿が「碑」である。

宿場町間の分布密度が高い景観資源は、Ⅰ妻籠宿～馬籠宿、Ⅱ馬籠宿～落合宿が「碑」である。Ⅲ落合宿～中津川宿、Ⅳ中津川宿～大井宿、Ⅶ細久手宿～御嶽宿、Ⅸ伏見宿～太田宿が「寺院」である。Ⅴ大井宿～大湫宿が「坂」である。Ⅵ大湫宿～細久手宿が「馬頭観音」である。Ⅷ御嶽宿～伏見宿が「寺院」、「常夜灯」、「碑」である。

全体については、計474件の景観資源があり、平均分布密度は6.8件/kmである。中山道東美濃路で最も豊かな景観資源は「歴史街道要素」で計136点、線密度1.95件/kmである。次に、「歴史建造物」で計135点、線密度1.94件/kmである。

表 2-3-1 (a) 中山道東美濃路における宿場町及び宿場町間の景観資源数と密度の集計

分類	区間	A妻籠宿			I 妻籠 ～ 馬籠			B馬籠宿			II 馬籠 ～ 落合			C落合宿		
		数	比率	密度	数	比率	密度	数	比率	密度	数	比率	密度	数	比率	密度
自然物	峠				1	3	0.16				1	3	0.29			
	坂							1	10	1.63	3	10	0.87	1	8	2.51
	岩	2	10	1.57												
	滝				2	6	0.32									
	池										2	7	0.58			
歴史建造物	樹木	2	10	1.57	2	6	0.32				2	7	0.58	1	8	2.51
	寺院	1	5	0.79	3	9	0.48	1	10	1.63	3	10	0.87	1	8	2.51
	観音堂				1	3	0.16									
	本陣・脇本陣	2	10	1.57				2	20	3.25				2	17	5.03
	文化財	5	24	3.93	2	6	0.32							1	8	2.51
象徴物	高札場	1	3	0.79				1	10	1.63	1	3	0.29	1	8	2.51
	石仏群				2	6	0.32				1	3	0.29			
	地蔵	1	5	0.79				1	10	1.63	2	7	0.58			
	道祖神				1	3	0.16									
	馬頭観音	3	14	2.36	2	6	0.32									
	石像	1	5	0.79	1	3	0.16									
歴史街道要素	塚				1	3	0.16				1	3	0.29			
	墓							1	10	1.63						
	常夜灯				1	3	0.16	1	10	1.63	2	7	0.58	1	8	2.51
	一里塚										1	3	0.29			
	道標	1	5	0.79	3	9	0.48				2	7	0.58	1	8	2.51
	碑				5	15	0.79	1	10	1.63	5	17	1.45			
遺跡	石畳				2	6	0.32				1	3	0.29			
	水場										1	3	0.29			
	城跡										1	3	0.29	1	8	2.51
	枅形	1	5	0.79				1	10	1.63				2	17	5.03
	番所跡	1	5	0.79	1	3	0.16									
	立場跡															
路材 面料	姫御殿跡															
	渡し場跡															
	茶屋跡				2	6	0.32									
	合計	21		16.5	32		5.07	10		16.3	29		8.40	12		30.2
		距離	比率	距離	比率	距離	比率	距離	比率	距離	比率	距離	比率	距離	比率	
路材 面料	土				3009		48									
	石畳				1271		20	615		100	790		23			
	アスファルト	1273		100	2027		32				2664		77	398		100
合計		1273			6307			615			3454			398		
		単位		数：件		比率：%		密度：件/km				距離：m				

表 2-3-1 (b) 中山道東美濃路における宿場町及び宿場町間の景観資源数と密度の集計

分類	区間	Ⅲ 落合 ～中津川			D 中津川宿			Ⅳ 中津川 ～大井			E 大井宿			V 大井 ～大湫		
		数	比率	密度	数	比率	密度	数	比率	密度	数	比率	密度	数	比率	密度
自然物	峠												2	3	0.16	
	坂	3	12	0.84				7	11	0.72				11	15	0.90
	岩													3	4	0.25
	滝															
	池							1	2	0.10						
歴史建造物	樹木												2	3	0.16	
	寺院	7	27	1.96				12	18	1.23	2	22	2.81	7	10	0.57
	観音堂							1	2	0.10				4	6	0.33
	本陣・脇本陣				2	29	3.73				2	22	2.81			
	文化財	1	4	0.28	2	29	3.73	1	2	0.10	2	22	2.81			
象徴物	高札場	1	4	0.28				3	5	0.31	1	11	1.41	2	3	0.16
	石仏群	2	8	0.56				6	9	0.61						
	地藏	1	4	0.28				8	12	0.82				3	4	0.25
	道祖神							1	2	0.10				1	1	0.08
	馬頭観音	1	4	0.28				4	6	0.41	1	11	1.41	4	6	0.33
	石像															
	塚							1	2	0.10				1	1	0.08
歴史街道要素	墓	1	4	0.28				1	2	0.10						
	常夜灯	3	12	0.84	1	14	1.87	5	8	0.51				1	1	0.08
	一里塚	1	4	0.28				3	5	0.31				3	4	0.25
	道標				1	14	1.87	1	2	0.10				3	4	0.25
	碑	2	8	0.56				5	8	0.51				8	11	0.66
	石畳													2	3	0.16
遺跡	水場													1	1	0.08
	城跡							1	2	0.10						
	枅形				1	14	1.87				1	11	1.41			
	番所跡	1	4	0.28				1	2	0.10						
	立場跡	1	4	0.28				2	3	0.20				4	6	0.33
	姫御殿跡													1	1	0.08
	渡し場跡															
路材 面料	茶屋跡	1	4	0.28				2	3	0.20				9	13	0.74
	合計	26		7.29	7		13.1	66		6.75	9		12.7	72		5.90
			距離	比率		距離	比率		距離	%		距離	比率		距離	比率
	土							130	1					5845	48	
路材 裏料	石畳	311	9					98	1					651	5	
	アスファルト	3256	91		536	100		9550	98		711	100		5706	47	
	合計	3567			536			9778			711			12202		
		単位	数：件		比率：%		密度：件/km				距離：m					



表 2-3-1 (c) 中山道東美濃路における宿場町及び宿場町間の景観資源数と密度の集計

分類	区間	F大湫宿			VI大湫 ～細久手			G細久手宿			VII細久手 ～御嶽			H御嶽宿		
		数	比率	密度	数	比率	密度	数	比率	密度	数	比率	密度	数	比率	密度
自然物	峠				1	4	0.15									
	坂				1	4	0.15				3	5	0.28			
	岩				1	4	0.15									
	滝															
	池	1	6	2.07	1	4	0.15				2	3	0.19			
歴史建造物	樹木	1	6	2.07	1	4	0.15									
	寺院	3	17	6.22	1	4	0.15	2	25	2.51	11	17	1.03	2	50	4.89
	観音堂	1	6	2.07												
	本陣・脇本陣	2	11	4.15				2	25	2.51				1	25	2.44
	文化財	4	22	8.30				1	13	1.26				1	25	2.44
高札場	1	6	2.07				1	13	1.26							
象徴物	石仏群				1	4	0.15	1	13	1.26	2	3	0.19			
	地藏				1	4	0.15				1	2	0.09			
	道祖神										1	2	0.09			
	馬頭観音				5	22	0.74				7	11	0.66			
	石像										1	2	0.09			
	塚															
歴史街道要素	墓										2	3	0.19			
	常夜灯	1	6	2.07							3	5	0.28			
	一里塚				2	9	0.29				3	5	0.28			
	道標				2	9	0.29				10	15	0.94			
	碑	3	17	6.22	3	13	0.44				9	14	0.84			
	石畳				1	4	0.15				1	2	0.09			
	水場										5	8	0.47			
遺跡	城跡															
	枅形															
	番所跡	1	6	2.07												
	立場跡				1	4	0.15				1	2	0.09			
	姫御殿跡										1	2	0.09			
	渡し場跡															
路材 面料	茶屋跡				1	4	0.15	1	13	1.26	3	5	0.28			
	合計	18		37.3	23		3.39	8		10.1	66		6.19	4		9.78
			距離	比率		距離	比率		距離	比率		距離	比率		距離	比率
	土		62	13		531	8					4087	38			
石畳					695	10					392	4				
アスファルト		420	87		5568	82		796	100		6176	58		409	100	
合計		482			6794			796			10655			409		

単位 数：件 比率：% 密度：件/km 距離：m

表2-3-1(d) 中山道東美濃路における宿場町及び宿場町間の景観資源数と密度の集計

分類	区間	Ⅷ御嶽 ～伏見			Ⅰ伏見宿			Ⅸ伏見 ～太田			Ⅱ太田宿			合計		
		数	比率	密度	数	比率	密度	数	比率	密度	数	比率	密度	数	比率	密度
自然物	峠												5	1	0.07	
	坂												30	6	0.43	
	岩												6	1	0.09	
	滝												2	0	0.03	
	池												7	1	0.10	
歴史建造物	樹木	1	6	0.24				1	4	0.16	1	4	1.46	14	3	0.20
	寺院	3	19	0.73				8	31	1.27	4	17	5.86	71	15	1.02
	観音堂							1	4	0.16	1	4	1.46	9	2	0.13
	本陣・脇本陣				1	20	1.72				2	9	2.93	18	4	0.26
	文化財										3	13	4.39	23	5	0.33
象徴物	高札場										1	4	1.46	14	3	0.20
	石仏群							2	8	0.32				17	4	0.24
	地蔵										1	4	1.46	19	4	0.27
	道祖神												4	1	0.06	
	馬頭観音							1	4	0.16				28	6	0.40
歴史街道要素	石像	1	6	0.24									4	1	0.06	
	塚	2	13	0.48				2	8	0.32				8	2	0.11
	墓							1	4	0.16	2	9	2.93	8	2	0.11
	常夜灯	3	19	0.73	1	20	1.72							23	5	0.33
	一里塚	1	6	0.24				1	4	0.16				15	3	0.22
遺跡	道標	1	6	0.24	1	20	1.72				2	9	2.93	28	6	0.40
	碑	3	19	0.73	2	40	3.45	6	23	0.95	3	13	4.39	55	12	0.79
	石畳												7	1	0.10	
	水場												8	2	0.11	
	城跡	1	6	0.24				1	4	0.16				5	1	0.07
路材	枅形										2	9	2.93	8	2	0.11
	番所跡										1	4	1.46	6	1	0.09
	立場跡												9	2	0.13	
	姫御殿跡												2	0	0.03	
	渡し場跡							2	8	0.32				2	0	0.03
茶屋跡												19	4	0.27		
合計	16		3.88	5		8.62	26		4.13	23		33.7	474		6.80	
		距離	比率	距離	比率		距離	比率		距離	比率		距離	比率		
路面	土												13664	20		
	石畳												4823	7		
	アスファルト	4128	100		580	100		6292	100		683	100		51173	73	
合計	4128			580			6292			683			69660			
	単位	数：件	比率：%	密度：件/km	距離：m											

## 第4節 中山道東美濃路における景観資源の分布特性

中山道東美濃路の10宿場町及び9宿場町間にある景観資源の数と密度を集計した結果、それぞれ区間の景観資源分布状況がみられた。本節では収集した結果を主成分分析を用い、各空間における景観資源の分布特性を明らかにする。

この分布特性を利用して、それぞれの宿場町及び宿場町間がどのような魅力、それぞれ景観要素が最も特徴がある宿場町、宿場町間を推測したい。それがわかれば、景観資源の分布特性を明らかにすることが可能である。

### 2-4-1 中山道東美濃路沿道全体における路面材料特性

調査員が現地踏査調査により中山道東美濃路の路面材料を測り、集計した結果、それぞれ路面材料における景観資源の分布状況がみられた。収集した各宿町及び宿場町間の路面材料と景観資源の分布特性を明らかにする。これらの分布特性を利用して、それぞれの宿場町及び宿場町間がどのような道にどんな景観要素が多いか、それぞれの景観要素がどのような道に集中しているかを推測する。

全長約70kmの中山道東美濃路沿道の路面材料は「土道」、「石畳」、「アスファルト」の3項目に分類した、図2-4-1に示す。その中で、貴重な「石畳」は全長の8%を占める。自然環境が良い「土道」は全長の15.9%を占める。宿場町においては、「石畳」が10%、「土道」が1.29%である。宿場町間においては、「石畳」が9.05%、「土道」が8.21%である。

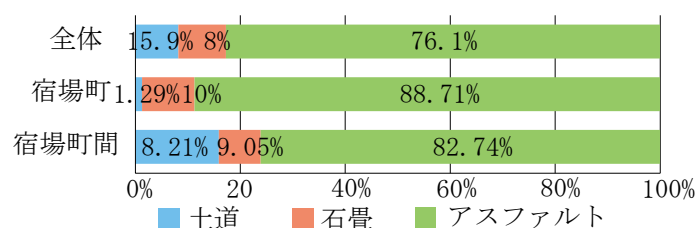


図2-4-1 中山道東美濃路における路面材料構成



## 2-4-2 宿場町別路面材料特性

宿場町別路面材料構成と景観要素密度の特性は図2-4-2に示す。B馬籠宿が「石畳」で舗装されている。F大湫宿は1割の「土道」であるが、「歴史建造物」の密度が最も高い宿場町である。他の宿場町は「アスファルト」の道であるが、「伏見宿」は「歴史街道要素」の分布密度が最も高く、他の宿場町は「歴史建造物」の分布密度が高い。

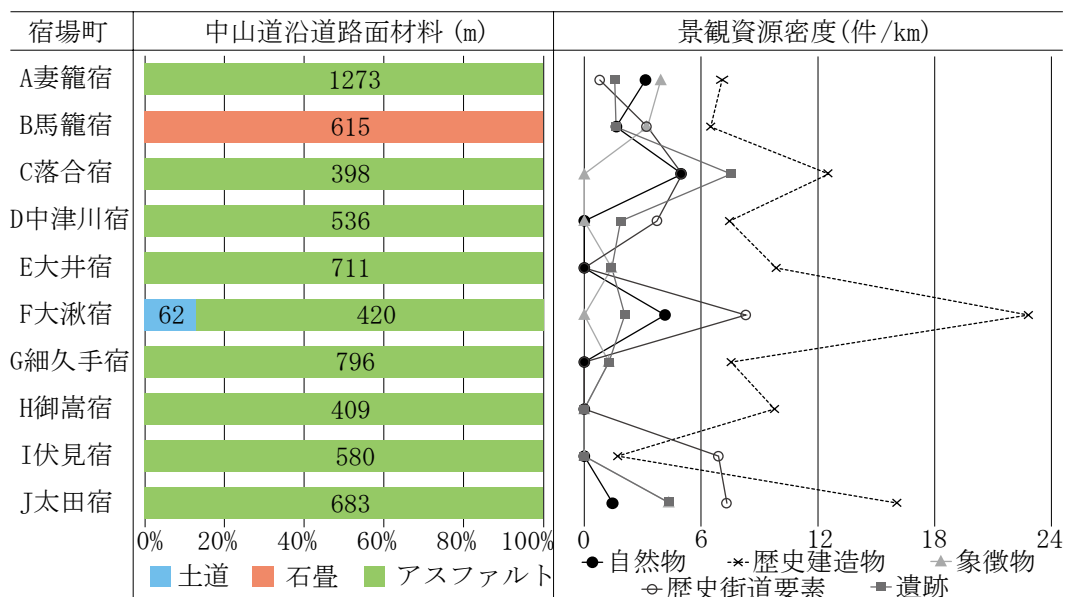


図2-4-2 各宿場町における路面材料構成と景観要素密度

### 2-4-3 宿場町における景観資源の特徴

10 宿場町に集計された景観要素が、どのような潜在的な特徴があるかを探るため、主成分分析を行った（使用ソフト:SPSS、因子抽出法:主成分分析、回転法: Kaiser の正規化を伴わないバリマックス法、3回の反復で回転が収束した）。

宿場町における景観要素別の相関行列を表 2-4-1 に示す。「歴史建造物」と「象徴物」の強い負の相関、「自然物」と「遺跡」に強い正の相関があった。

表 2-4-1 宿場町における景観要素別の相関行列

相関係数	自然物	歴史建造物	象徴物	歴史街道要素	遺跡
自然物	1.000	.569	.068	.420	.694
歴史建造物	.569	1.000	-.015	.457	.432
象徴物	.068	-.015	1.000	-.086	.093
歴史街道要素	.420	.457	-.086	1.000	.364
遺跡	.694	.432	.093	.364	1.000

因子抽出法：主成分分析

各景観要素の共通性（各測定値に対して、共通成分で説明される部分がどの程度あるかを示す指標である。1 から「共通性」を引いた値が「独自性」になる。共通性が大きな値を示す景観要素は、共通成分から大きな影響を受けているため、景観を代表していると考えられる）を表 2-4-2 に示す。成分抽出後（バリマックス回転後）の共通性は、「自然物」、「象徴物」が大きな値を示している。特に「象徴物」は共通成分が大きな値を示している。

表 2-4-2 宿場町における景観要素別の共通性

	初期	因子抽出後
自然物	1.000	.772
歴史建造物	1.000	.619
象徴物	1.000	.907
歴史街道要素	1.000	.556
遺跡	1.000	.683

因子抽出法：主成分分析

宿場町における景観要素の各成分ごとの固有値（値が大きいほどその成分と分析に用いた変数群との関係が強い。）を表 2-4-3 に示す。回転後の負荷量平方和における成分寄与（合計）は、第 1 成分が 2.482、第 2 成分が 1.056 であり、これら 2 つの成分の累積寄与率は 70.75% であることから、7 割以上のデータがこれらの成分で説明できている（なお、成分寄与が 1 以下の成分は、その影響を受けている測定値が 1 つ以下である可能性があるため、ここで出力から省いた）。そこで、成分数を 2 とした。

表 2-4-3 宿場町における景観要素の固有値と分散の合計

成分	初期の固有値			抽出後の負荷量平方和			回転後の負荷量平方和		
	合計	分散の%	累積 %	合計	分散の%	累積 %	合計	分散の%	累積 %
1	2.482	49.650	49.650	2.482	49.650	49.650	2.482	49.632	49.632
2	1.055	21.103	70.753	1.055	21.103	70.753	1.056	21.121	70.753
3	.656	13.127	83.879						
4	.526	10.514	94.393						
5	.280	5.607	100.000						

因子抽出法：主成分分析

初期解の成分負荷量バリマックス回転後の成分負荷量（絶対値を各成分に対して大きくなるように測定値を並び替えたもの）を表 2-4-4 に示す。回転後の成分はそれぞれ成分 I、成分 II と表記している。第 I 成分は「自然物」、「遺跡」、「歴史建造物」、「歴史街道要素」の成分負荷量が大きく、第 II 成分は「象徴物」の成分負荷量が大きい。これらの結果により、第 I 成分を「自然歴史性」、第 II 成分を「象徴性」と解釈した。

表 2-4-4 宿場町における景観要素回転後の成分行列

	成分	
	I 自然歴史性	II 象徴性
自然物	.868	.134
遺跡	.800	.207
歴史建造物	.782	-.090
歴史街道要素	.690	-.283
象徴物	.020	.952
固有値	2.482	1.056
寄与率%	49.632	21.121

因子抽出法：主成分分析

回転法：Kaiser の正規化を伴うバリマックス法<sup>a</sup>

3 回の反復で回転が収束しました。

## 2-4-4 宿場町における景観資源の分布特性

### (1) 宿場町別景観資源の分布特性

宿場町の景観資源の密度については、「社寺」や「文化財」などの「歴史建造物」と、「碑」や「常夜灯」などの「歴史街道要素」の密度が高い。

宿場町における景観資源の分布構造を明らかにするため、景観資源の密度を変量、サンプルを各宿場町として、主成分分析を行った、図2-4-3に示す。C落合宿、F大湫宿はX軸「自然歴史性」得点が高く、Y軸「象徴性」得点が高い宿場町である。A妻籠宿、B馬籠宿、J太田宿はY軸「象徴性」得点が高い宿場町であるが、J太田宿はA妻籠宿、B馬籠宿より「自然歴史性」得点が高い。D中津川宿、E大井宿、G細久手宿、H御嵩宿、I伏見宿はX軸「自然歴史性」とY軸「象徴性」の得点が高い宿場町である。

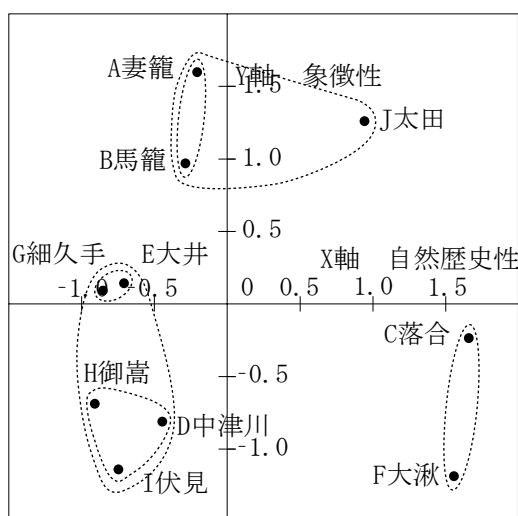


図2-4-3 各宿場町における景観要素の因子区間への布置

### (2) 景観資源別宿場町の特性

「自然物」の密度が最も高い宿場町はC落合宿とF大湫宿である。「歴史建造物」と「歴史街道要素」の密度が最も高い宿場町はF大湫宿とJ太田宿である。「象徴物」の密度が最も高い宿場町はJ太田宿とA妻籠宿である。「遺跡」の密度が最も高い宿場町はC落合宿とJ太田宿である。

## 2-4-5 宿場町間別沿道路面材料特性

宿場町間別路面材料構成と景観要素密度の特性は図2-4-4に示す。I妻籠～馬籠、V大井～大湫は「土道」が5割以上、VII細久手～御嶽は「土道」が4割以上を占めるが、I妻籠～馬籠、VII細久手～御嶽は「歴史街道要素」の分布密度が最も高く、V大井～大湫は「自然物」と歴史街道要素の分布密度が最も高い。II馬籠～落合とIII落合～中津川は「石畳」が各2割と1割に占めるが、II馬籠～落合は「歴史街道要素」の分布密度が最も高く、III落合～中津川は「歴史建造物」の分布密度が最も高い。IV中津川～大井、VI大湫～細久手、VIII御嶽～伏見、IX伏見～太田はほとんど「アスファルト」であるが、IV中津川～大井は「象徴物」の分布密度が最も高く、VI大湫～細久手、VIII御嶽～伏見は「歴史街道要素」の分布密度が最も高く、IX伏見～太田は「歴史街道要素」の分布密度が最も高い。

「土道」の分布密度が最も多い宿場町間はI妻籠～馬籠、V大井～大湫、VII細久手～御嶽である。「石畳」の分布密度が最も多い宿場町間はI妻籠～馬籠、II馬籠～落合、VI大湫～細久手である。「アスファルト」のみの宿場町間はVIII御嶽～伏見、IX伏見～太田である。

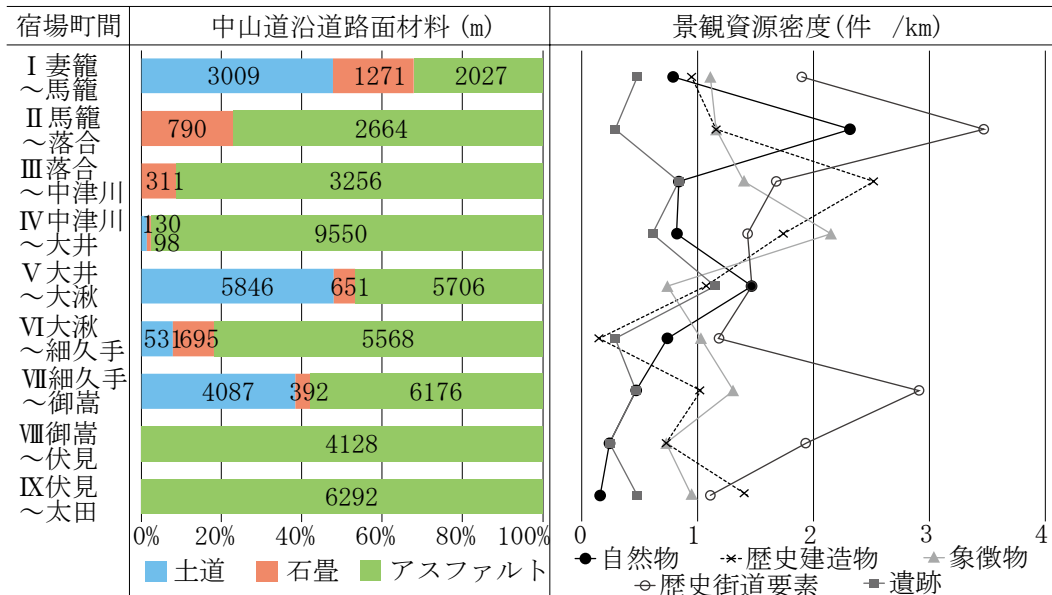


図2-4-4 各宿場町における路面材料構成と景観要素密度

## 2-4-6 宿場町間における景観資源の特徴

9 宿場町間に集計された景観要素が、どのような潜在的な特徴があるかを探るため、主成分分析を行った（使用ソフト:SPSS、因子抽出法:主成分分析、回転法: Kaiser の正規化を伴わないバリマックス法、5回の反復で回転ふあ収束した）。

宿場町間における景観要素別の相関行列を表 2-4-5 に示す。「土道」と「アスファルト道」の強い負の相関、「自然物」と「石畳」に強い正の相関があった。

表 2-4-5 宿場町間における景観要素別の相関行列

相関係数	自然物	歴史建造物	象徴物	歴史街道要素	遺跡	土道	石畳	アスファルト
自然物	1.000	-.596	-.317	-.103	.107	.213	.669	-.414
歴史建造物	-.596	1.000	-.038	-.538	.284	-.292	-.402	.392
象徴物	-.317	-.038	1.000	-.245	-.197	-.305	-.310	.372
歴史街道要素	-.103	-.538	-.245	1.000	-.646	.093	.164	-.137
遺跡	.107	.284	-.197	-.646	1.000	.458	-.333	-.288
土道	.213	-.292	-.305	.093	.458	1.000	.198	-.943
石畳	.669	-.402	-.310	.164	-.333	.198	1.000	-.514
アスファルト	-.414	.392	.372	-.137	-.288	-.943	-.514	1.000

因子抽出法：主成分分析

各景観要素の共通性（各測定値に対して、共通成分で説明される部分がどの程度あるかを示す指標である。1 から「共通性」を引いた値が「独自性」になる。共通性が大きな値を示す景観要素は、共通成分から大きな影響を受けているため、景観を代表していると考えられる）表 2-4-6 に示す。成分抽出後（バリマックス回転後）の共通性は、「象徴物」と「歴史建造物」以外の景観要素が大きな値をとった。特に「象徴物」は共通成分が大きな値を示している。

表 2-4-6 宿場町間における景観要素別の共通性

	初期	因子抽出後
自然物	1.000.	926
歴史建造物	1.000.	672
象徴物	1.000.	307
歴史街道要素	1.000.	962
遺跡	1.000.	908
土道	1.000.	931
石畳	1.000.	776
アスファルト	1.000.	923

因子抽出法：主成分分析

宿場町間における景観要素の各成分ごとの固有値（値が大きいほどその成分と分析に用いた変数群との関係が強い。）を表 2-4-7 に示す。回転後の負荷量平方和における成分寄与（合計）は、第 1 成分が 2.402、第 2 成分が 2.071、第 3 成分 1.932 であり、これら 3 つの成分の累積寄与率は 80.09% であることから、8 割以上のデータがこれらの成分で説明できる（なお、成分寄与が 1 以下の成分は、その影響を受けている測定値が 1 つ以下である可能性があるため、ここで出力から省いた）。そこで、成分数を 3 とした。

表 2-4-7 宿場町間における景観要素の固有値と分散の合計

成分	初期の固有値			抽出後の負荷量平方和			回転後の負荷量平方和		
	合計	分散の %	累積 %	合計	分散の %	累積 %	合計	分散の %	累積 %
1	3.119	38.991	38.991	3.119	38.991	38.991	2.402	30.028	30.028
2	2.096	26.194	65.185	2.096	26.194	65.185	2.071	25.882	55.910
3	1.190	14.878	80.064	1.190	14.878	80.064	1.932	24.154	80.064
4	.969	12.113	92.177						
5	.581	7.259	99.436						
6	.045	.564	100.000						
7	.007	.009	100.000						
8	.005	.005	100.000						

因子抽出法：主成分分析

初期解の成分負荷量バリマックス回転後の成分負荷量（絶対値を各成分に対して大きくなるように測定値を並び替えたもの）を表 2-4-8 に示す。回転後の成分はそれぞれ成分Ⅰ、成分Ⅱ、成分Ⅲと表記している。第Ⅰ成分は「土道」、「アスファルト」、「象徴物」の成分負荷量が大きく、第Ⅱ成分は「自然物」、「石畳」、「歴史建造物」の成分負荷量が大きく、第Ⅲ成分は「歴史街道要素」、「遺跡」の成分負荷量が大きい。これらの結果により、第Ⅰ成分を「山道」、第Ⅱ成分を「自然環境」、第Ⅲ成分を「歴史施設」と解釈した。

表 2-4-8 宿場町間における景観要素回転後の成分行列

	成分		
	Ⅰ 山道	Ⅱ 自然環境	Ⅲ 歴史施設
土道	.963	.048	.038
アスファルト	-.903	-.327.	.037
象徴物	-.524	-.176.	.031
自然物	.193	.932	.139
石畳	.176	.838	-.208
歴史建造物	-.236	-.575.	.534
歴史街道要素	.185	-.041	-.962
遺跡	.476	-.166.	.809
固有値	2.402	2.071	1.932
寄与率%	30.028	25.882	24.154

因子抽出法：主成分分析

回転法：Kaiserの正規化を伴うバリマックス法<sup>a</sup>

5回の反復で回転が収束しました。



## 2-4-7 宿場町間における景観資源の分布特性

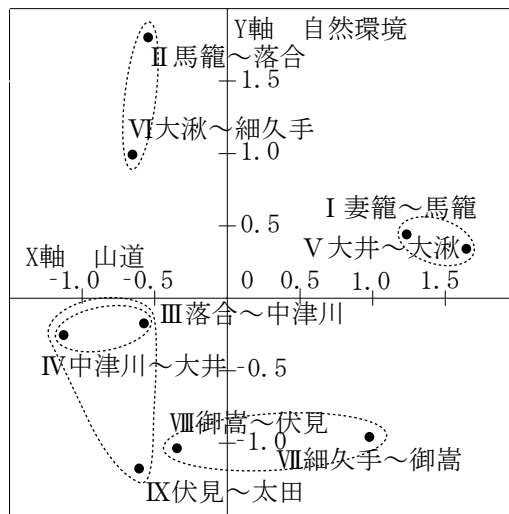
### (1) 宿場町間別景観資源の分布特性

宿場町間の景観資源の密度については、Ⅰ妻籠～馬籠、Ⅵ大湫～細久手、Ⅶ細久手～御嶽は「歴史街道要素」と「象徴物」の密度が高い区間である。Ⅱ馬籠～落合、Ⅴ大井～大湫は「歴史街道要素」と「自然物」の密度が高い区間である。Ⅲ落合～中津川、Ⅸ伏見～太田は「歴史建造物」と「歴史街道要素」の密度が高い区間である。Ⅳ中津川～大井は「象徴物」と「歴史建造物」の密度が高い区間である。Ⅷ御嶽～伏見は「歴史街道要素」の密度が高い区間である。

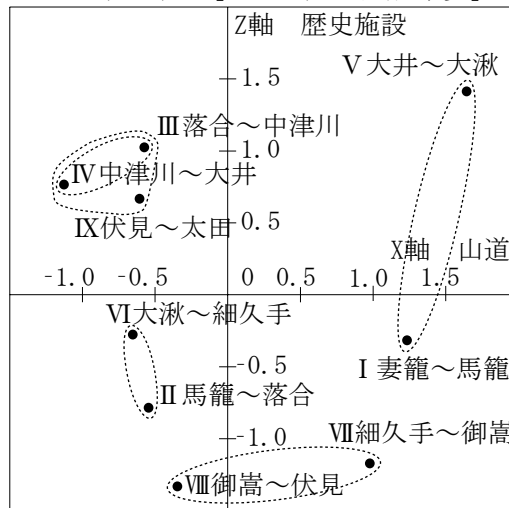
宿場町間における景観資源の分布構造を明らかにするため、該景観資源数の該地区総景観資源数に対する比率と該路面材料距離の該地区中山道総距離に対する比率を変量、サンプルを各宿場町間として、主成分分析を行った、図2-4-6に示す。Ⅰ妻籠～馬籠、Ⅴ大井～大湫はX軸「山道」、及びY軸「自然環境」得点が高い区間であり、Ⅴ大井～大湫はⅠ妻籠～馬籠よりZ軸「歴史施設」得点が高い。Ⅱ馬籠～落合、Ⅵ大湫～細久手はY軸「自然環境」得点が高い区間である。Ⅲ落合～中津川、Ⅳ中津川～大井、Ⅸ伏見～太田はZ軸「歴史施設」得点が高い区間であり、Ⅲ落合～中津川とⅣ中津川～大井はⅨ伏見～太田よりY軸「自然環境」得点が高い。

### (2) 景観資源別宿場町間の特性

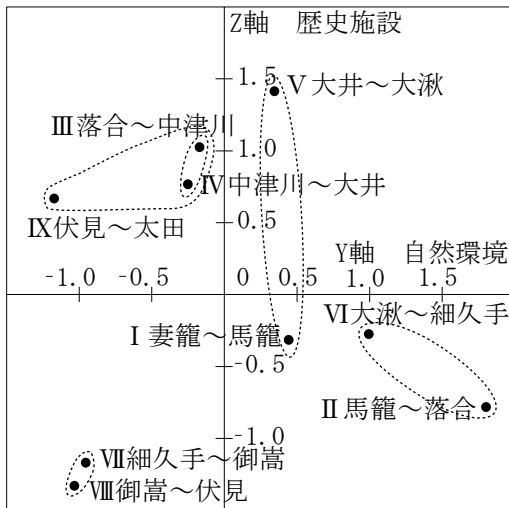
「自然物」の分布密度が最も高い宿場町間はⅡ馬籠～落合、Ⅴ大井～大湫である。「歴史建造物」はⅢ落合～中津川、Ⅳ中津川～大井、Ⅸ伏見～太田、「象徴物」はⅢ落合～中津川、Ⅳ中津川～大井、Ⅶ細久手～御嶽、「歴史街道要素」Ⅱ馬籠～落合、Ⅶ細久手～御嶽、Ⅷ御嶽～伏見で、「歴史施設」はⅢ落合～中津川、Ⅴ大井～大湫での分布密度が最も高い。



X軸「山道」－Y軸「自然環境」



X軸「山道」－Z軸「歴史施設」



Y軸「自然環境」－Z軸「歴史施設」

図 2-4-6 各宿場町間における景観要素の因子区間への布置

## 第5節 小結

本章では、歴史地域であり、中山道東美濃路にある景観資源を対象とし、資料収集、現地踏査調査と検証調査を行い、景観資源の現状分析を行った。得られた成果を統括し以下に示す。

(1) 宿場町を結ぶ宿場町間の間宿を含む中山道東美濃路にある景観資源を注目し、資料収集、現地踏査により、中山道東美濃路における一体とした景観資源の分布図を作成し、正確な景観資源の名称、位置、種類の現状を把握した。

宿場町については、I 伏見宿以外の宿場町は「寺院」、「文化財」、「本陣・脇本陣」などの「歴史建造物」の分布密度が40%以上に超えている。I 伏見宿は「歴史街道要素」が80%になっている。「自然物」はA 妻籠宿、B 馬籠宿、C 落合宿、F 大湫宿が15%程度に占める。「象徴物」はA 妻籠宿、B 馬籠宿が20%に占める。「遺跡」はC 落合宿が25%で最も高く、D 中津川宿、G 細久手宿、E 大井宿、B 馬籠宿が10%になっている。

宿場町間については、I 妻籠宿～馬籠宿、II 馬籠宿～落合宿、VI 大湫宿～細久手宿、VII 細久手宿～御嶽宿、VIII 御嶽宿～伏見宿は「碑」、「道標」、「一里塚」などの「歴史街道要素」が35%以上に超えている。III 落合宿～中津川宿、IX 伏見宿～太田宿は「寺院」、「観音堂」などの「歴史建造物」が34%以上に超えている。IV 中津川宿～大井宿は「地蔵」、「石仏群」、「馬頭観音」などの「象徴物」が31%になっている。V 大井宿～大湫宿は「坂」、「岩」などの「自然物」と「碑」、「道標」、「一里塚」などの「遺跡」が20%程度に占める。

(2) 中山道東美濃路の宿場町と宿場町間に主成分分析により特性を明らかにした。

宿場町については、C 落合宿、F 大湫宿は「歴史建造物」と「歴史街道要素」が多く、歴史的建造物の見物する宿場町である。A 妻籠宿、B 馬籠宿、J 太田宿は各景観資源が多く、宿場町全体の雰囲気の良い宿場町である。D 中津川宿、H 御嵩宿は「歴史建造物」が多く、伝統的な雰囲気が濃い宿場町である。I 伏見宿は「歴史街道要素」

が多く、景観資源の種類が少ない宿場町である。

宿場町間については、Ⅰ妻籠宿～馬籠宿、Ⅴ大井宿～大湫宿はX軸「山道」、「自然物」が多く、自然景観が多く見られる区間である。Ⅱ馬籠宿～落合宿、Ⅵ大湫宿～細久手宿は「石畳」、「歴史街道要素」が多く、街道の歴史を感じられる区間である。Ⅲ落合宿～中津川宿、Ⅳ中津川宿～大井宿、Ⅸ伏見宿～太田宿は「歴史街道要素」と「歴史遺跡」を合わせた割合が高く、旧街道施設に接する区間である。Ⅶ細久手宿～御嶽宿、Ⅷ御嶽宿～伏見宿は「歴史街道要素」と「象徴物」を合わせた割合が高く、旧街道文化に触れる区間である。

## 第2章に関する参考・引用文献

- 1) 小寺武久・川村力男・佐藤 彰・上野邦一：旧中山道妻籠宿の民家について：妻籠宿保存計画基本調査，日本建築学会学術講演梗概集，865-866，1968.9.5
- 2) 三村浩史・西山徳明・久保田孝幸：地域における観光振興方策の形成に関する研究：妻籠宿の経緯分析から，日本建築学会学術講演梗概集，27-28，1990.9.1
- 3) 長谷川博一・松本直司・小田憲治・前田将嗣・渡辺悠司：旧中山道中津川宿・落合宿・馬籠宿の景観要素特性：街並みの景観計画に関する研究（その1），日本建築学会東海支部研究報告集，633-636，2007.2
- 4) 小田憲治・松本直司・長谷川博一・布村圭祐・栢木亜衣：旧中山道中津川宿・落合宿・馬籠宿の建物特性：街並みの景観計画に関する研究（その2），日本建築学会東海支部研究報告集，637-640，2007.2
- 5) 鈴村楸：中山道，大久手・細久手の宿駅とその遺構について，日本建築学会論文報告集，637-640，1958.10.5
- 6) 橋本敬治郎：太田宿の町並構成と屋敷割について，中山道宿駅の研究 その6，日本建築学会学術講演梗概集，931-932，1987.8.25
- 7) 横山太郎・松本直司・高井智代・吉永明典：美濃加茂市中山道太田宿の景観特性：街並み景観計画に関する研究 その1，日本建築学会学術講演梗概集，833-834，2010.7.20
- 8) 高井智代・松本直司・吉永明典・横山太郎：美濃加茂市中山道太田宿における景観修景計画：街並み景観計画に関する研究 その3，日本建築学会学術講演梗概集，837-838，2010.7.20
- 9) 谷 英紀・松本直司・青木一郎・横山太郎：美濃加茂市中山道太田宿における景観構成要素と街路の魅力範囲：伝統的街路景観の魅力に関する研究 その1，日本建築学会学術講演梗概集，707-708，2012.9.12

- 10) 道尾淳子：歴史地区における道路利用と駐車に関する研究：街道沿いに発展した妻籠宿、奈良井、木曾平沢を事例として，日本建築学会学術講演梗概集，647-648，2008.7.20
- 11) 道尾淳子：旧街道の自動車交通対応の実態に関する研究：中山道の宿場町67宿を対象として，日本建築学会学術講演梗概集，543-544，2010.7.20

### 第3章

## 中山道東美濃路における観光客の旅行環境評価





## 第1節 はじめに

本章では中山道東美濃路の宿場町と宿場町間に訪れる外国人および日本人観光客に対して旅行客の属性、観光動向、観光意識、満足度を把握する。また、日本人及び外国人観光客の視点から街道の景観資源についての魅力評価を行うことで、潜在的な街道の特性と観光動向を把握し、宿場町間を繋ぐ連続的なまちづくりの方針を示し、観光資源の魅力のさらなる向上させ、観光者をの観光利便性を向上するに向けて、安心して快適に観光できる環境整備する必要な要素を明らかにすることを目的とする。

### (1) 外国人旅行者の受入に係る現状

#### ア．ビジット・ジャパン・キャンペーンの推進

平成15年から日本の観光魅力を海外に発信するとともに、国土交通大臣を本部長とする「ビジット・ジャパン・キャンペーン実施本部」を設け、日本への魅力的な旅行商品の造成・販売支援等を行うビジット・ジャパン・キャンペーンを官民一体で推進する。

#### イ．観光立国の推進と観光庁の発足

外国人の訪日旅行の拡大によって、平成18年に観光立国推進基本法を制定し、観光立国の実現を21世紀における日本の重要な政策の柱として明確に位置付けた。また、平成19年には「観光立国推進基本計画」が策定され、平成20年10月に観光庁が発足され、国全体として、官民を挙げて観光立国の実現に取り組む体制を整備した。2019年までに訪日外国人旅行者数を2,500万人にするという目標を掲げている。

## (2) 中山道東美濃路における国内外観光者増大の傾向

中山道東美濃路は、東海道のバイパスとして数多く茶屋や旅籠などの便利施設や娯楽施設が存在し、徒歩移動の時代にその中途を占める区間として、たいへんな活況を呈していた。現在、街道を利用の便に供することはなくなっているが、これらの痕跡は残存し、かつての面影を今日に忍ばせている。近年の自動車交通の普及もそれを後押しし、衰退した木曾路などの宿場町を始め、新たな観光地として再び賑わいを見せて久しい。

また、東日本大震災の影響が薄まり、円安の影響や政府の「観光立国」の後押しもあってか、日本を訪問する外国人旅行者が増えている。さらに、2027年に開業予定のリニア中央新幹線について、中津川市内に設置される施設や展望を公表した。中津川市への関心が高まり認知度が向上し、魅力的な地域となるほか、隣接する東濃地域や、高山・下呂・中山道といった知名度の高い観光地もある。両基地が設置され、観光資源としての活用が可能になり、大都市圏、周辺地域、中部国際空港、羽田空港などからリニアを使用し、住民と観光客の駅利用の利便性の向上に加えて、中山道への観光誘客、新たな観光環境整備など大きな発展が期待されている。

## (3) 「岐阜の宝もの」に認定

岐阜県内を東西に横断する中山道と17の宿場には、往時の景観を色濃く残す町並みや、市街地として発展しながらも中山道の面影を残す宿場などがあり、今も往時の面影を色濃く残しています。その土地の歴史や文化、隠れた魅力の発見を楽しむ街道観光は岐阜県の誇るべき観光資源であるとして、平成25年2月に「岐阜の宝もの」認定第1号に認定されました。この地域の歴史や文化、隠れた魅力を発見しながら歩いて旅することができることが認められている。

認定理由としては、

①宿場ごとに地域の住民が中心となって、貴重な景観を残す取り組みや、まつりの開催、ボランティアガイドの活用、歴史や文化の掘り起こしとともに、発掘された資源を活用した散策コースの設定など、中山道及び周辺の観光資源を含めた新たな観光商品の開発、受け入れ態勢の強化が図られている。

②関ヶ原宿と垂井宿、御嶽宿と伏見宿など、隣接する宿場同士の協働によるウォーキング事業の実施や、中山道と東濃地方の地歌舞伎を繋げた新たな観光ツアーの誕生など、より広域的な連携が促進されている。

③沿線自治体を中心となった「美濃中山道連合」による中山道の歴史的な役割や価値の一体的なPRに加え、平成20年度からは統一デザインによる中山道案内標識の設置が推進されている。更には、平成24年度から中山道の各宿場の連携を促す研修会の実施や県内17宿を繋ぐイベントの開催が進められており、今後さらに沿道周辺の観光資源を含む一体的な事業が展開されれば、県内での宿泊滞在型観光を牽引することが期待される、県内中山道全エリアで広域的な観光エリアが構築できる。

### (3) 外国人観光者の定義

本研究で研究対象とした外国人観光客は、文化により、アルファベット系である、欧州の諸国及びアメリカ合衆国からの観光客が多いため、欧米人観光客に定義する。漢字系である、アジア諸国からの観光客が多いため、アジア人観光客に定義する。

## 第2節 中山道東美濃路に訪れる観光客についてのアンケート調査

本節では中山道東美濃路の妻籠宿から太田宿までの10宿場町及びその9宿場町間に訪れる日本人、外国人観光客へのアンケート調査の実施内容を示す。

### 3-2-1 調査対象と調査方法

調査対象：

妻籠宿から太田宿まで計10宿場町とその9宿場町間の計19場所で日本人および外国人観光客を対象とする。

調査方法：

妻籠宿から太田宿まで計10宿場町とその9宿場町間の計19場所で日本人および外国人観光客を対象とし、日本語、英語、フランス語、中国語簡体字／繁体字、韓国語の調査用紙により、インタビュー形式のアンケート調査を実施する。

本調査の外国人旅行者を調査対象に選ぶ際には、外観と言語により、白色系を欧米人、黄色系をアジア人と判断し、調査を行った。黒色人種、褐色人種旅行者は今回の調査では見られない。日本人旅行者を調査対象に選ぶ際には、外観と言語により、黄色系外国人旅行者と区別する。

外国人と考えられる旅行者に対して、インタビュー調査を基本とした。日本人と考えられる旅行者に対して、アンケート調査を基本とした。しかし、団体の旅行者の場合の場合には、1名の調査員が3名まで可能な人数の旅行者に回答を求める。

### 3-2-2 調査時期と調査場所

#### (1) 宿場町における調査

各宿場町におけるアンケート調査は、主に集客が多い休日や祭日にかけて、本陣や脇本陣などの観光名所、資料館や公民館などの観光情報提供施設で行った。

宿場町における調査時期と調査場所を表3-2-1に示す。

表3-2-1 宿場町における調査時期と調査場所

調査日	調査時間	調査範囲	調査地点	調査員数
2013年11月16日(土)	10時～16時	A妻籠宿	妻籠宿本陣	3名
		B馬籠宿	馬籠宿本陣	3名
2013年11月18日(月)	10時～16時	A妻籠宿	妻籠宿本陣	3名
		B馬籠宿	馬籠宿本陣	3名
2014年5月18日(日)	10時～16時	E大井宿	大井宿本陣	2名
		F大湫宿	大湫宿お休み所	2名
		G細久手宿	細久手宿公民館	2名
2014年5月22日(木)	10時～16時	C落合宿	落合宿の本陣	2名
		D中津川宿	中津川中山道歴史資料館	2名
2014年5月25日(日)	10時～16時	H御嶽宿	中山道みたけ館	2名
		I伏見宿	伏見宿公民館	2名
		J太田宿	太田宿中山道会館	2名

(2) 宿場町間における調査

各宿場町間におけるアンケート調査は、主に集客が多い休日やゴールデンウィークにかけて、滝や高札場などの観光名所、トイレや休憩場などの休憩施設で行った。

宿場町間における調査時期と調査場所を表3-2-2に示す。

表3-2-2 宿場町間における調査時期と調査場所

調査日	調査時間	調査範囲	調査地点	調査員数
2015年4月18日(土)	10時～16時	I 妻籠～馬籠	男滝・女滝	3名
		II 馬籠～落合	新茶屋のトイレ	2名
		III 落合～中津川	子野のトイレ	2名
		IV 中津川～大井	甚平坂公園	2名
2015年5月2日(土)	10時～16時	V 大井～大湫	藤大橋の休憩場	1名
		VI 大湫～細久手	大湫宿休憩場	2名
		VII 細久手～御嶽	細久手宿公民館	1名
		VIII 御嶽～伏見	中山道みたけ館	1名
		IX 伏見～太田	伏見宿公民館	1名
2015年5月3日(日)	10時～16時	I 妻籠～馬籠	男滝・女滝	3名
		II 馬籠～落合	新茶屋のトイレ	1名
		III 落合～中津川	中津川の高札場	1名
		IV 中津川～大井	子での木坂	1名
2015年5月5日(火)	10時～16時	V 大井～大湫	藤大橋の休憩場	1名
		VI 大湫～細久手	大湫宿休憩場	2名
		VII 細久手～御嶽	細久手宿公民館	1名
		VIII 御嶽～伏見	中山道みたけ館	1名
		IX 伏見～太田	伏見宿公民館	1名

### 3-2-3 調査内容

中山道東美濃路に訪れる観光客へのアンケート調査内容構成は図3-2-1に示す。

さらに、調査に用いたアンケート用紙を示す。

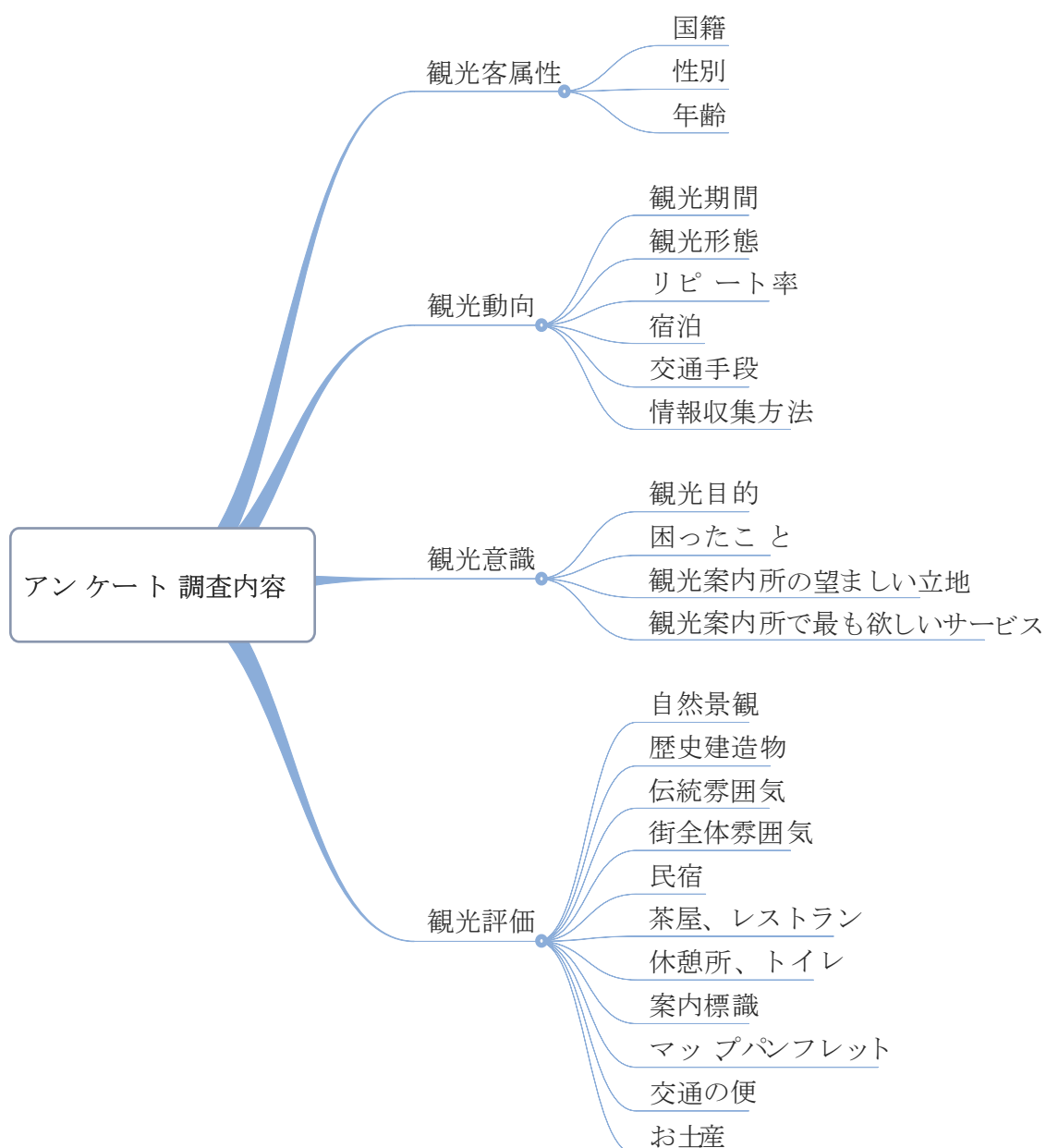


図3-2-1 観光客アンケート調査内容構成

## 1. 観光者の属性

該当するものに○をつけてください

- a. 国籍： \_\_\_\_\_
- b. 性別： 1. 男      2. 女
- c. 年齢： 1. 10代    2. 20代    3. 30代    4. 40代    5. 50代    6. 60代    7. 70代
- d. 滞在目的：1. 仕事 -2. 観光 3. 家族訪問 4. 留学 5. 永住 6. その他（            ）

## 2. 観光者の動向

該当するものに○をつけてください

- a. 滞在日数： \_\_\_\_\_
- b. 旅行形態： 1. グループ（      人）    2. 個人（      人）
- c. ここへの訪問回数： \_\_\_\_\_ 回
- d. 前日宿泊： 1. ホテル    2. 民宿    3. 友人の家    4. 自宅    5. その他（            ）
- e. 旅程： 前観光地： \_\_\_\_\_    次観光地： \_\_\_\_\_
- f. ここへの交通手段（複数可）：
1. 徒歩    2. 電車    3. 市営バス    4. 車    5. 観光バス    6. レンタカー
- g. ここからの交通手段（複数可）：
1. 徒歩    2. 電車    3. 市営バス    4. 車    5. 観光バス    6. レンタカー
- h. どうやってこの観光地を知っています？
1. 観光ツアー    2. インターネット    3. 雑誌、テレビ    4. 友人紹介    5. その他（            ）

## 3. 観光者の意識

該当するものに○をつけてください（複数回答可）

- a. 訪問動機：
1. 歴史的建造物の見物                      5. 残した景観資源の研究
2. 日本伝統文化にふれる                    6. 気持ちをリラックスする
3. 自然景観を堪能する                      7. 休日を過ごす
4. 日本食を味わう                          8. その他（                      ）
- b. 旅行中困ったこと：
1. 目的地までの公共交通の経路情報の入手      6. 宿泊施設の予約
2. 公共交通の乗り場情報の入手                    7. 無料公衆無線 LAN 環境
3. 飲食店情報の入手                                  8. 両替・クレジットカード利用
4. 飲食店の予約                                      9. コミュニケーション
5. 宿泊施設情報の入手                              10. その他（                      ）



c. 観光案内所の望ましい立地：

- |                     |                                |
|---------------------|--------------------------------|
| 1. 鉄道駅内、またはその周辺     | 4. 宿泊施設内                       |
| 2. 宿場内に名所の近く        | 5. その他（                      ） |
| 3. バスターミナル内、またはその周辺 |                                |

d. 観光案内所で最も欲しい情報：

- |                     |                                |
|---------------------|--------------------------------|
| 1. 目的地までの公共交通の経路・情報 | 5. ツアー・お土産情報                   |
| 2. 無料公衆無線 LAN 環境情報  | 6. 外国語が対応できる通訳の情報              |
| 3. 飲食店情報            | 7. その他（                      ） |
| 4. 宿泊施設情報           |                                |

4. 訪問後の評価

該当するものに○をつけてください。

項目	評価				
	良い ←		→	悪い	
(例) 天気はどうか？	○ 良い	やや良い	普通	やや悪い	悪い
自然景観の魅力はどうか？	良い	やや良い	普通	やや悪い	悪い
歴史建造物の魅力はどうか？	良い	やや良い	普通	やや悪い	悪い
伝統的な雰囲気はどうか？	良い	やや良い	普通	やや悪い	悪い
街全体の雰囲気はどうか？	良い	やや良い	普通	やや悪い	悪い
民宿はどうか？	良い	やや良い	普通	やや悪い	悪い
茶屋・レストランの雰囲気はどうか？	良い	やや良い	普通	やや悪い	悪い
休憩所、トイレは便利ですか？	良い	やや良い	普通	やや悪い	悪い
案内標識はどうか？	良い	やや良い	普通	やや悪い	悪い
マップ・パンフレットは役立ちますか？	良い	やや良い	普通	やや悪い	悪い
交通の便はどうか？	良い	やや良い	普通	やや悪い	悪い
お土産はどうか？	良い	やや良い	普通	やや悪い	悪い
似ている観光地と比較するのはどうか？	良い	やや良い	普通	やや悪い	悪い
満足度はどうか？	良い	やや良い	普通	やや悪い	悪い
来てよかったと思いますか？	良い	やや良い	普通	やや悪い	悪い
もう一度来て欲しいですか？	良い	やや良い	普通	やや悪い	悪い

5. 感想と要望（自由記述）

-----  
-----

### 3-2-4 回答数

宿場町及び宿場町間の有効回答数を図3-2-2に示す。宿場町で観光客385名、宿場町間で観光客334名であった。その内訳は、各宿場町の有効回答数を表3-2-3、各宿場町間の有効回答数を表3-2-4に示す。宿場町で日本人観光客315名、欧米人観光客45名、アジア人観光客25名であった。宿場町間で日本人観光客282名、欧米人観光客47名、アジア人観光客3名であった。

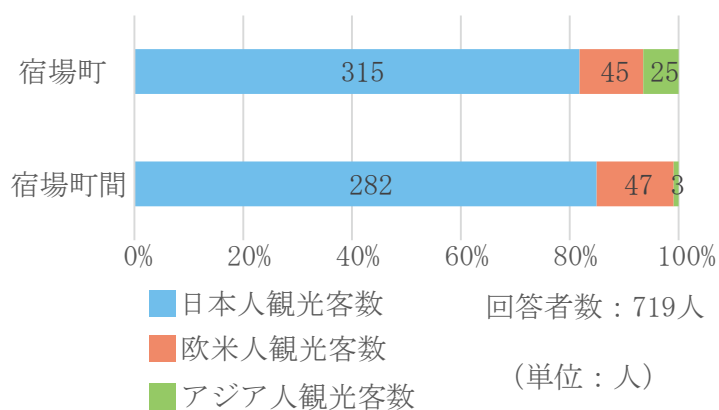


図3-2-2 宿場町と宿場町間における観光客回答者数

表 3-2-3 宿場町における観光客回答数

観光客 宿場町	観光客				計
	日本人	欧米人	アジア人	小計	
A妻籠宿	165	22	6	193	385
B馬籠宿	35	12	20	67	
C落合宿	13	5		18	
D中津川宿	11			11	
E大井宿	17	3		20	
F大湫宿	12	2		14	
G細久手宿	14			14	
H御嶽宿	8			8	
I伏見宿	8			8	
J太田宿	32			32	

(単位：人)

表 3-2-4 宿場町間における観光客回答数

観光客 宿場町間	観光客				小計
	日本人	欧米人	アジア人	小計	
I 妻籠～馬籠	126	26	3	155	334
II 馬籠～落合	30	1		31	
III 落合～中津川	19	4		23	
IV 中津川～大井	16	4		20	
V 大井～大湫	23	7		30	
VI 大湫～細久手	24	5		29	
VII 細久手～御嶽	20			20	
VIII 御嶽～伏見	11			11	
IX 伏見～太田	15			15	

(単位：人)

### 第3節 観光客の属性

本節では中山道東美濃路の妻籠宿から太田宿までの10宿場町及びその9宿場町間に訪れる観光客を国籍別と観光場所別により国籍構成、性別構成、年齢構成などの観光客属性の特性を明らかにする。

#### 3-3-1 国籍別観光者属性

##### (1) 外国人観光客の国籍構成

宿場町及び宿場町間に訪れる外国人観光客を欧米系、アジア系に分け、国籍別回答数を集計したものを図3-3-1に示す。

宿場町に訪れる外国人観光客については、イギリス、ドイツ、オーストラリア、アメリカからの欧米人観光客が最も多くなっている。アジア人観光客は台湾と中国が多くなっている。

宿場町間に訪れる外国人観光客については、オーストラリア、アメリカ、イギリスからの欧米人観光客が最も多くなっている。アジア人観光客は少ない。

欧米人観光客は、宿場町だけではなく、日本的情緒がたっぷりの宿場町間ハ徒歩観光コースにも人気が高い。

アジア人観光客は、日本江戸の宿場町風情を今に伝えるまちとして認識され、宿場町を中心に観光すると考えられる。

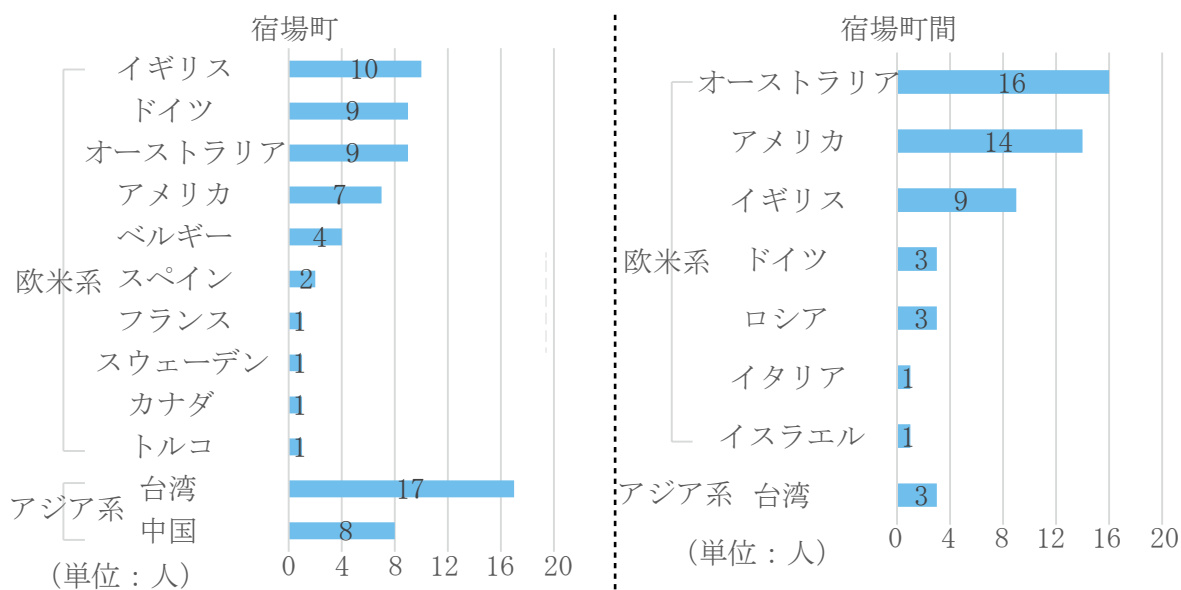


図3-3-1 宿場町、宿場町間における外国人観光客国籍構成

## (2) 国籍別観光客性別構成

宿場町及び宿場町間に訪れる観光客の性別構成を日本人、欧米系、アジア系に分け、国籍別回答数を集計したものを図3-3-2に示す。

宿場町に訪れる観光客の性別については、日本人、欧米人、アジア人観光客で女性が少々上回っている。逆に宿場町間に訪れる日本人と欧米人観光客で男性が多くなっている。

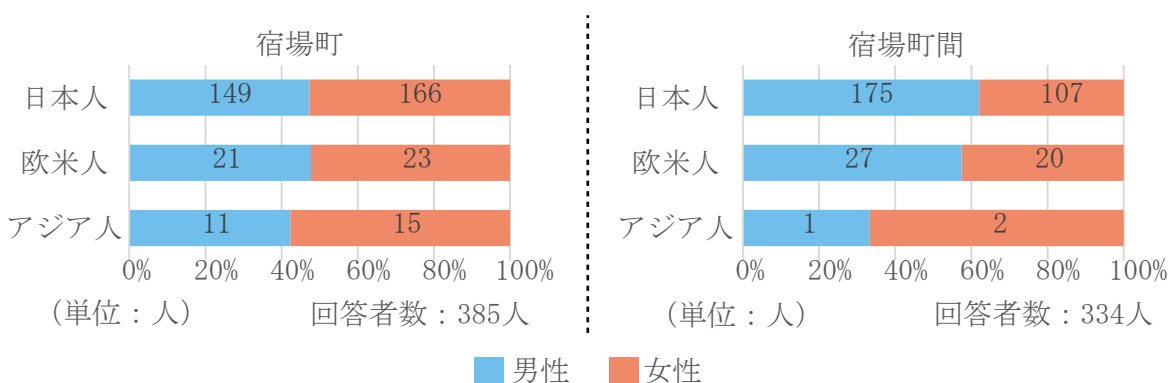


図3-3-2 国籍別観光客性別構成

### (3) 国籍別観光客年齢構成

宿場町及び宿場町間に訪れる観光客の年齢構成を日本人、欧米系、アジア系に分け、国籍別回答数を集計したものを図3-3-3に示す。

宿場町に訪れる観光客の性別については、日本人で60代が最も多くなっている、40代以上から70代が合わせて8割以上に占めている。逆に欧米人で30代が最も多くなっている、50代以下が合わせて8割以上に占めている、アジア人で20代と30代が最も多くなっている、50代以上がない。

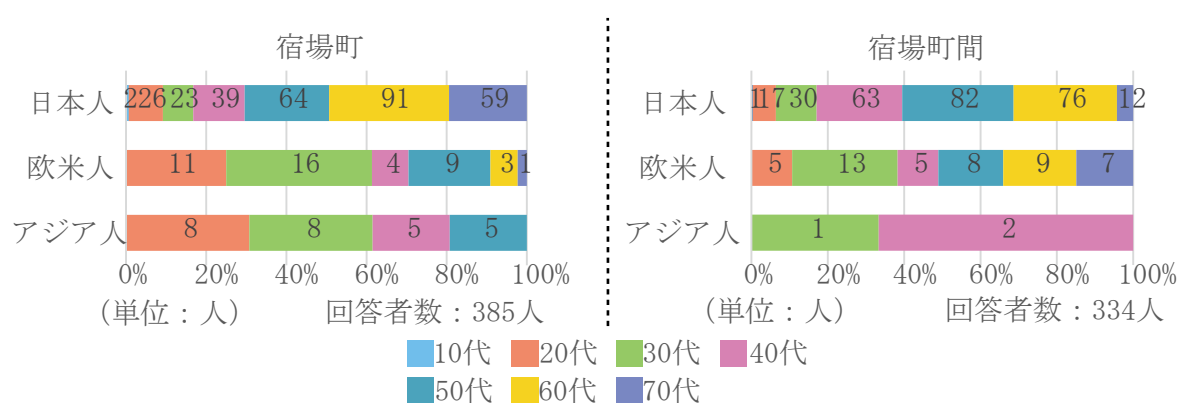


図3-3-3 国籍別観光客年齢構成

### 3-3-2 観光場所別観光者属性

#### (1) 観光場所別国籍構成

宿場町及び宿場町間に訪れる観光客を日本人、欧米人、アジア人に分け、観光場所別回答数を集計したものを図3-3-4に示す。

宿場町に訪れる観光客数については、日本人はA妻籠宿とB馬籠宿が最も多くなっている、H御嵩宿とI伏見宿が最も少ない。欧米人観光客はA妻籠宿とB馬籠宿が最も多くなっている、D中津川宿、G細久手宿からJ太田宿がない。アジア人観光客はA妻籠宿とB馬籠宿しかない。

宿場町間に訪れる観光客数については、日本人観光客はⅠ妻籠～馬籠が最も多く、Ⅷ御嵩～伏見が最も少ない。欧米人観光客はⅠ妻籠～馬籠が最も多くなっている、次にⅢ落合～中津川、Ⅳ中津川～大井、Ⅴ大井～大湫、Ⅵ大湫～細久手の順となっている。アジア人観光客はⅠ妻籠～馬籠のみである。

各宿場町においては、A妻籠宿、B馬籠宿で日本人だけではなく、欧米人とアジア人観光客も多くなっている。C落合宿、E大井宿、F大湫宿も欧米人観光客が訪れている。G細久手宿、J太田宿は日本人観光客が多くなっているが、外国人観光客がいない。

各宿場町間においては、Ⅰ妻籠～馬籠で国内外の観光客が最も多くなっている。次に、Ⅲ落合～中津川、Ⅳ中津川～大井、Ⅴ大井～大湫、Ⅵ大湫～細久手が多くなっている。

全宿場町及び宿場町間に訪れる観光客数については、外国人観光客は観光名所とするA妻籠宿、Ⅰ妻籠宿～馬籠宿、B馬籠宿周辺が最も多く、次にたくさんの歴史を感じられる遺跡・建物・日本田園風景が残っているE大井宿、Ⅴ大井～大湫、F大湫宿、Ⅵ大湫～細久手周辺で多く見られる。

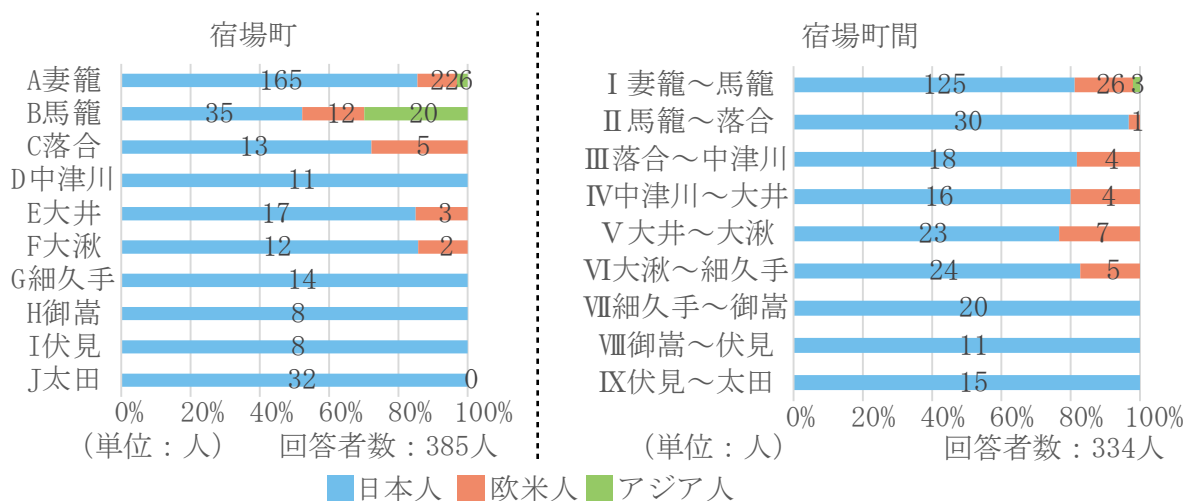


図3-3-4 観光場所別観光客国籍構成

## (2) 観光場所別性別構成

宿場町及び宿場町間に訪れる観光客の性別構成を日本人、欧米人、アジア人に分け、観光場所別性別構成を集計したものを図3-3-5に示す。

宿場町に訪れる観光客の性別については、日本人はA妻籠宿とE大井宿で女性が6割以上に超える、C落合宿やF大湫宿、G細久手宿で男性が7割以上である。欧米人観光客は妻籠宿で女性が男性を上回る、A馬籠宿やC落合宿、E大井宿で男性が6割以上に超える。アジア人観光客は女性が多くなっている。

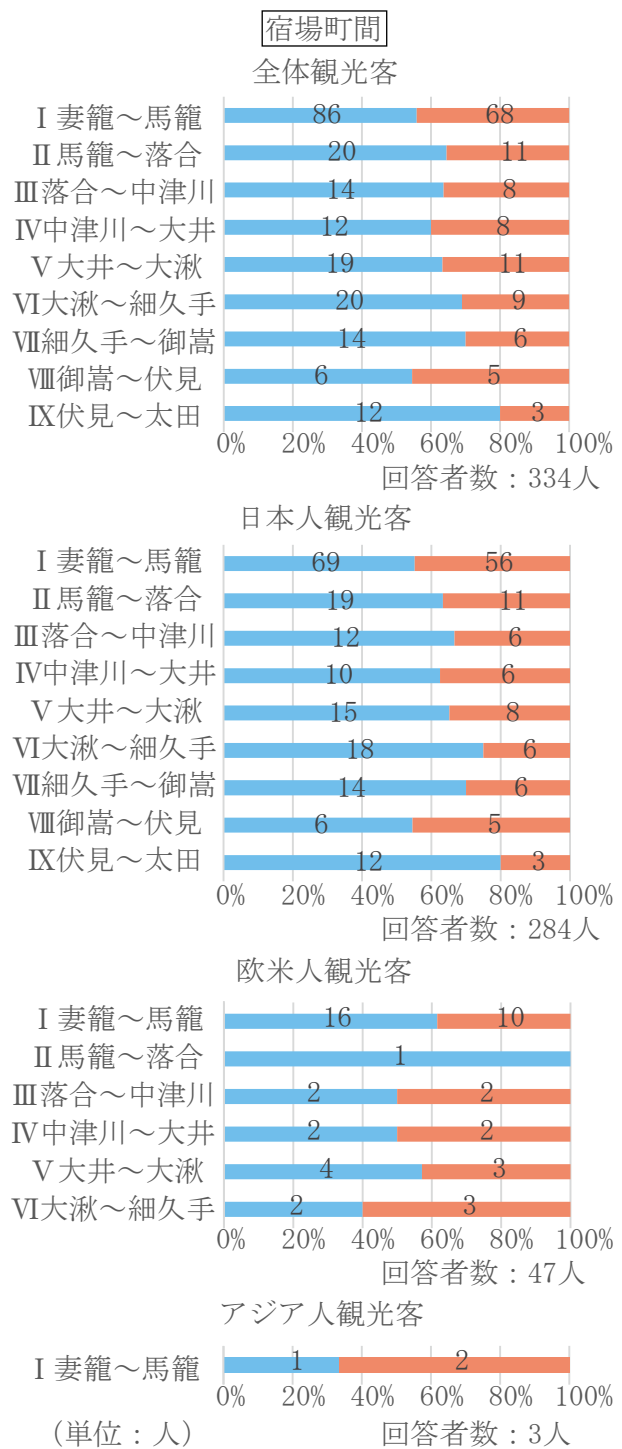
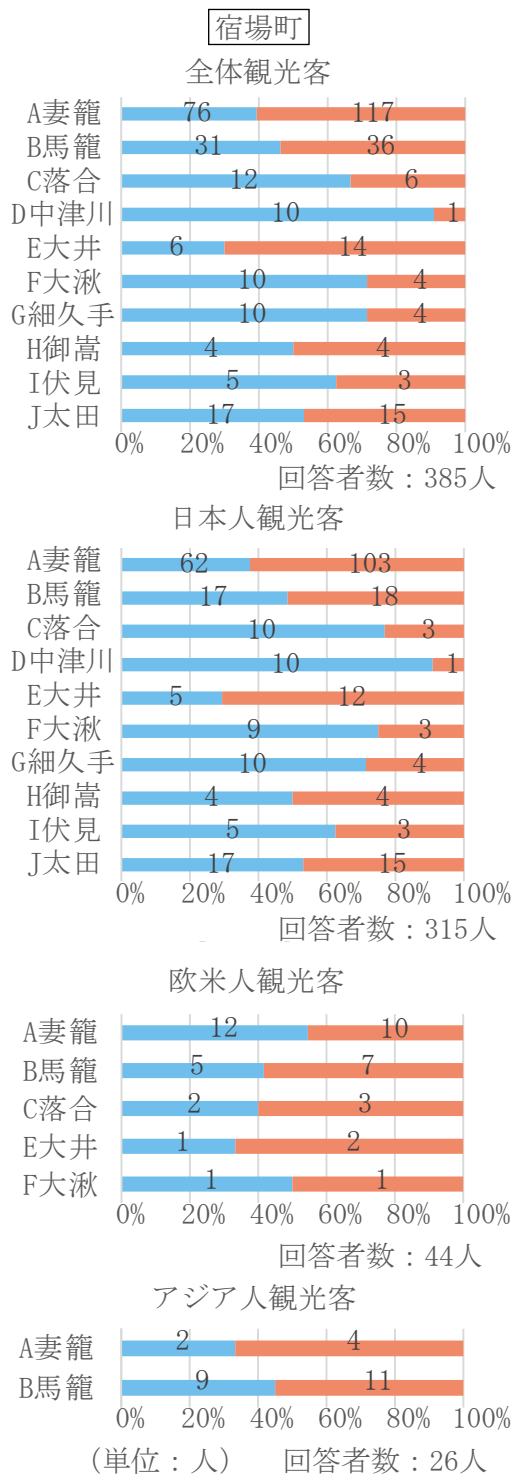
宿場町間に訪れる観光客の性別については、日本人観光客は各宿場町間で男性が6割に超えている。欧米人観光客はI妻籠～馬籠で男性が6割に超えている。VI大湫～細久手で女性が6割に超えている。

各宿場町においては、A妻籠宿、B馬籠宿、E大井宿で多くの女性観光客が訪れている、女性には人気がある。C落合宿、D中津川宿、F大湫宿、G細久手宿、I伏見宿で多くの男性観光客が訪れている、男性に人気がある。

各宿場町間においては、各宿場町間で男性が女性を上回る。

全宿場町及び宿場町間に訪れる観光客の性別については、男性の宿場町間で徒歩観光者数が女性を上回る。女性にはA妻籠宿、B馬籠宿、E大井宿などの宿場町で魅力があると考えられる。





■ 男性 ■ 女性  
**図 3 - 3 - 5 観光場所別観光客性別構成**

### (3) 観光場所別観光客年齢構成

宿場町及び宿場町間に訪れる観光客を日本人、欧米人、アジア人に分け、観光場所別年齢構成を集計したものを図3-3-6に示す。

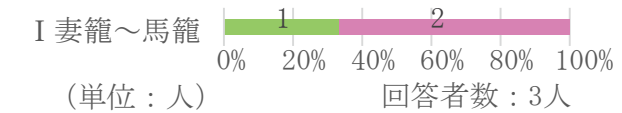
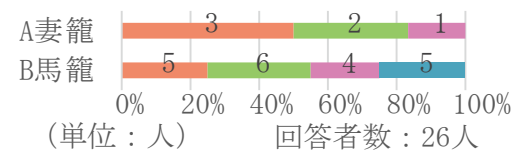
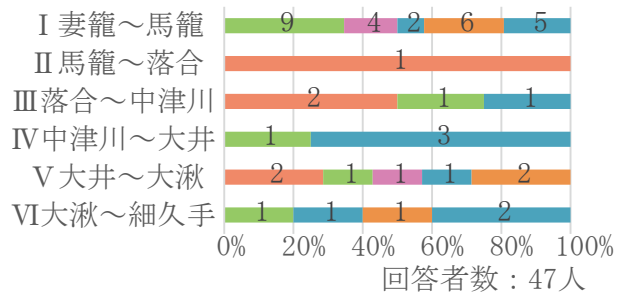
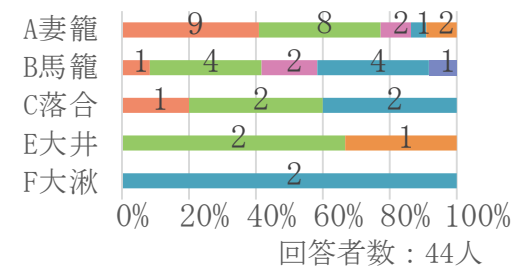
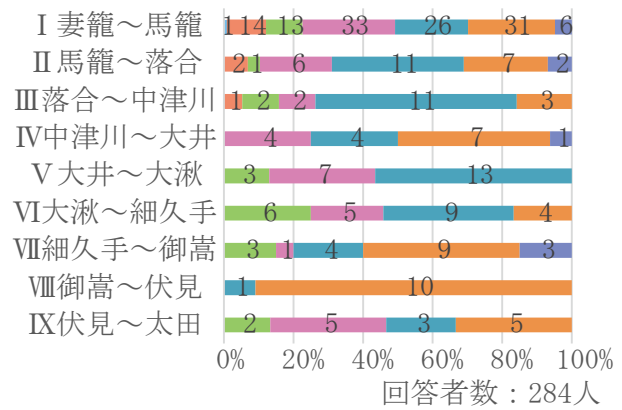
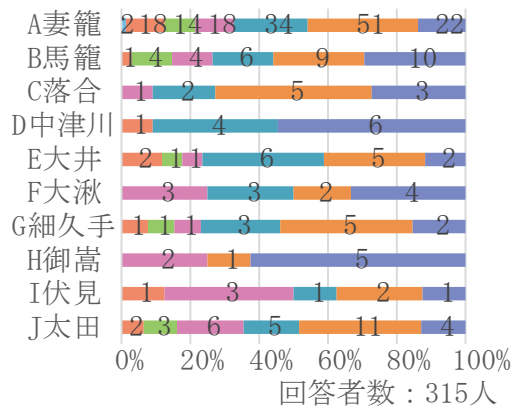
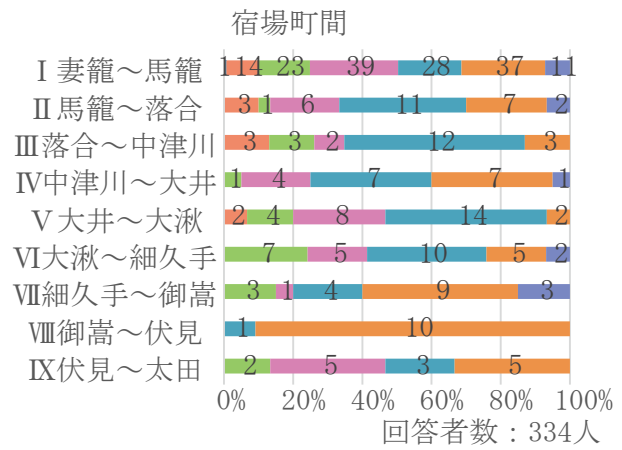
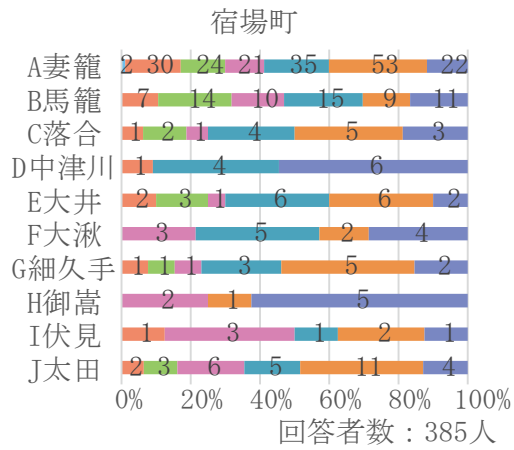
宿場町に訪れる観光客の年齢構成については、日本人は全体として50代以上が多くなっているが、C落合宿とD中津川宿で50代、60代、70代が合わせて9割以上に超えている、I伏見宿で40代の割合が高くなっている。欧米人観光客はA妻籠宿、C落合宿とE大井宿で20代、30代が合わせて6割以上に超えている、A馬籠宿で30代と50代が各2割に占めている。アジア人観光客はA妻籠宿、B馬籠宿で20代、30代、40代が合わせて9割以上に超えている。

宿場町間に訪れる観光客の年齢構成については、日本人は全体として40代以上が多くなっているが、II馬籠～落合、III落合～中津川、V大井～大湫、VI大湫～細久手で50代が4割以上を超え、IV中津川～大井、VII細久手～御嵩、VIII御嵩～伏見で60代が4割以上を超えている。欧米人観光客はI妻籠～馬籠で30代が2割を超えているが、IV中津川～大井とVI大湫～細久手で50代の割合が高くなっている。

各宿場町においては、A妻籠宿、B馬籠宿、C落合宿、E大井宿、J太田宿で幅広い年齢層の方々が訪れているが、D中津川宿やF大湫宿、G細久手宿で50代、60代、70代の観光客が多く見られる。

各宿場町間においては、I妻籠～馬籠やII馬籠～落合、III落合～中津川、V大井～大湫、VI大湫～細久手、VII細久手～御嵩で幅広い年齢層の方々が訪れられているが、IV中津川～大井、VIII御嵩～伏見やF大湫宿、G細久手宿で50代、60代、70代の観光客が多く見られる。

全宿場町及び宿場町間に訪れる観光客の年齢構成については、10代の観光客があまり見えず、20代の観光客はA妻籠宿からIII落合～中津川まで多く見られている。30代の観光客はB馬籠宿、VI大湫～細久手での割合が高くなっている。40代、50代、60代の観光客が各宿場町と宿場間で最も多い年齢層である。70代の観光客は各宿場町でよく見られるが、宿場町間には少ない。



10代 20代 30代 40代  
50代 60代 70代

図3-3-6 観光場所別観光客年齢構成

## 第4節 観光客の観光動向

本節では中山道東美濃路の宿場町と宿場町間に訪れる日本人及び外国人観光客の観光形態、リピート率、宿泊先、交通手段、情報収集方法などの観光動向を国籍別と観光場所別の特性を明らかにする。

### 3-4-1 国籍別観光客の観光動向

#### (1) 国籍別観光客の観光形態

宿場町及び宿場町間に訪れる観光客を日本人、欧米人、アジア人に分け、国籍別観光形態を集計したものを図3-4-1に示す。

宿場町に訪れる日本人観光客の観光形態は、「個人」観光が6割程度に占める。欧米人観光客は「団体」と「個人」それぞれを半数に占めている。アジア人観光客の観光形態は「団体」が9割程度に占めている。

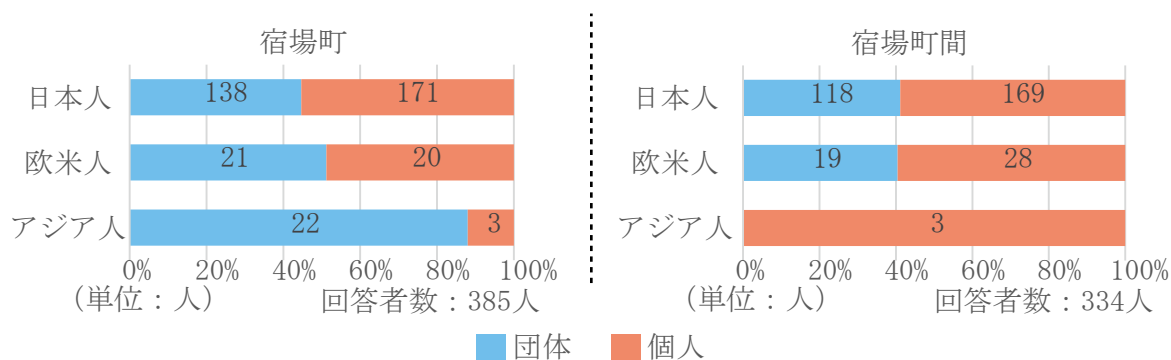


図3-4-1 宿場町、宿場町間における国籍別観光客の観光形態

## (2) 国籍別観光客のリピート率

宿場町及び宿場町間に訪れる観光客を日本人、欧米人、アジア人に分け、国籍別リピート率を集計したものを図3-4-2に示す。

宿場町に訪れる日本人観光客のリピート率は、「2回～5回」が6割程度に占めている。欧米人観光客とアジア人観光客のリピート率は「初めて」が9割程度に占めている。

宿場町間に訪れる日本人観光客のリピート率は「初めて」が6割程度で最も多くなっている、「2回～5回」が2割を超える。外国人観光客は「初めて」が6割を超えている。

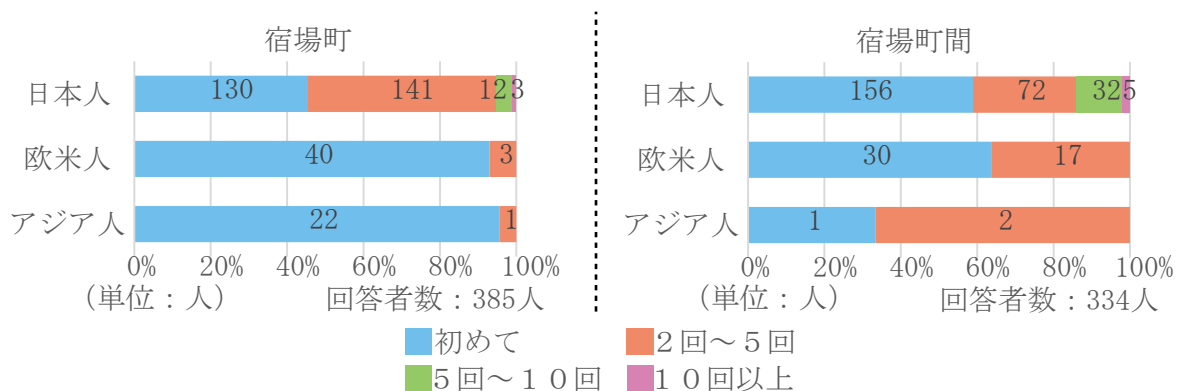


図3-4-2 宿場町、宿場町間における国籍別観光客のリピート率

### (3) 国籍別観光客の宿泊先

宿場町及び宿場町間に訪れる観光客の宿泊先を日本人、欧米人、アジア人に分け、国籍別宿泊先を集計したものを図3-4-3に示す。

宿場町に訪れる日本人観光客の宿泊先は、「自家」が6割程度に占める。欧米人観光客は「ホテル」と「民宿」が各半割程度に占めている。アジア人観光客は「ホテル」が8割程度に占めている。

宿場町間に訪れる日本人観光客の宿泊先は「自家」が7割に越える。欧米人は「民宿」が8割に越えている。

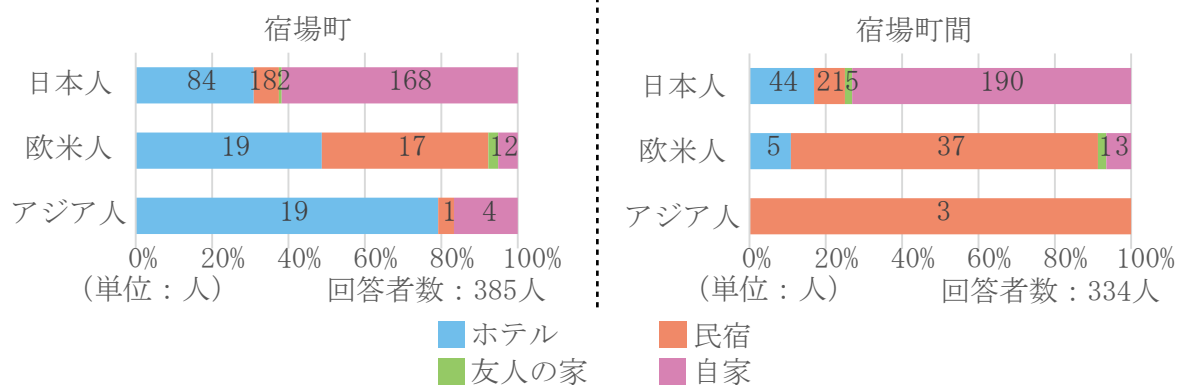


図3-4-3 宿場町、宿場町間における国籍別観光客の宿泊先

(4) 国籍別観光客の観光場所までの交通手段

宿場町及び宿場町間に訪れる観光客の観光場所までの交通手段を日本人、欧米人、アジア人に分け、国籍別観光場所までの交通手段を集計したものを図3-4-5に示す。

宿場町に訪れる日本人観光客の観光場所までの交通手段は、「車」が6割程度に越えている。欧米人観光客は「徒歩」が4割で多くなっている、次に「電車」が2割で多くなっている。アジア人観光客は「バス」が6割程度に占めている。

宿場町間に訪れる日本人観光客の観光場所までの交通手段は、「車」が4割で最も多くなっている、次に「徒歩」が3割で多くなっている。欧米に観光客は「徒歩」が5割程度で多くなっている、次に「電車」が4割で多くなっている。

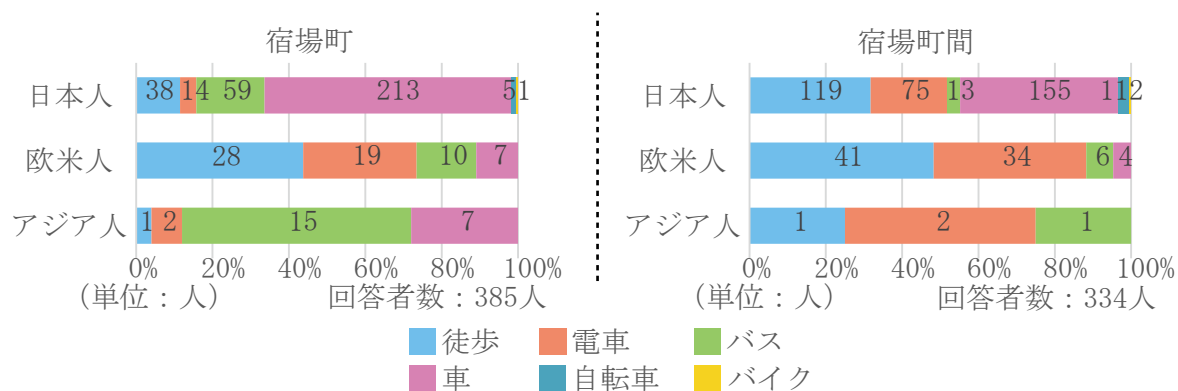


図3-4-4 宿場町、宿場町間における国籍別観光客の観光場所までの交通手段

(5) 国籍別観光客の観光場所からの交通手段

宿場町及び宿場町間に訪れる観光客の観光場所からの交通手段を日本人、欧米人、アジア人に分け、国籍別観光場所までの交通手段を集計したものを図3-4-5に示す。

宿場町に訪れる日本人観光客の観光場所からの交通手段は、「車」が6割程度に越えている。欧米人観光客は「徒歩」、「電車」、「バス」が各3割に占めている。アジア人観光客は「バス」が4割程度で最も多くなっている、次に「徒歩」が3割で多くなっている。

宿場町間に訪れる日本人観光客の観光場所からの交通手段は、「車」と「徒歩」が各4割に占めている。欧米人観光客は「電車」と「徒歩」が各4割に占めている。

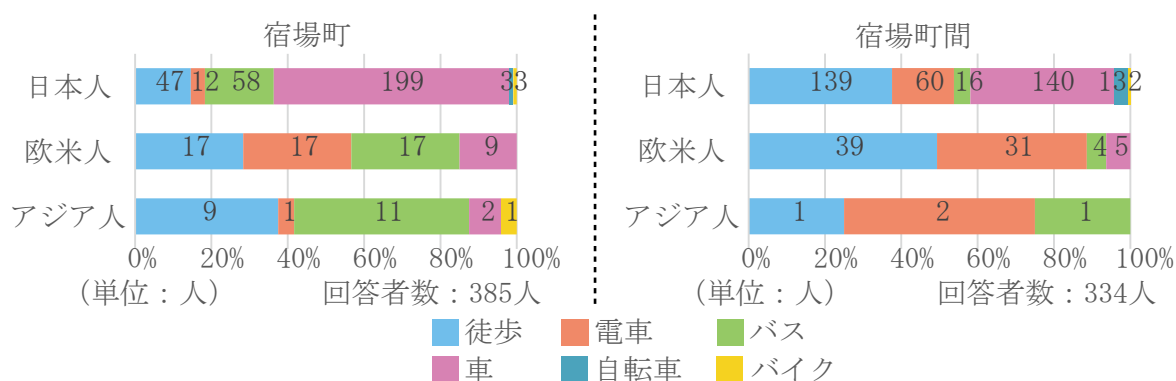


図3-4-5 宿場町、宿場町間における国籍別観光客の観光場所からの交通手段



## (6) 国籍別観光客の情報収集方法

宿場町及び宿場町間に訪れる観光客の観光場所からの交通手段を日本人、欧米人、アジア人に分け、国籍別情報収集手段を集計したものを図3-4-6に示す。

宿場町に訪れる日本人観光客の情報収集手段は、「元々知っていた」が4割程度に占めている。欧米人観光客は「観光ツアー」が7割に占めている。アジア人観光客は「インターネット」が4割程度で最も多くなっている、次に「元々知っていた」が3割で多くなっている。

宿場町間に訪れる日本人観光客の情報収集手段は、「元々知っていた」が4割程度で最も多くなっている、次に「インターネット」が3割程度で多くなっている。欧米人観光客は「インターネット」が5割程度に占めている。

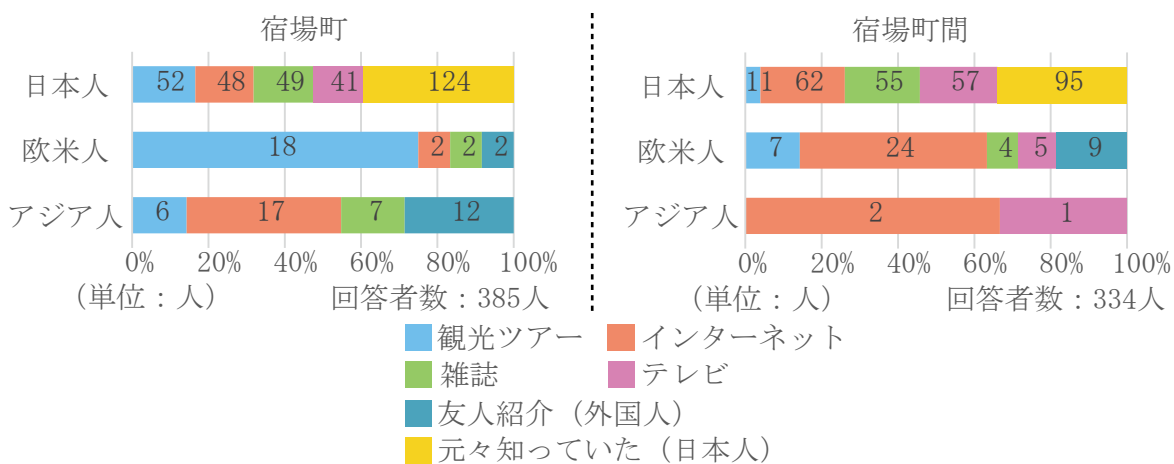


図3-4-6 宿場町、宿場町間における国籍別観光客の情報収集方法

### 3-4-2 観光場所別観光客の観光動向

#### (1) 観光場所別観光客の観光形態

宿場町及び宿場町間に訪れる観光客を日本人、欧米人、アジア人に分け、観光場所別観光形態を集計したものを図3-3-7に示す。

宿場町に訪れる観光客の観光形態については、日本人はA妻籠、B馬籠宿、F大湫宿、G細久手宿で「団体」の割合が高くなっている、ほかの宿場町は「個人」の割合が高くなっている。欧米人観光客はA妻籠宿で「団体」と「個人」がそれぞれ半数に占める、B馬籠宿で「団体」が7割程度に占めている。C落合宿とE大井宿で20代、30代が合わせて6割以上に超えている、A馬籠宿で30代と50代が各2割に占めている。アジア人観光客はB馬籠宿で「団体」が9割以上に超えている。

宿場町間に訪れる観光客の観光形態については、日本人はI妻籠～馬籠とII馬籠～落合で「団体」と「個人」がそれぞれ半数に占めている、IV中津川～大井、V大井～大湫、VI大湫～細久手、VII細久手～御嵩で「個人」が6割程度に占めている。III落合～中津川、VIII御嵩～伏見、IX伏見～大田で「個人」のみである。

各宿場町においては、A妻籠宿とF大湫宿で「団体」と「個人」が各半割に占めている、B馬籠宿、G細久手宿で「団体」の割合が6割以上に占めているが、ほかの宿場町は「個人」の割合が高くなっている。

各宿場町間においては、I妻籠～馬籠とII馬籠～落合、V大井～大湫、VII細久手～御嵩で「団体」と「個人」が各半割に占めているが、ほかの宿場町間は「個人」の割合が高くなっている。

全宿場町及び宿場町間に訪れる観光客の観光形態については、「団体」の観光客が多く訪れられるのはA妻籠宿、I妻籠～馬籠、B馬籠宿、G細久手宿である、「個人」の観光客が多く訪れるのはC落合宿、III落合～中津川、D中津川宿、IV中津川～大井、E大井宿、H御嵩宿、VIII御嵩～伏見、I伏見宿、IX伏見～大田、J太田宿である。

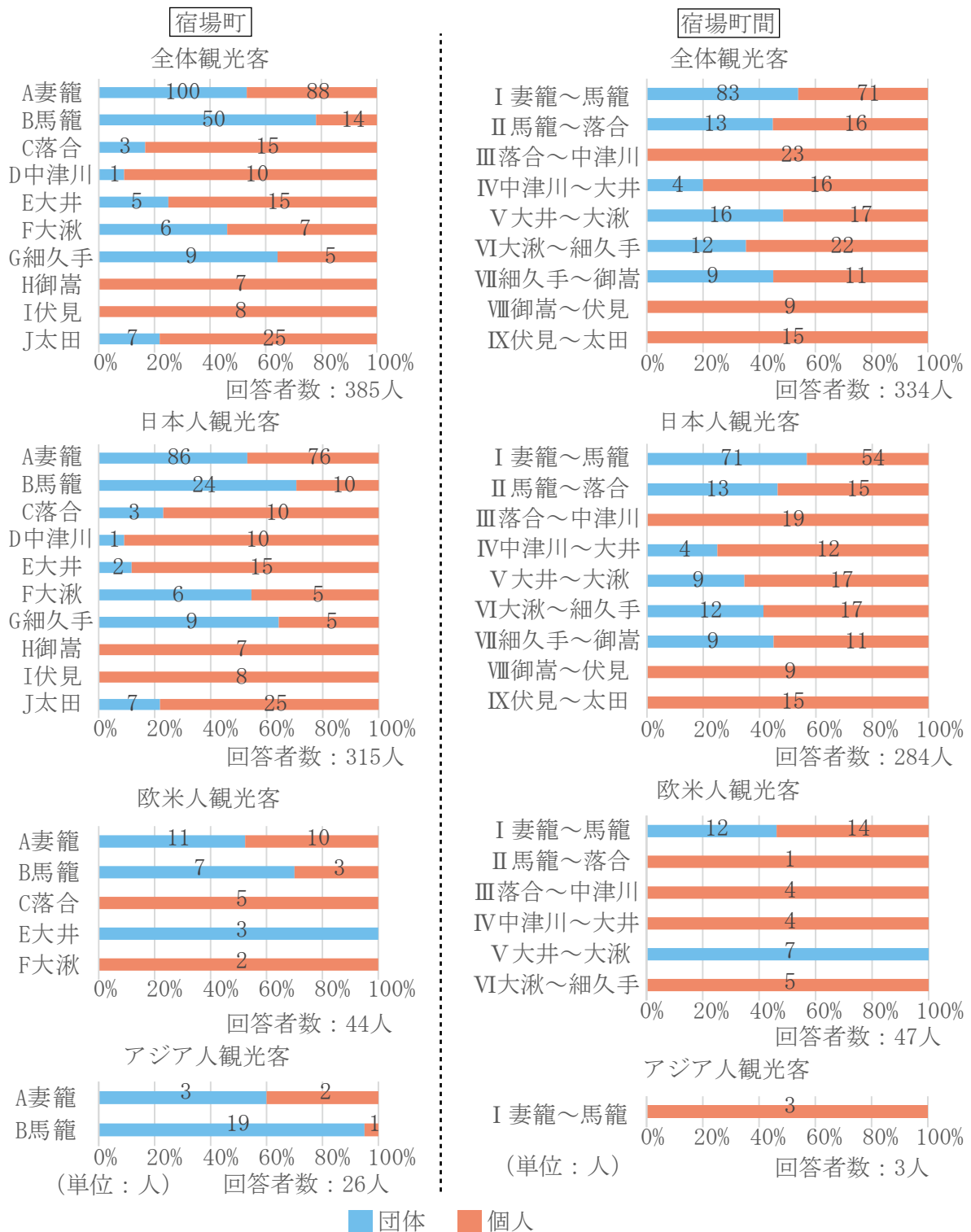


図3-4-7 宿場町、宿場町間における観光場所別観光客の観光形態

## (2) 観光場所別観光客のリピート率

宿場町及び宿場町間に訪れる観光客を日本人、欧米人、アジア人に分け、観光場所別リピート率を集計したものを図3-3-8に示す。

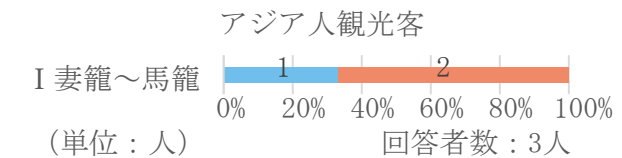
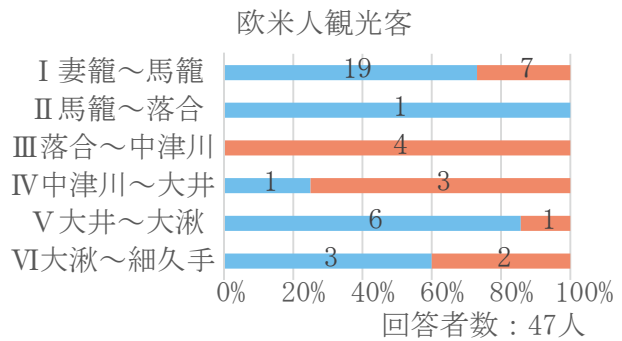
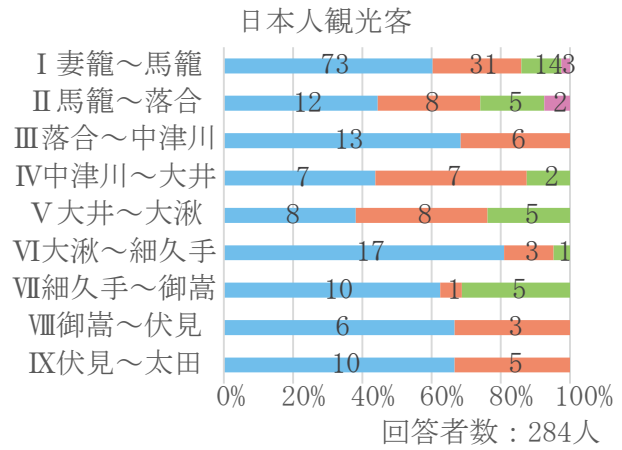
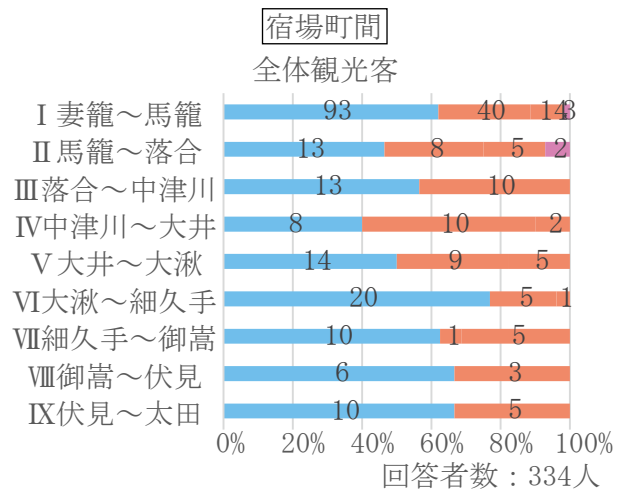
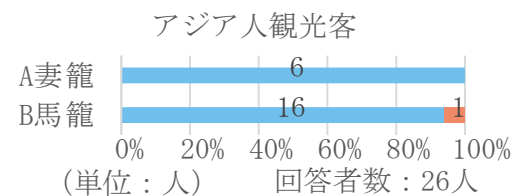
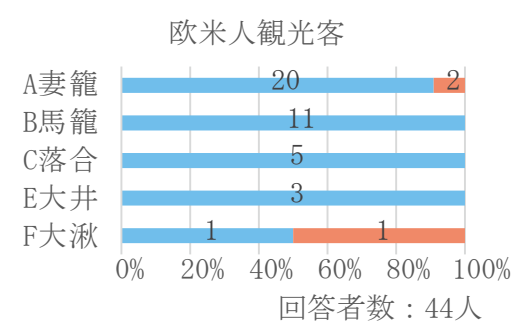
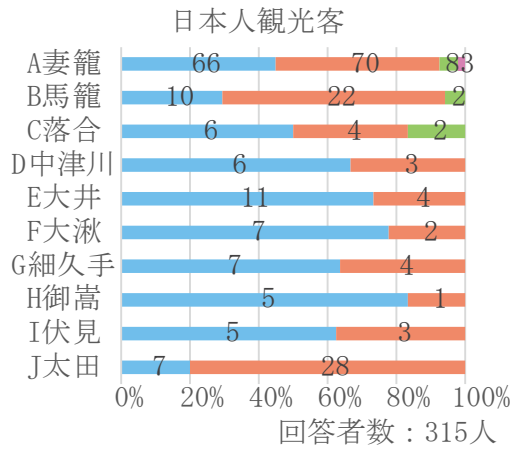
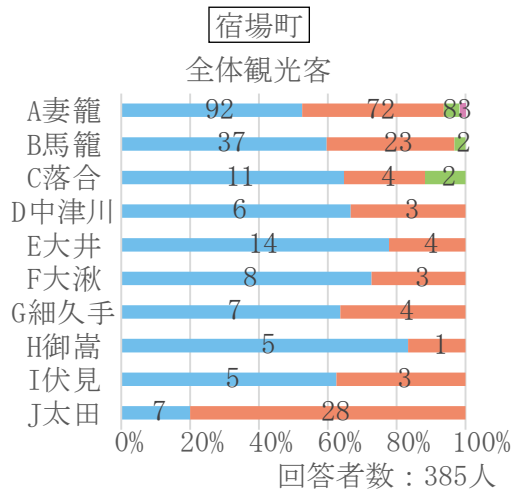
宿場町に訪れる観光客のリピート率については、日本人はJ太田宿で「2回～5回」が8割に占めている、A妻籠宿で「初めて」が5割程度、「2回～5回」が4割程度に占めているが、ほかの宿場町は「初めて」が6割以上に占めている。欧米人観光客はA妻籠宿で「初めて」が9割以上、B馬籠宿やC落合宿、E大井宿ですべて「初めて」である。アジア人観光客はB馬籠宿で「初めて」が9割以上、A妻籠宿ですべて「初めて」である。

宿場町間に訪れる観光客のリピート率については、日本人はVI大湫～細久手で「初めて」が8割程度に占めているが、I妻籠～馬籠やIII落合～中津川やVII細久手～御嵩、VIII御嵩～伏見、IX伏見～大田で「初めて」が6割程度に占めている。IV中津川～大井とV大井～大湫でリピート率が高い区間である。欧米人はIII落合～中津川とIV中津川～大井のリピート率が7割以上に超えているが、I妻籠～馬籠とV大井～大湫で「初めて」が7割以上に占めている。

各宿場町においては、J太田宿で「2回～5回」が8割に超え、リピート率が最も高くなっている。逆にE大井宿、F大湫宿、H御嵩宿で「初めて」が7割に超えている、リピート率が最も低い宿場町である。

各宿場町間においては、II馬籠～落合、IV中津川～大井、V大井～大湫で「2回～5回」と「10回以上」を合わせて5割に超え、リピート率が最も高くなっている。I妻籠～馬籠やVI大湫～細久手、VII細久手～御嵩、VIII御嵩～伏見、IX伏見～大田で「初めて」が6割に超え、リピート率が最も低い宿場町間である。

全宿場町及び宿場町間に訪れる観光客のリピート率については、「初めて」の割合が最も高いのはE大井宿、H御嵩宿、F大湫宿、VI大湫～細久手である。「2回～5回」の割合が最も高いのはA妻籠宿、II馬籠～落合、IV中津川～大井、J太田宿である。「5回以上」の割合が最も高いのはC落合宿、A妻籠宿である。



初めて 2回～5回  
5回～10回 10回以上

図3-4-8 宿場町、宿場町間における観光場所別観光客のリピーター率

### (3) 観光場所別観光客の宿泊先

宿場町及び宿場町間に訪れる観光客を日本人、欧米人、アジア人に分け、観光場所別宿泊先を集計したものを図3-3-9に示す。

宿場町に訪れる観光客の宿泊先については、日本人は全体的に「自家」が多いが、E大井宿で「ホテル」が6割程度を超える。欧米人観光客はA妻籠宿とB馬籠宿で「民宿」が5割以上に超えるが、C落合宿で「ホテル」のみである。アジア人観光客は「ホテル」で泊まるが多くなっている。

宿場町間に訪れる観光客の宿泊先については、日本人は全体的に「自家」が多くなっているが、V大井～大湫で「ホテル」が4割以上に超えている。欧米人とアジア人観光客は「民宿」で泊まるが多くなっている。

各宿場町においては、B馬籠宿、C落合宿とE大井宿で「ホテル」で泊まる割合が6割程度に占めている、他の宿場町で「自家」の場合が多くなっている。

各宿場町間においては、IV中津川～大井で「民宿」で泊まる割合が4割程度で最も高くなっている、他の宿場町間で「自家」の場合が多くなっている。

全宿場町及び宿場町間に訪れる観光客の宿泊先については、「ホテル」の割合が最も高いのはB馬籠宿、C落合宿とE大井宿である。「民宿」の割合が最も高いのはA妻籠宿、III落合～中津川、IV中津川～大井、V大井～大湫、F大湫宿である。

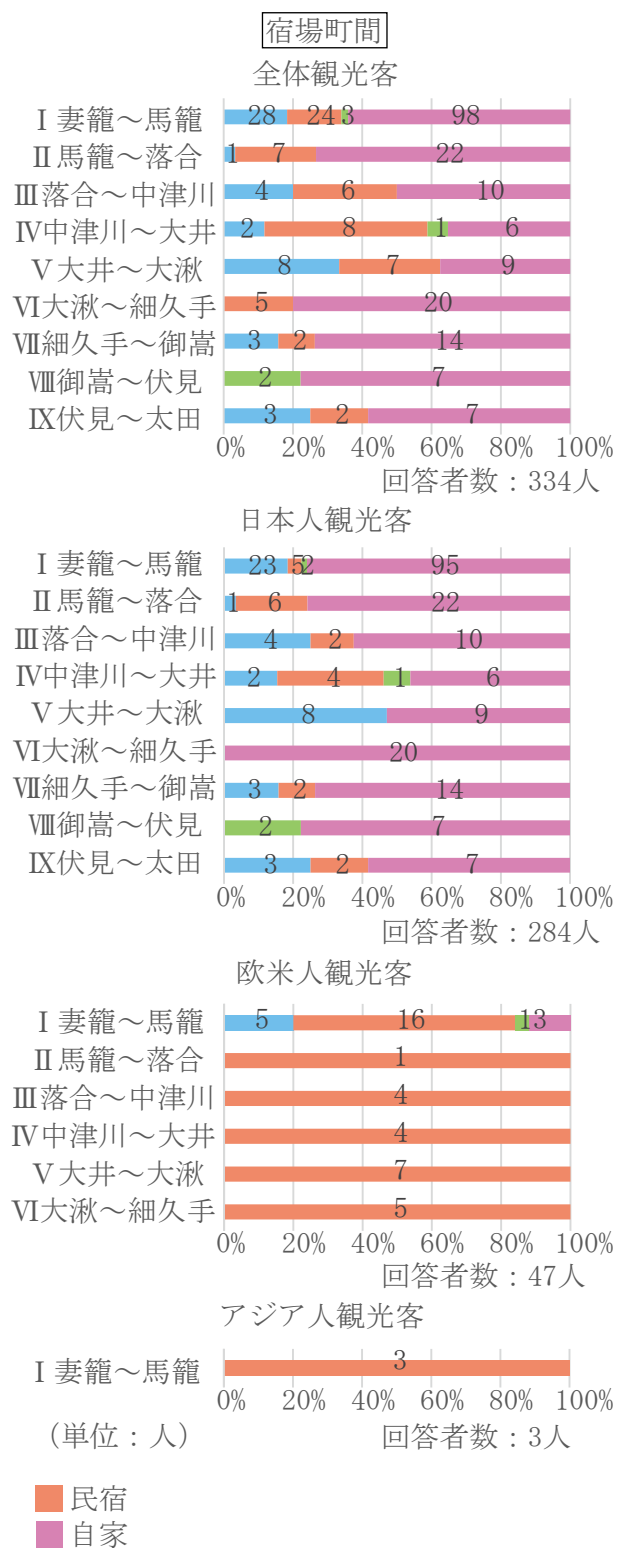
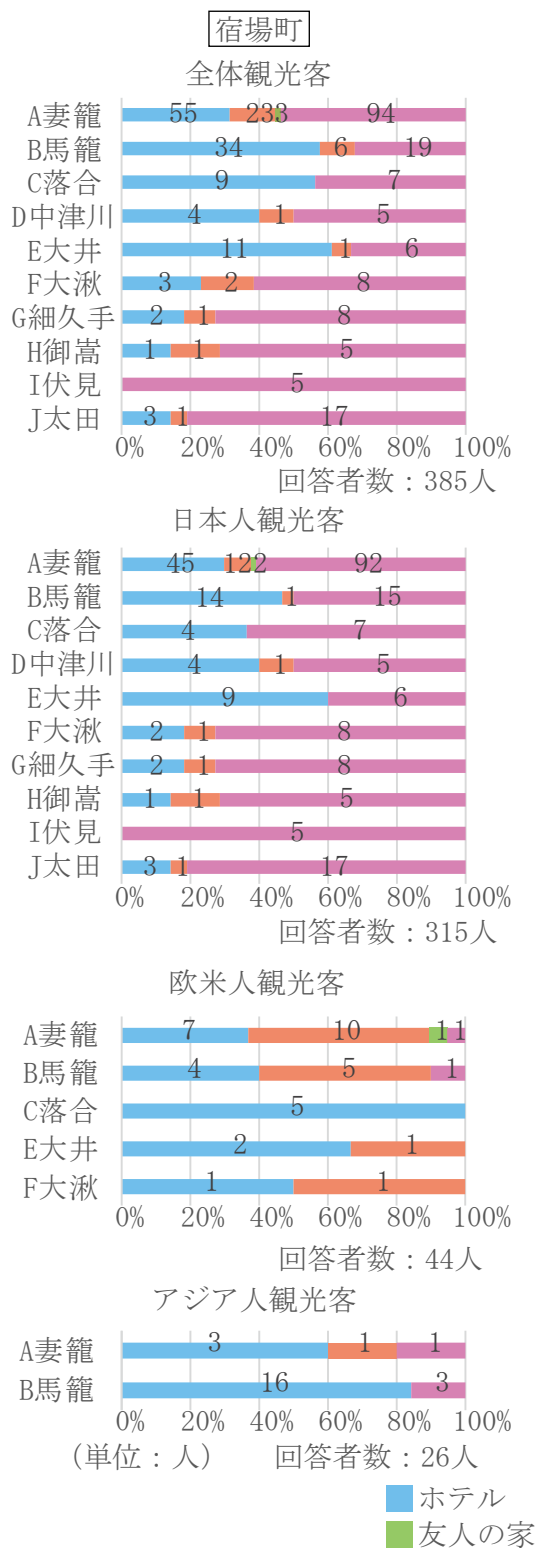


図3-4-9 宿場町、宿場町間における観光場所別観光客の宿泊先

#### (4) 観光場所別観光客の観光場所までの交通手段

宿場町及び宿場町間に訪れる観光客を日本人、欧米人、アジア人に分け、観光場所別観光場所までの交通手段を集計したものを図3-3-10に示す。

宿場町に訪れる観光客の観光場所までの交通手段については、日本人は全体的に「車」が多くなっているが、A妻籠宿やB馬籠宿、C落合宿で「バス」で来る方も多くなっている。欧米人観光客は全体的に「徒歩」の割合が高くなっているが、次に「電車」の割合も高い。アジア人観光客は「バス」の割合が高くなっている。

宿場町間に訪れる観光客の観光場所までの交通手段については、日本人はⅡ馬籠～落合、Ⅳ中津川～大井、Ⅴ大井～大湫で「徒歩」の割合が高くなっている、Ⅰ妻籠～馬籠やⅦ細久手～御嵩、Ⅷ御嵩～伏見で「車」の割合が高くなっている。欧米人観光客は全体的に「徒歩」の割合が高いが、次に「電車」の割合も高くなっている。

各宿場町においては、「徒歩」の割合が低く、「車」の割合が高くなっている。A妻籠宿とB馬籠宿は「バス」の割合も高く見られる。

各宿場町間においては、Ⅱ馬籠～落合、Ⅲ落合～中津川、Ⅳ中津川～大井、Ⅴ大井～大湫、Ⅵ大湫～細久手で「徒歩」の方が4割以上に超えているが、Ⅰ妻籠～馬籠やⅦ細久手～御嵩、Ⅷ御嵩～伏見で「車」の割合が高い。

全宿場町及び宿場町間に訪れる観光客の観光場所までの交通手段については、「徒歩」の割合が最も高いのはC落合宿、D中津川宿、Ⅳ中津川～大井、Ⅴ大井～大湫、Ⅵ大湫～細久手、Ⅰ伏見宿である。「電車」の割合が最も高いのはⅡ馬籠～落合、Ⅲ落合～中津川、Ⅳ中津川～大井、Ⅵ大湫～細久手である。「バス」の割合が最も高いのはA妻籠宿とB馬籠宿である。宿場町では「車」で来る観光客多く、宿場町間では「徒歩」と「電車」で来る観光客が多い。



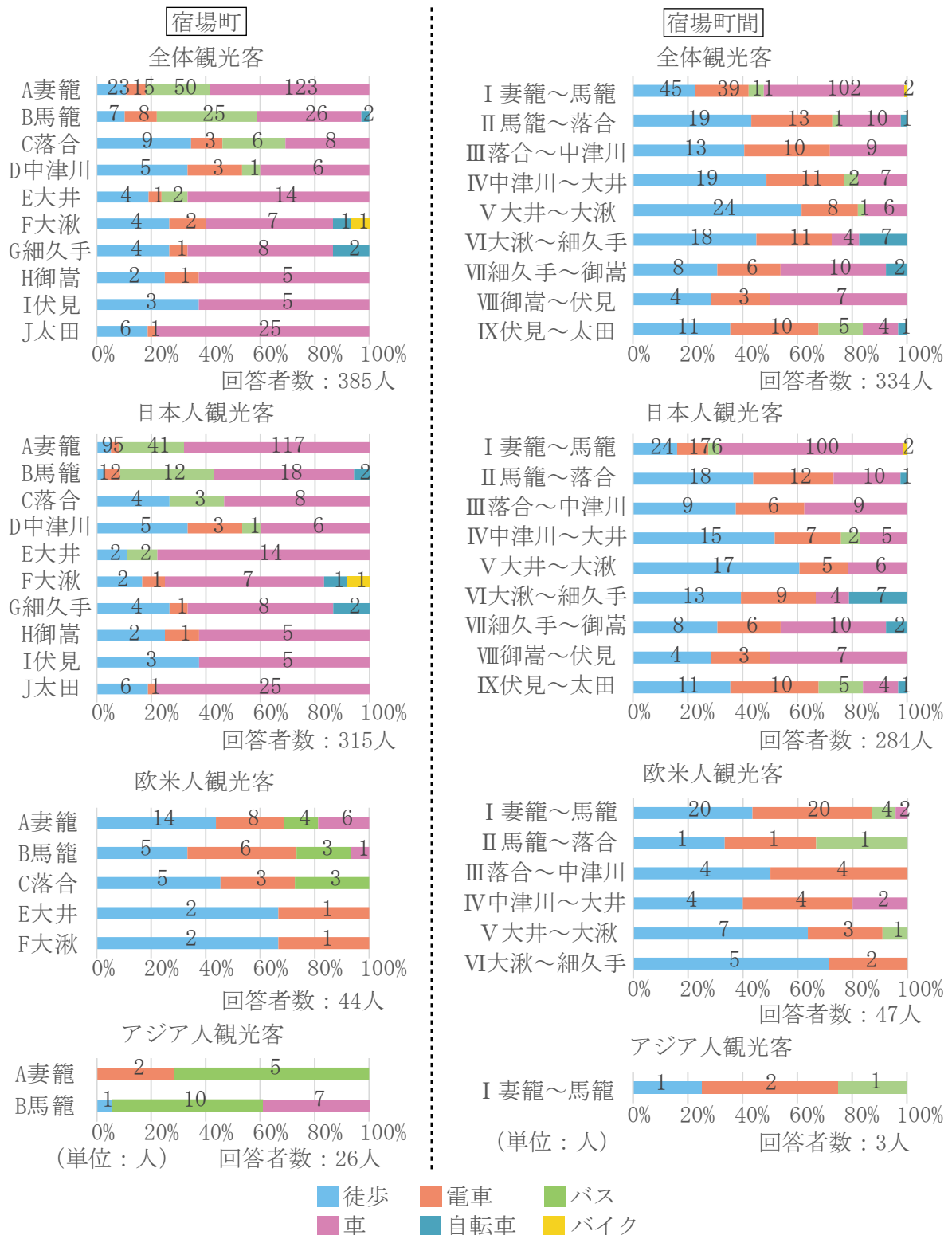


図3-4-10 宿場町、宿場町間における観光場所別観光客観光場所までの交通手段

#### (5) 観光場所別観光客の観光場所からの交通手段

宿場町及び宿場町間に訪れる観光客を日本人、欧米人、アジア人に分け、観光場所別観光場所からの交通手段を集計したものを図3-3-11に示す。

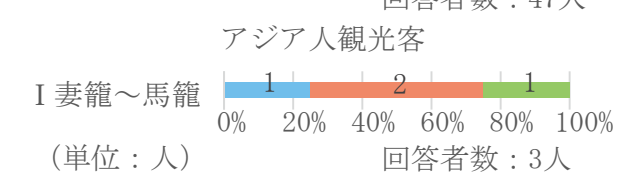
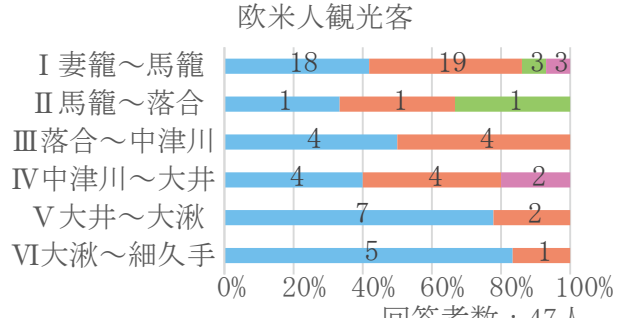
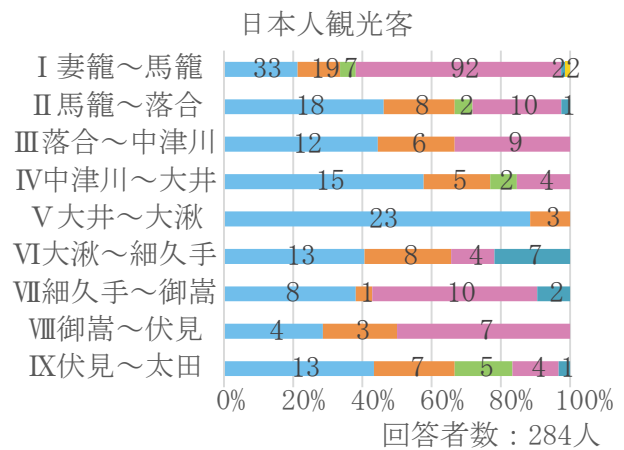
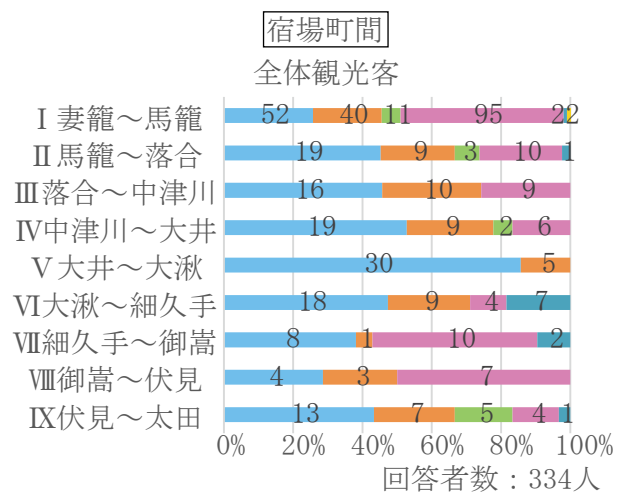
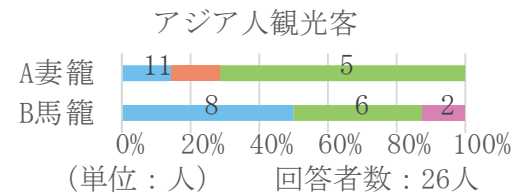
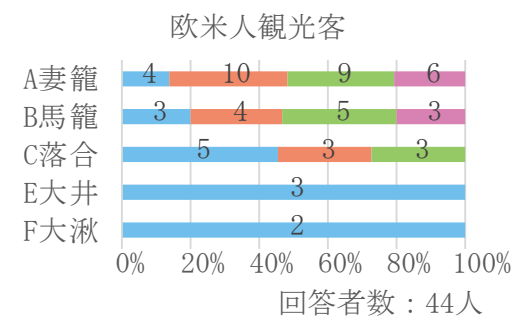
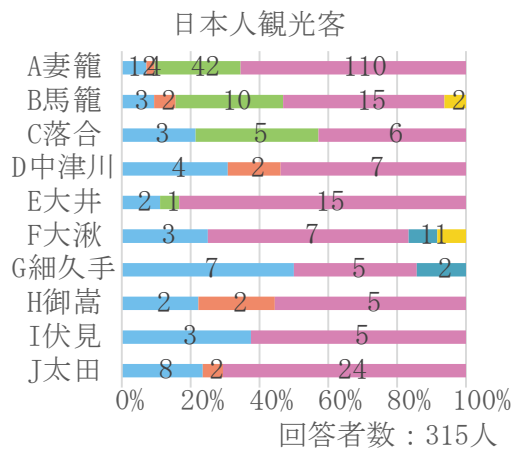
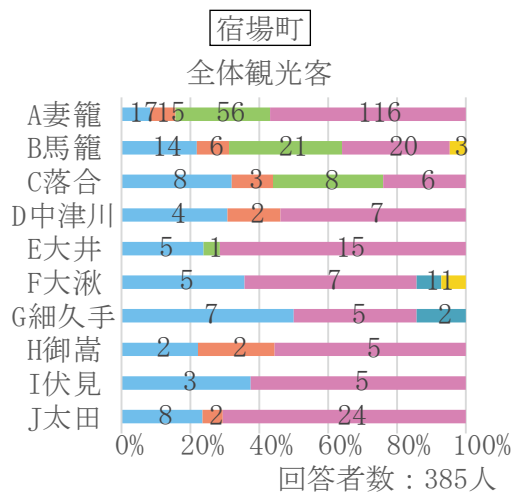
宿場町に訪れる観光客の観光場所からの交通手段については、日本人は全体的に「車」が多いが、A妻籠宿やB馬籠宿、C落合宿で「バス」で来る方も多くなっている。欧米人観光客はC落合宿、E大井宿、F大湫宿で「徒歩」の割合が高くなっているが、A妻籠宿で「電車」、B馬籠宿で「バス」の割合も高い。アジア人観光客は「バス」の割合が高くなっている。

宿場町間に訪れる観光客の観光場所からの交通手段については、日本人はⅡ馬籠～落合、Ⅲ落合～中津川、Ⅳ中津川～大井、Ⅴ大井～大湫、Ⅵ大湫～細久手、Ⅸ伏見～太田で「徒歩」の割合が高くなっている、Ⅰ妻籠～馬籠やⅦ細久手～御嵩、Ⅷ御嵩～伏見で「車」の割合が高くなっている。欧米人観光客は全体的に「徒歩」の割合が高いが、次に「電車」の割合も高くなっている。

各宿場町においては、「徒歩」の割合が低く、「車」の割合が高い。A妻籠宿、B馬籠宿とC落合宿は「バス」の割合も高い。

各宿場町間においては、Ⅱ馬籠～落合、Ⅲ落合～中津川、Ⅳ中津川～大井、Ⅴ大井～大湫、Ⅵ大湫～細久手、Ⅸ伏見～太田で「徒歩」の方が4割以上に超えているが、Ⅰ妻籠～馬籠やⅦ細久手～御嵩、Ⅷ御嵩～伏見で「車」の割合が高くなっている。

全宿場町及び宿場町間に訪れる観光客の観光場所からの交通手段については、「徒歩」の割合が最も高いのはⅡ馬籠～落合、Ⅲ落合～中津川、Ⅴ大井～大湫、Ⅵ大湫～細久手、G細久手である。「電車」の割合が最も高いのはⅡ馬籠～落合、Ⅲ落合～中津川、Ⅳ中津川～大井、Ⅵ大湫～細久手、Ⅸ伏見～太田である。「バス」の割合が最も高いのはA妻籠宿とB馬籠宿である。宿場町では「車」で行く観光客多く、宿場町間では「徒歩」と「電車」で行く観光客が多くなっている。



■ 徒歩    ■ 電車    ■ バス  
■ 車    ■ 自転車    ■ バイク

図3-4-1-1 宿場町、宿場町間における観光場所別観光客観光場所からの交通手段

## (6) 観光場所別観光客の情報収集手段

宿場町及び宿場町間に訪れる観光客を日本人、欧米人、アジア人に分け、観光場所別情報収集手段を集計したものを図3-3-12に示す。

宿場町に訪れる観光客の情報収集手段については、日本人観光客は全体的に「元々知っていた」の割合が高くなっている。欧米人観光客はA妻籠宿で「インターネット」から知っていたが4割以上に超えている、B馬籠宿で「友人紹介」が4割以上に超えている。アジア人観光客は「観光ツアー」から知っていたの割合が高くなっている。

宿場町間に訪れる観光客の情報収集手段については、日本人観光客はI妻籠～馬籠とII馬籠～落合で様々の方法から知っていた、III落合～中津川で「雑誌」から知っていた割合が最も高くなっている、IV中津川～大井やV大井～大湫、VI大湫～細久手で「テレビ」の紹介から知っていたが4割程度に占めているが、欧米人観光客とアジア人観光客は「インターネット」から知っていたが多い。

各宿場町においては、A妻籠宿やB馬籠宿、C落合宿で「観光ツアー」、「インターネット」、「雑誌」と「テレビ」の様々の方法から知っていた、他の宿場町は「元々知っていた」が多く、地元から宣伝が不足と考えられる。

各宿場町間においては、I妻籠～馬籠やII馬籠～落合、III落合～中津川、IV中津川～大井で「観光ツアー」、「インターネット」、「雑誌」と「テレビ」の様々の方法から知っていたが、V大井～大湫とVI大湫～細久手で「テレビ」の紹介から知っていたが5割程度に占める。

全宿場町及び宿場町間に訪れる観光客の情報収集手段については、「観光ツアー」の割合が最も高いのはA妻籠宿とB馬籠宿である。「インターネット」から知っていた割合が最も高いのはI妻籠～馬籠やII馬籠～落合、III落合～中津川、IV中津川～大井、F大湫宿、VI大湫～細久手である。「雑誌」から知っていた割合が最も高いのはI妻籠～馬籠や、C落合宿、III落合～中津川、G細久手である。「テレビ」から知っていた割合が最も高いのはC落合宿、V大井～大湫、VI大湫～細久手である。

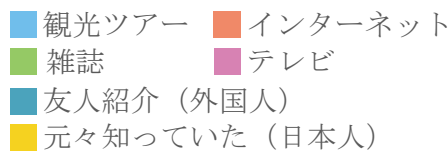
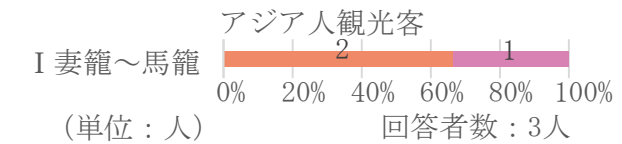
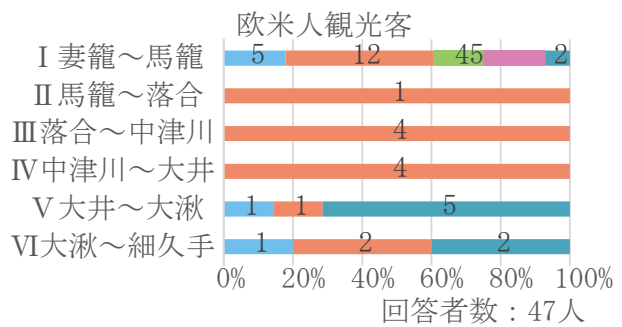
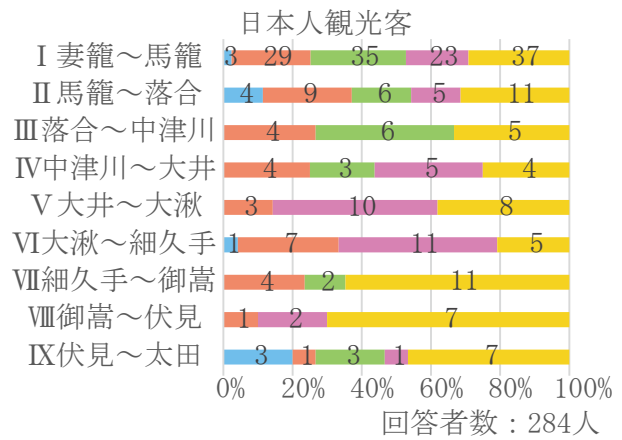
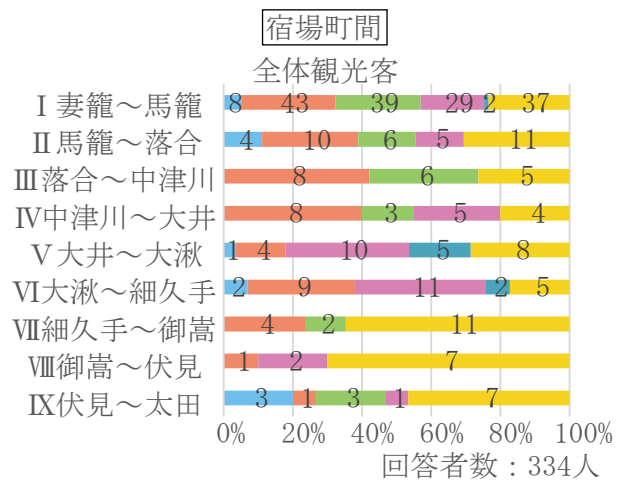
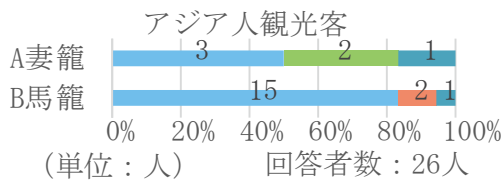
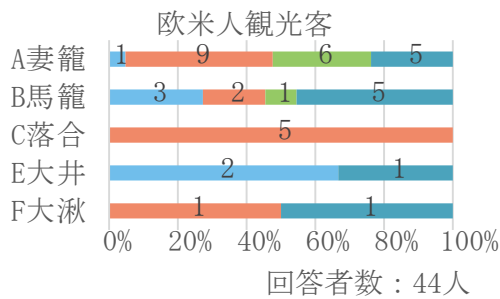
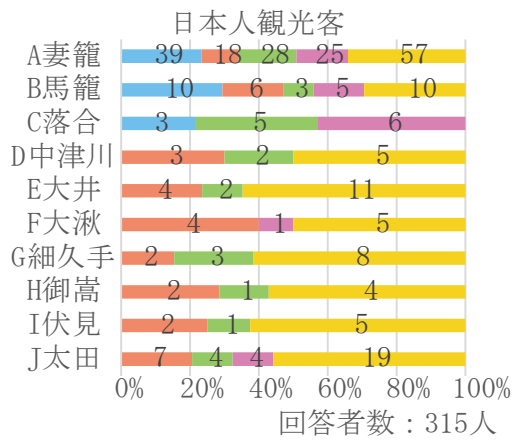
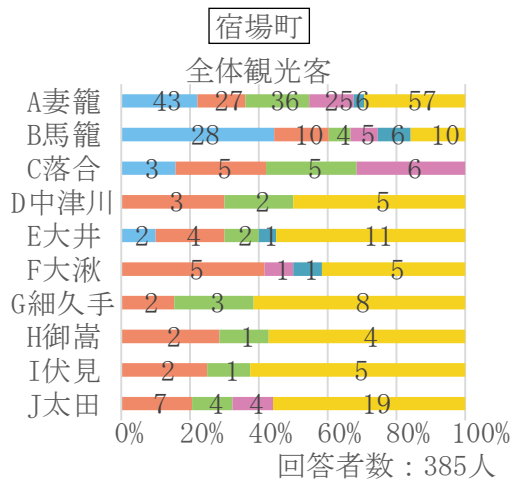


図3-4-12 宿場町、宿場町間における観光場所別観光客の情報収集手段

## 第5節 観光客の観光意識

本節では中山道東美濃路の宿場町と宿場町間に訪れる日本人及び欧米人、アジア人観光客の観光目的及び宿場町間で徒歩観光客における困ったこと、観光案内所の立ち観光案内所で最も欲しいサービスなどの観光意識を国籍別と観光場所別により特性を明らかにする。

### 3-5-1 国籍別観光客の観光目的

宿場町及び宿場町間に訪れる観光客を日本人、欧米人、アジア人に分け、国籍別観光目的を集計したものを図3-5-1に示す。

宿場町に訪れる日本人、欧米人、アジア人観光客の観光目的は「自然景観を堪能する」が最も多く、次に「歴史的建造物の見物」と「日本伝統文化にふれる」が高い。

宿場町間に訪れる日本人観光客の観光目的は、「自然景観を堪能する」が3割程度で最も多く、次に「ショッピングをする」と「歴史的建造物の見物」が2割程度に占める。欧米人とアジア観光客は「自然景観を堪能する」と「日本伝統文化にふれる」が最も多く、次に「歴史的建造物の見物」と「日本食を味わう」が多い。

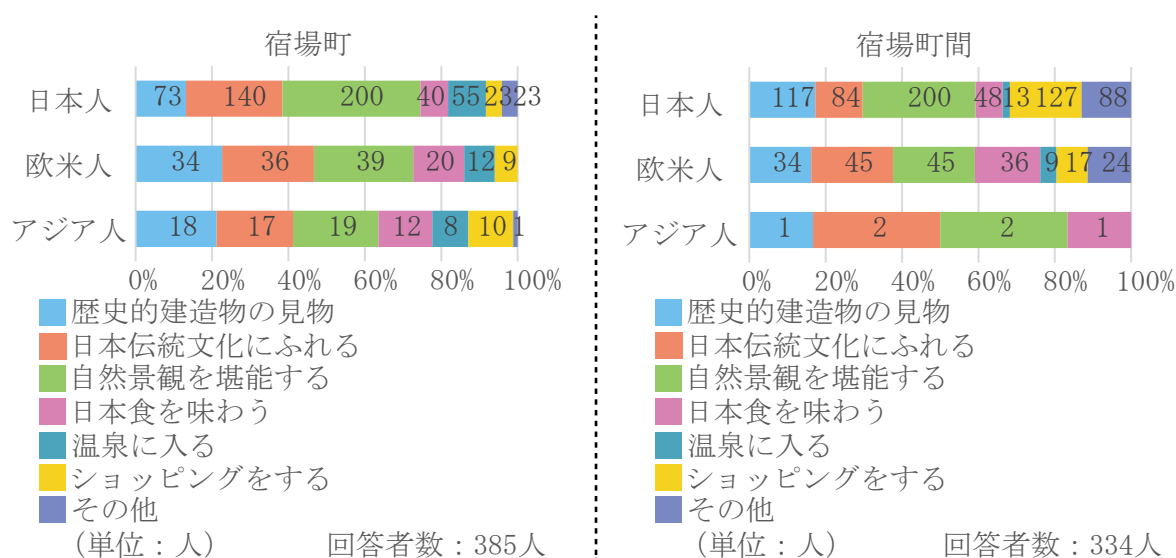


図3-5-1 宿場町、宿場町間における国籍別観光客の観光目的

### 3-5-2 観光場所別観光客の観光目的

宿場町及び宿場町間に訪れる観光客を日本人、欧米人、アジア人に分け、観光場所別観光目的を統計したものを図3-5-2に示す。

宿場町に訪れる観光客の観光目的については、日本人はD中津川宿、E大井宿、J太田宿で「歴史的建造物の見物」が3割合で最も高い、A妻籠宿やB馬籠宿、C落合宿、F大湫宿、G細久手で「自然景観を堪能する」が3割以上を占める。欧米人観光客はA妻籠宿で「自然景観を堪能する」と「歴史的建造物の見物」の割合が高い、B馬籠宿で「日本伝統文化に触れる」と「歴史的建造物の見物」の割合が高い。アジア人観光客は「歴史的建造物の見物」や「日本伝統文化に触れる」、「自然景観を堪能する」を合わせて6割以上となっている。

宿場町間に訪れる観光客の観光形態については、日本人はVI大湫～細久手で「自然景観を堪能する」で3割程度で最も多く、次に「ショッピングをする」で2割程度で多い、VIII御嵩～伏見で「ショッピングをする」で3割程度に占める、他の宿場町間で「自然景観を堪能する」と「歴史的建造物の見物」が多い。欧米人観光客とアジア人観光客と各宿場町間で日本伝統文化に触れる」と「自然景観を堪能する」の割合が高い。

全宿場町及び宿場町間に訪れる観光客の観光形態については、VIII御嵩～伏見は「ショッピングをする」の割合が高いが、他の宿場町と宿場町間は「歴史的建造物の見物」や「日本伝統文化に触れる」、「自然景観を堪能する」の割合が高い。

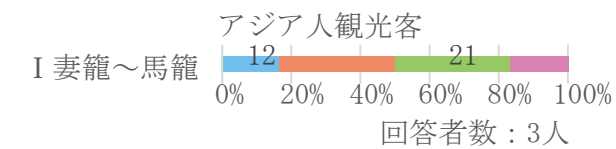
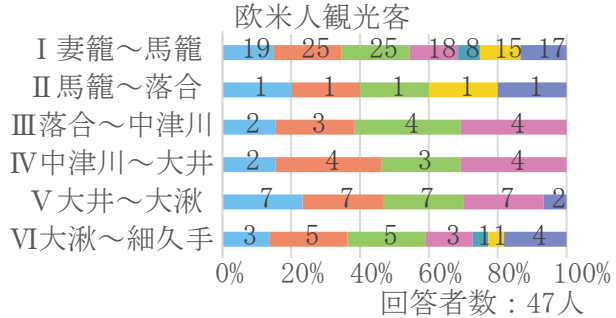
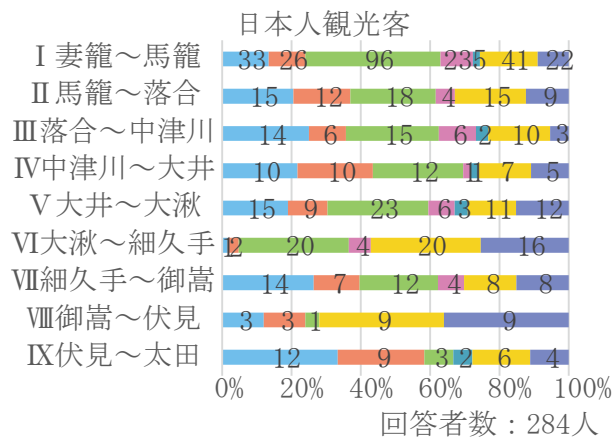
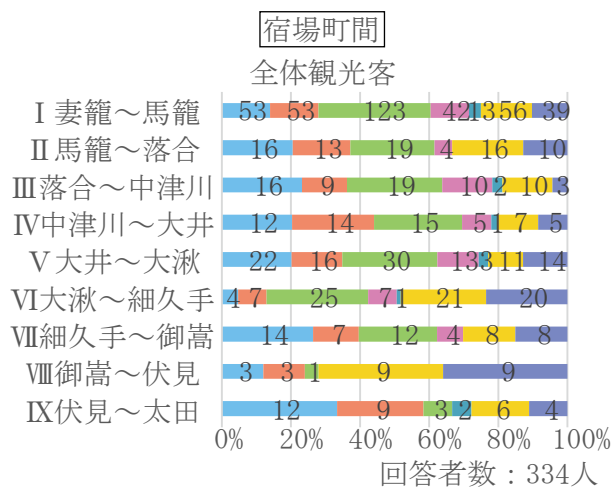
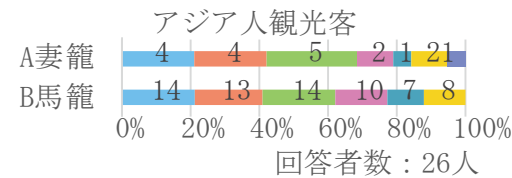
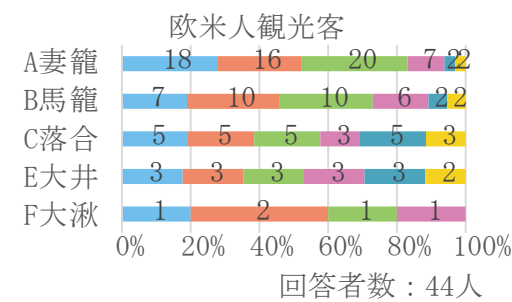
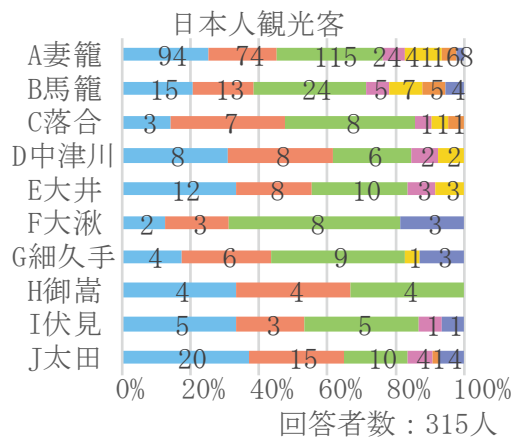
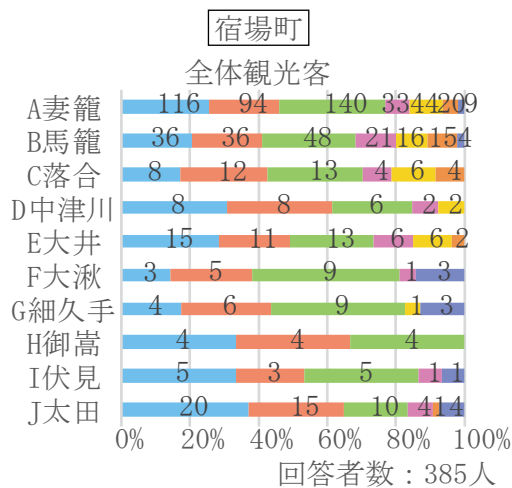


図3-5-2 宿場町、宿場町間における観光場所別観光客の観光目的

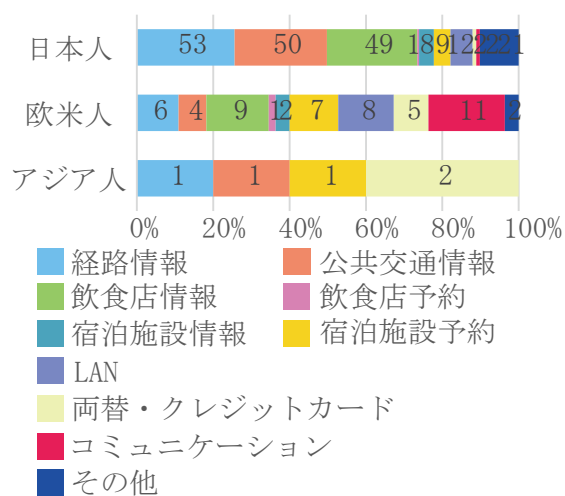


### 3-5-3 宿場町間における観光客の要望

#### (1) 困ったこと

宿場町間に訪れる外国人観光客を日本人、欧米人、アジア人に分け、徒歩観光で最も困ったことを集計したものを図3-5-3に示す。

日本人観光客は旧中山道の道筋などの「経路情報」や電車、バスなどの「公共交通情報」、地元料理や食堂、レストランなどの「飲食店情報」が各3割程度となっている。欧米人観光客は外国語案内システムや観光案内所の外国語対応が不足などの「コミュニケーション」ことが最も問題点と指摘されている。次に、「飲食店情報」やパソコンや携帯電話に繋がれる「LAN」、ホテルにより日本風情が濃い地元民宿の「宿泊施設予約」ができない。



回答者数：334人

図3-5-3 宿場町間で徒歩観光客が最も困ったこと

## (2) 観光案内所立地

宿場町間に訪れる外国人観光客を日本人、欧米人、アジア人に分け、観光案内所について最も望ましい立地を集計したものを図3-5-4に示す。

日本人観光客は「宿場町・観光名所」と「電車駅周辺」が各4割程度となっている。欧米人観光客は「電車駅周辺」が4割以上で最も高く、次に「宿泊施設」が2割を超えている。

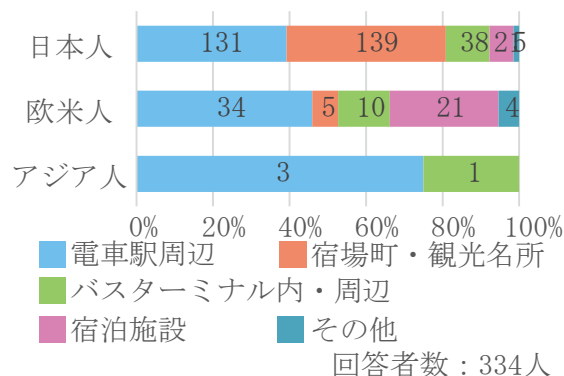


図3-5-4 宿場町間で徒歩観光客が観光案内所の最も望ましい立地

## (3) 観光案内所で最も欲しいサービス

宿場町間に訪れる外国人観光客を日本人、欧米人、アジア人に分け、観光案内所で最も欲しいサービスを統計したものを図3-5-5に示す。

日本人観光客は「公共交通情報」が4割程度で最も高く、次に「飲食店情報」が3割程度を超える。欧米人観光客は外国語案内システム、観光マップ・パンフレットと観光案内所の外国語スタッフなどの「外国語対応」の要望が最も多く、次に、「飲公共交通情報」や「飲食店情報」が多い。

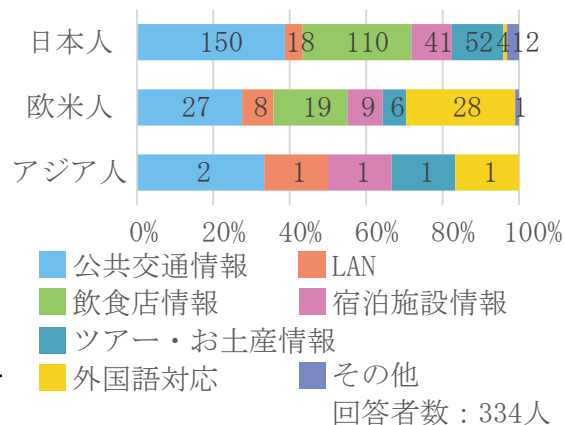


図3-5-5 宿場町間で徒歩観光客が観光案内所で最も欲しいサービス

## 第6節 観光客の観光環境評価

本節では観光客に対しての観光環境評価により各宿場町及び宿場町間の観光環境についての特質を明確するために、単純集計と因子分析を用い、分析と総括を行った。

### 3-6-1 観光客についての観光評価項目及び有効回答数

#### (1) 観光評価項目

各宿場町、宿場町間に訪れる日本人及び外国人観光客を対象とし、SD法を用い、「自然環境」、「歴史建造物」、「伝統的な雰囲気」、「街全体雰囲気」、「民宿」、「食堂・レストラン」、「休憩所」、「案内標識」、「マップ・パンフレット」、「交通の便」、「お土産」の11項目の観光環境について5段階評価を調査した。

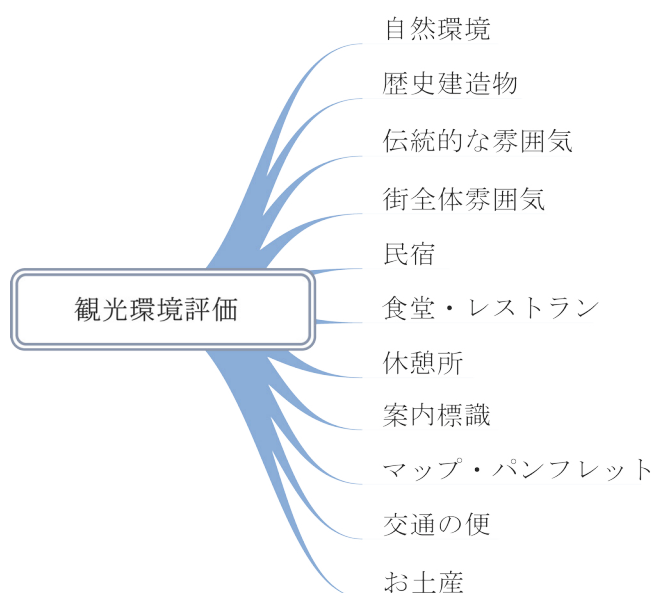


図3-6-1 宿場町間で徒歩観光客が観光案内所の最も望ましい立地

(2) 有効回答数

10宿場町で385名と9宿場町間で334名の回収結果から11項目の旅行環境評価をすべて答えた方を有効回答数とし、宿場町においては332名、宿場町間においては308名を有効回答数を得られた。各宿場町及び宿場町間の有効回答数を表3-6-2に示す。

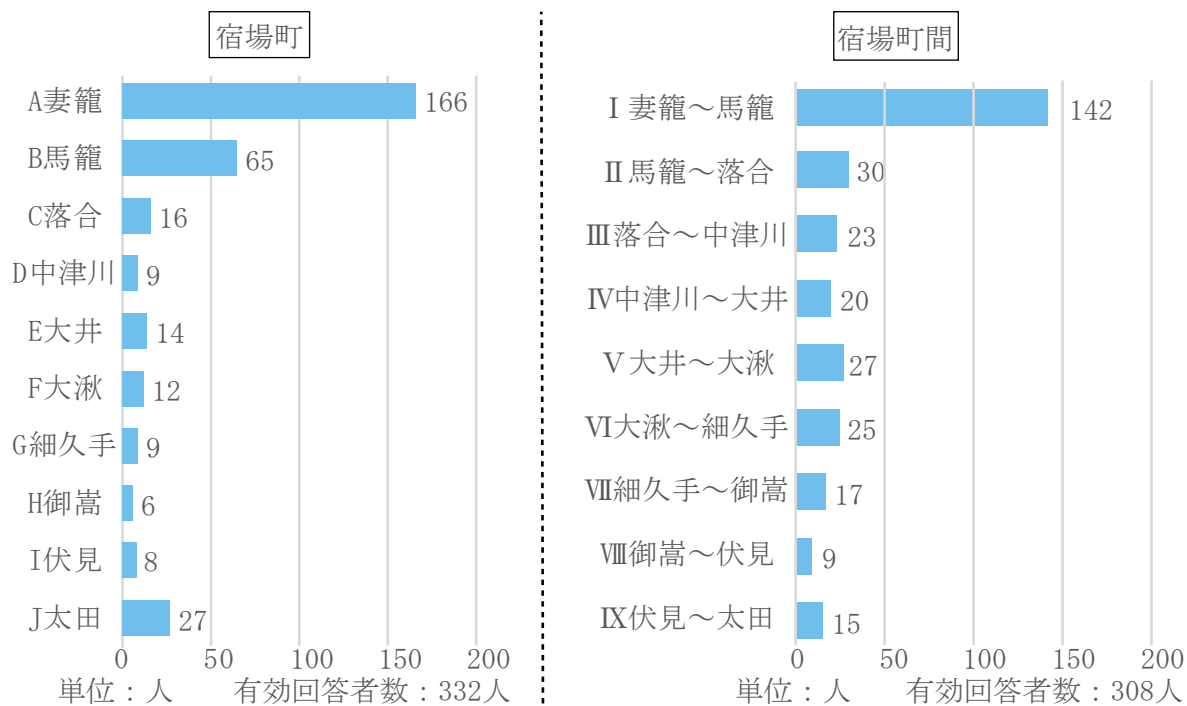


図3-6-2 各宿場町及び宿場町間で観光環境評価の有効回答数

### 3-6-2 観光客の性別、年齢、国籍別、観光場所別観光環境評価

#### (1) 全地域における観光環境評価

観光環境評価の傾向について意味構造を把握するためSD法評価を用い、全体宿場町及び宿場町間の平均評価得点を図3-6-3に占めす。平均評価得点2は良い、1はやや良い、0は普通、-1はやや悪い、-2は悪いとする。

全体評価はやや良い傾向であるが、「自然景観」の評価が一番高く、平均得点は1.5を超えている。次に、「歴史建造物」や「伝統的な雰囲気」、「街全体の雰囲気」、「休憩所」が1を超えている。「民宿」、「食堂・レストラン」、「案内標識」、「マップ・パンフレット」、「交通の便」、「お土産」が0.5を超えている。

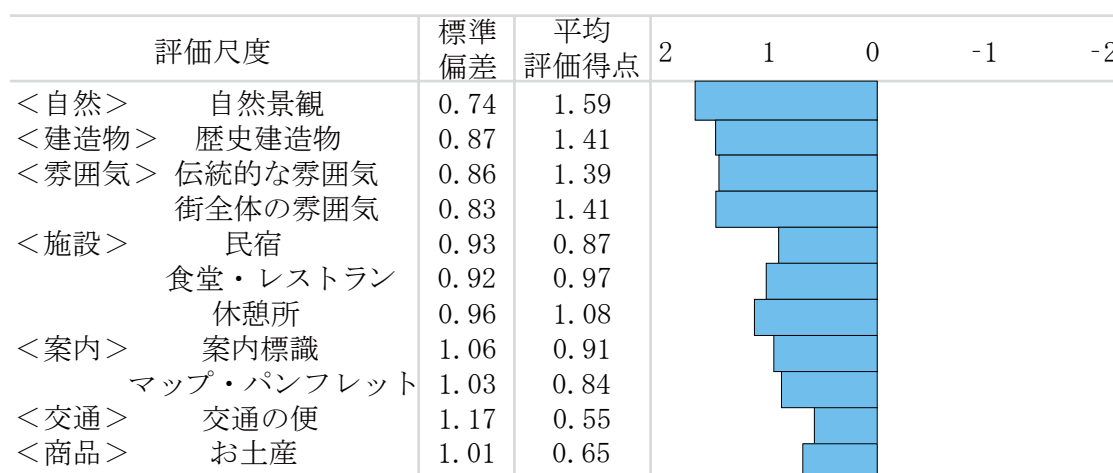


図3-6-3 全体宿場町及び宿場町間の平均評価得点

## (2) 観光客の性別別観光環境評価

観光客の性別別による各観光環境評価の平均値を図3-6-4に占めます。

宿場町については、男性も女性も「自然景観」の評価が最も高い、次に「歴史建造物」、「伝統的な雰囲気」、「街全体の雰囲気」の順に評価が高い。

宿場町間については、男性も女性も「自然景観」の評価が最も高い、次に「街全体の雰囲気」、「歴史建造物」、「伝統的な雰囲気」の順に評価が高い。「交通の便」、「お土産」は弱い傾向である。

宿場町及び宿場町間の各評価平均値については、男性が女性より高くなっているため、男性の方が満足度が高い。

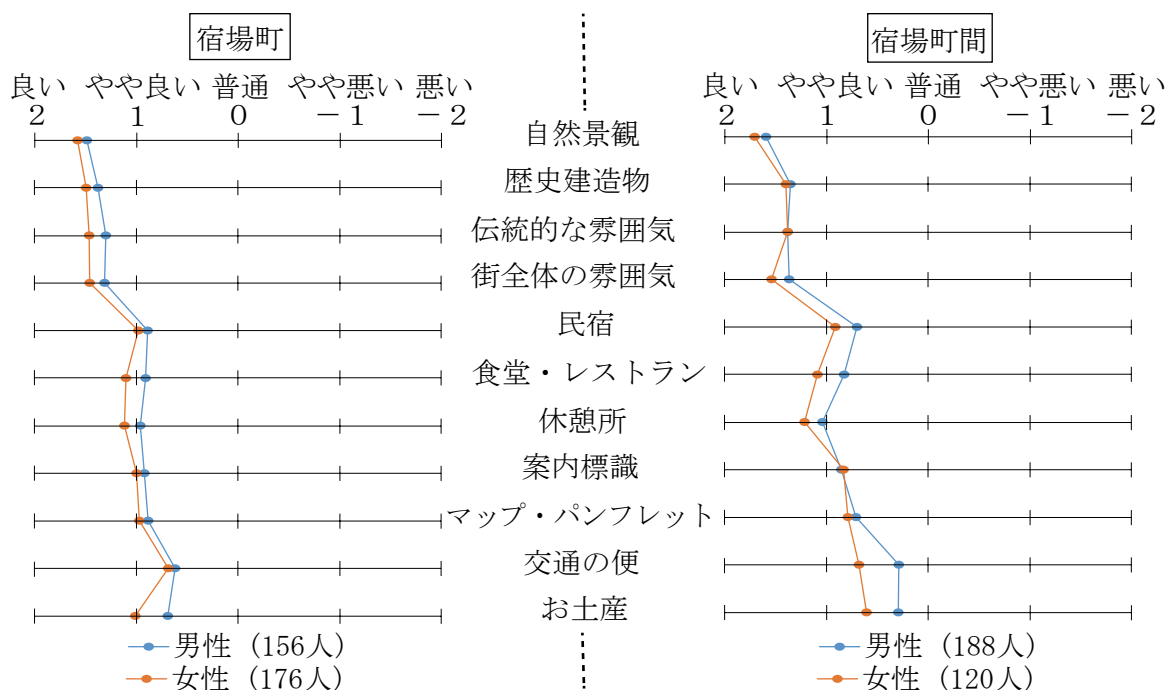


図3-6-4 宿場町、宿場町間における観光者の性別別観光環境評価

### (3) 観光客の年齢別観光環境評価

観光客の年齢別による各観光環境評価の平均値を図3-6-5に占めます。

宿場町については、各評価平均値は10代の評価が一番高い。次に、20代は「街全体の雰囲気」、「休憩所」、「交通の便」、「お土産」についての評価が10代以外の年齢層より高い。30代は「自然景観」、「歴史建造物」、「伝統的な雰囲気」についての評価が10代以外の年齢層より高い。

宿場町については、10代は「交通の便」、「お土産」についての評価が最も低い、以外の評価はほかの年齢層より高い。20代は「歴史建造物」、「伝統的な雰囲気」、「街全体の雰囲気」についての評価が10代以外の年齢層より高い。20代は「自然景観」についての評価が高いが、「歴史建造物」についての評価が低い。50代は「交通の便」、「お土産」についての評価が最も高い。

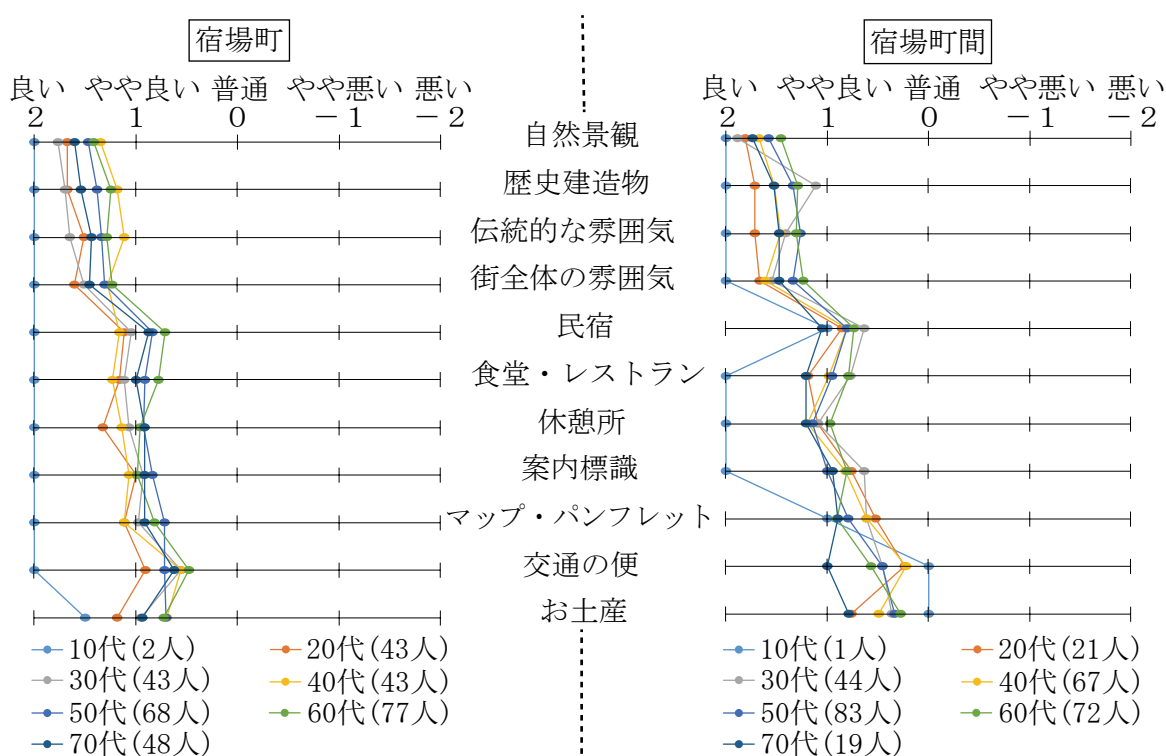


図3-6-5 宿場町、宿場町間における観光者の年齢別観光環境評価

#### (4) 観光客の国籍別観光環境評価

観光客の国籍別による各観光環境評価の平均値を図3-6-7に占めす。

宿場町については、各項目について欧米人観光客の評価が最も高い、国籍と関わらず、「自然景観」、「歴史建造物」、「伝統的な雰囲気」、「街全体の雰囲気」についての評価が高くなっている。日本人観光客とアジア人観光客は「自然景観」、「歴史建造物」、「街全体の雰囲気」の順に評価が高い。欧米人観光客は「自然景観」、「街全体の雰囲気」、「歴史建造物」の順に評価が高い。

宿場町間については、日本人観光客は「自然景観」、「歴史建造物」、「伝統的な雰囲気」、「街全体の雰囲気」についての評価が高くなっている。欧米人観光客は「街全体の雰囲気」、「民宿」、「休憩所」についての評価が最も高くなっている。アジア人観光客は「休憩所」、「交通の便」についての評価が最も高くなっている。

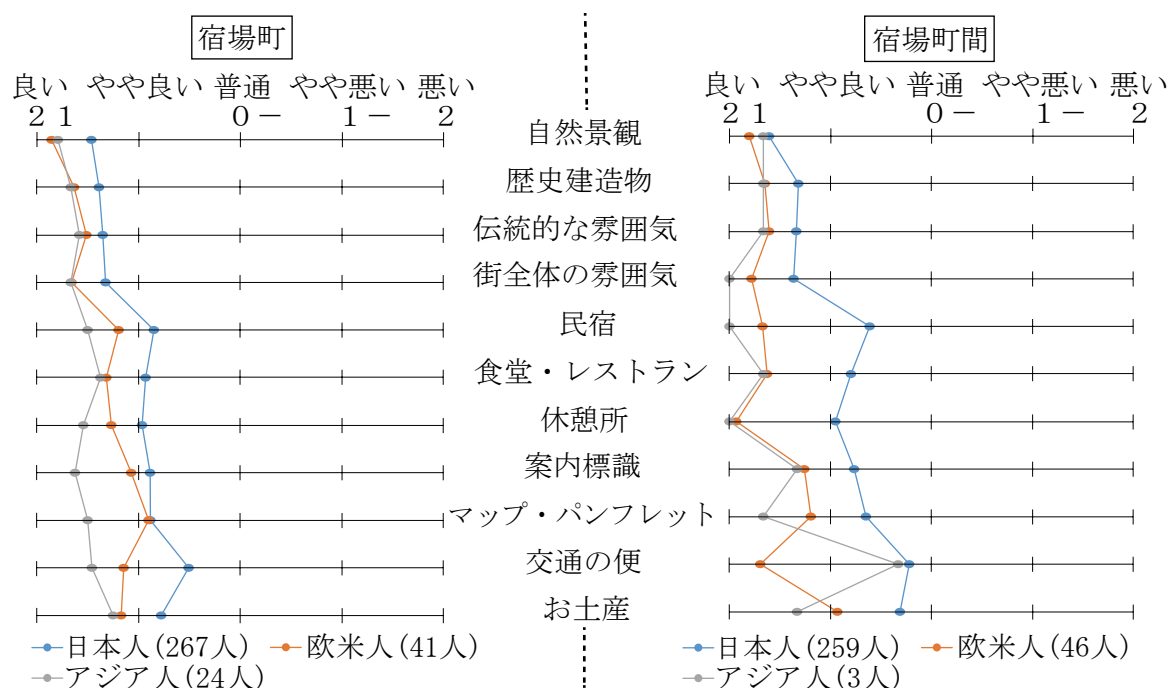


図3-6-7 宿場町、宿場町間における観光客の国籍別観光環境評価



(5) 観光場所別観光客の観光環境評価

観光場所別による各観光環境評価の平均値を図3-6-8に占めず。

宿場町については、A 妻籠宿、B 馬籠宿、F 大湫宿は「自然景観」、「歴史建造物」、「伝統的な雰囲気」、「街全体の雰囲気」の評価が最も高くなっているが、I 伏見宿は最も低くなっている。C 落合宿、D 中津川宿は「民宿」、「食堂・レストラン」の評価が最も高くなっている。D 中津川宿とH 御嶽宿は「マップ・パンフレット」の評価が最も高くなっている。

宿場町間については、VIII 御嶽～伏見とIX 伏見～太田以外の区間は「自然景観」が良い評価を与えられて。III 落合～中津川は「歴史建造物」、「伝統的な雰囲気」、「街全体の雰囲気」の評価が最も高くなっている。VIII 御嶽～伏見は「食堂・レストラン」、「休憩所」の評価が最も高くなっている。VII 細久手～御嶽は「民宿」、「食堂・レストラン」、「休憩所」、「案内標識」の評価が最も低くなっている。

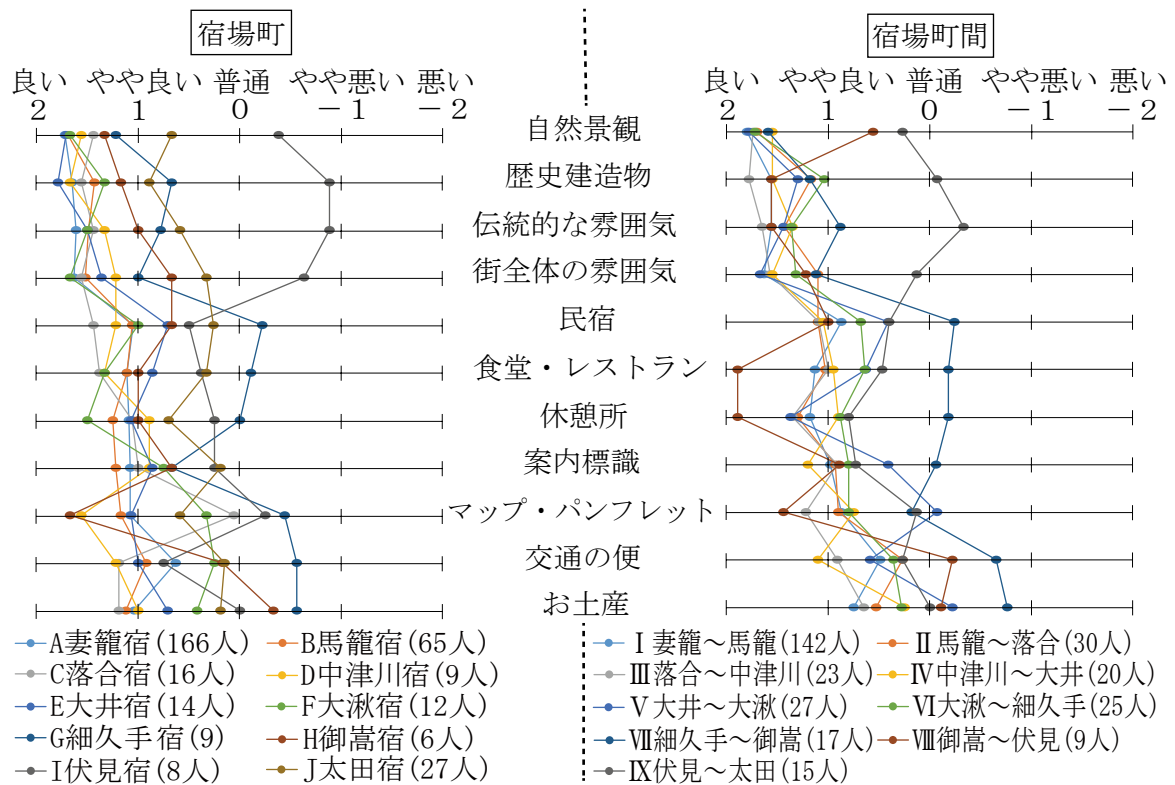


図3-6-8 宿場町、宿場町間における観光場所別観光客の観光環境評価

### 3-6-3 観光環境評価構造の抽出

#### (1) 全地域における観光客の観光環境評価の相関行列

中山道東美濃路地区の旅行環境評価構造を明確にするために、11 観光環境評価項目を用い、回答者の評価を変数とした因子分析を行った。旅行環境評価の相関行列を表 3-6-1 に示す。なお、因子の抽出には主因子法、共通性の初期値推定には SMC 推定値を用い、バリマックス回転を行った。その結果は、「民宿」と「食堂・レストラン」に強い相関があった。

表 3-6-1 全地域における観光客の観光環境評価の相関行列

	自然景観	歴史建造物	伝統的な雰囲気	街全体の雰囲気	民宿	食堂、レストラン	休憩所	案内標識	マップ、パンフレット	交通の便	お土産
自然景観	1.00	0.54	0.57	0.54	0.26	0.29	0.23	0.25	0.24	0.11	0.24
歴史建造物	0.54	1.00	0.72	0.60	0.36	0.41	0.25	0.29	0.33	0.10	0.35
伝統的な雰囲気	0.57	0.72	1.00	0.71	0.34	0.40	0.29	0.27	0.25	0.10	0.29
街全体の雰囲気	0.54	0.60	0.71	1.00	0.40	0.43	0.34	0.30	0.26	0.16	0.32
民宿	0.26	0.36	0.34	0.40	1.00	0.77	0.50	0.36	0.39	0.29	0.45
食堂、レストラン	0.29	0.41	0.40	0.43	0.77	1.00	0.52	0.39	0.39	0.27	0.42
休憩所	0.23	0.25	0.29	0.34	0.50	0.52	1.00	0.46	0.32	0.39	0.35
案内標識	0.25	0.29	0.27	0.30	0.36	0.39	0.46	1.00	0.54	0.36	0.40
マップ、パンフレット	0.24	0.33	0.25	0.26	0.39	0.39	0.32	0.54	1.00	0.33	0.41
交通の便	0.11	0.10	0.10	0.16	0.29	0.27	0.39	0.36	0.33	1.00	0.49
お土産	0.24	0.35	0.29	0.32	0.45	0.42	0.35	0.40	0.41	0.49	1.00

因子抽出法：主因子法

(2) 全地域における観光客の観光環境評価の固有値

旅行環境評価の固有値をを表 3-6-2 に示す。回転後の負荷量平方和における因子寄与（合計）は、第 1 因子が 2.55、第 2 因子が 1.85、第 3 因子が 1.29、第 4 因子が 1.11 であり、これら四つの因子の累積寄与率は 61.88% であることから、6 割以上のデータがこれらの因子で説明できる。そこで、因子数を 4 とした。

表 3-6-2 全地域における観光客の観光環境評価の固有値

因子	初期の固有値			抽出後の負荷量平方和			回転後の負荷量平方和		
	合計	分散の %	累積 %	合計	分散の %	累積 %	合計	分散の %	累積 %
1	4.75	43.18	43.18	4.38	39.86	39.86	2.55	23.18	23.18
2	1.70	15.47	58.65	1.35	12.27	52.13	1.85	16.81	39.99
3	0.94	8.53	67.19	0.66	5.97	58.10	1.29	11.77	51.76
4	0.76	6.94	74.12	0.42	3.78	61.88	1.11	10.12	61.88
5	0.68	6.16	80.28						
6	0.50	4.57	84.85						
7	0.44	3.99	88.84						
8	0.40	3.63	92.47						
9	0.37	3.33	95.80						
10	0.24	2.15	97.95						
11	0.23	2.05	100.00						

因子抽出法：主因子法

### (3) 全地域における観光客の観光環境評価の共通性

全地域における観光客の観光環境評価の共通性を表3-6-3に示す。観測変数を説明している各因子負荷量の2乗和で算出され、抽出された因子全体が、個々の観測変数をどの程度説明しているかを示す。全因子との共通分散の合計が観測変数の共通性となり、0～1の値をとる。これによって1からそれぞれの観測変数の共通性の値を引くと独自性が分かる。共通性が大きな値を示している測定値は、共通因子から大きな影響を受けている。因子抽出後（バリマックス回転後）の共通性は、「伝統的な雰囲気」と「食堂・レストラン」が大きな値をとった。「休憩所」が小さな値をとった。

表3-6-3 全地域における観光客の観光環境評価の共通性

	初期	因子抽出後
自然景観	0.39	0.44
歴史建造物	0.59	0.65
伝統的な雰囲気	0.65	0.80
街全体の雰囲気	0.57	0.63
民宿	0.62	0.75
食堂、レストラン	0.64	0.80
休憩所	0.41	0.40
案内標識	0.41	0.72
マップ、パンフレット	0.38	0.42
交通の便	0.33	0.76
お土産	0.41	0.43

因子抽出法：主因子法

#### (4) 全地域における観光客の観光環境評価の評価構造

全地域における観光客の観光環境評価の評価構造を明らかにするために、全バリマックス回転し、以下の四つの因子軸が得られた、表3-6-4に示す。

##### I 軸

I 軸は、「伝統的な雰囲気」、「歴史建造物」、「街全体の雰囲気」、「自然景観」の影響が大きいため、「伝統自然」と解釈した。

##### II 軸

II 軸は、「食堂・レストラン」、「民宿」、「休憩所」の影響が大きいため、「宿泊休憩」と解釈した。

##### III 軸

III 軸は、「案内標識」、「マップ・パンフレット」の影響が大きいため、「観光案内」と解釈した。

##### IV 軸

IV 軸は、「交通の便」、「お土産」の影響が大きいため、「交通土産」と解釈した。

表 3-6-4 全地域における観光客の観光環境評価の評価構造

	因子			
	I 軸	II 軸	III 軸	IV 軸
	伝 統 自 然	宿 泊 休 憩	観 光 案 内	交 通 土 産
伝統的な雰囲気	.871	.165	.099	.045
歴史建造物	.759	.195	.169	.049
街全体の雰囲気	.733	.246	.128	.106
自然景観	.639	.102	.137	.071
食堂、レストラン	.272	.816	.210	.118
民宿	.217	.801	.192	.171
休憩所	.183	.435	.323	.275
案内標識	.167	.190	.789	.188
マップ、パンフレット	.186	.248	.530	.217
交通の便	.009	.148	.217	.834
お土産	.232	.312	.293	.443
固有値	2.550	1.849	1.295	1.113
寄与率%	23.183	16.810	11.772	10.117
累積寄与率%	23.183	39.993	51.764	61.882

因子抽出法：主因子法

回転法：Kaiser の正規化を伴うバリマックス法

5 回の反復で回転が収束しました。

(5) 観光客の観光環境評価項目の全体評価

全評価基準点を図3-6-9に示す。評価基準点に基づいた各因子における評価基準点座標を求めた、表3-6-5を示す。

評価基準点の数字は-2が悪い、-1がやや悪い、0が普通、1がやや良い、2が良いとする。

$$F_k = \sum_{i=1}^{i=11} (x_i - \bar{x}_i) / \delta_i \cdot w_i$$


---

$F_k$  第K軸の評価基準点  
 $X_i$  評価尺度の中心  
 $\bar{X}_i$  評価尺度i項目の平均値  
 $\delta_i$  評価尺度i項目の標準偏差  
 $w_i$  第k軸i項目の因子得点係数

図3-6-9 評価基準点

表3-6-5 評価基準点座標

	I軸	II軸	III軸	IV軸
	伝統 自然	宿泊 休憩	観光 案内	交通 土産
2	0.79	1.30	1.02	1.21
1	-0.59	0.08	0.10	0.36
評価基準点 0	-1.96	-1.14	-0.83	-0.48
-1	-3.34	-2.36	-1.75	-1.32
-2	-4.72	-3.58	-2.68	-2.17

## (6) 観光客の性別別評価傾向

### ①宿場町

宿場町における観光客性別別評価傾向を図3-6-10に示す。

「Ⅰ軸 伝統自然」については、A妻籠宿、B馬籠宿、F大湫宿で男性の評価が高いが、C落合宿、E大井宿、G細久手宿、H御嶽宿、I伏見宿、J太田宿で女性の評価が高い。

「Ⅱ軸 宿泊休憩」については、E大井宿、I伏見宿、J太田宿で男性の評価が高いが、A妻籠宿、B馬籠宿、C落合宿、F大湫宿、G細久手宿、H御嶽宿で女性の評価が高い。

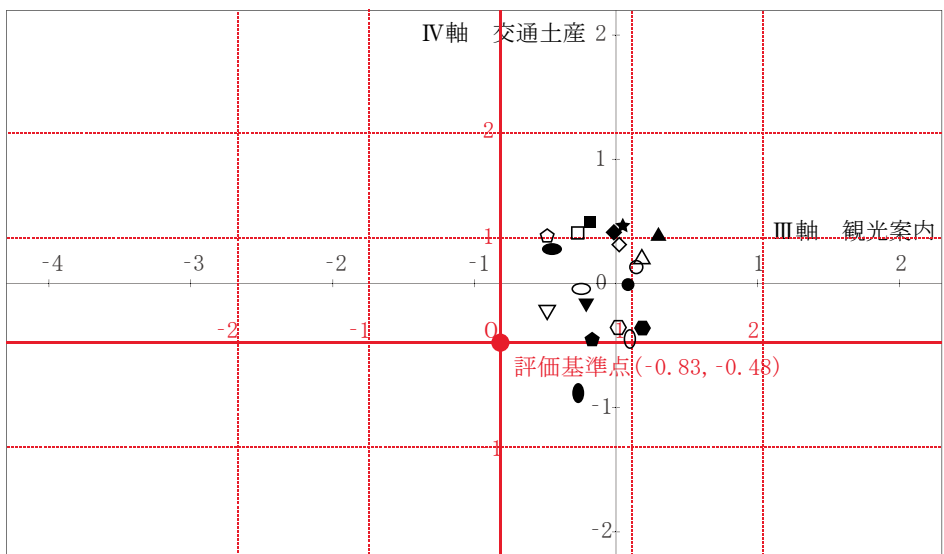
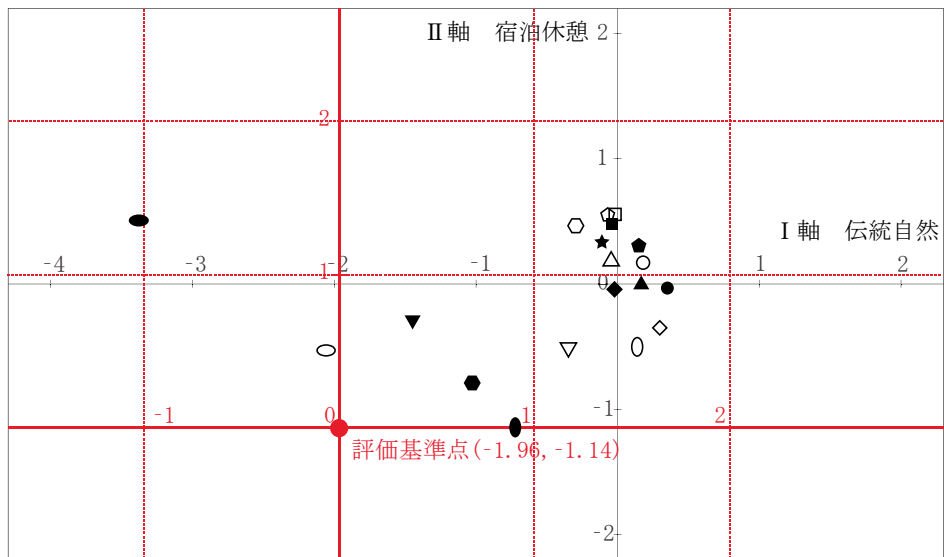
「Ⅲ軸 観光案内」については、B馬籠宿、C落合宿、F大湫宿、H御嶽宿、J太田宿で男性の評価が高いが、A妻籠宿、E大井宿、G細久手宿、I伏見宿で女性の評価が高い。

「Ⅳ軸 交通土産」については、B馬籠宿、C落合宿、E大井宿、I伏見宿、J太田宿で男性の評価が高いが、A妻籠宿、F大湫宿、G細久手宿で女性の評価が高い。

宿場町に訪れた男性観光客は、「伝統自然」と「宿泊休憩」についてはA妻籠宿、B馬籠宿、C落合宿、D中津川宿、E大井宿、F大湫宿で高い評価を与えられたが、「観光案内」と「交通土産」についてはA妻籠宿、B馬籠宿、D中津川宿、E大井宿で高い評価を与えられた。

宿場町に訪れた女性観光客は、「伝統自然」「宿泊休憩」についてはA妻籠宿、B馬籠宿、C落合宿、F大湫宿で高い評価を与えられたが、「観光案内」と「交通土産」についてはA妻籠宿、B馬籠宿、E大井宿で高い評価を与えられた。





- |       |    |    |       |    |    |
|-------|----|----|-------|----|----|
|       | 男性 | 女性 |       | 男性 | 女性 |
| A妻籠宿  | ●  | ○  | F大湫宿  | ●  | ○  |
| B馬籠宿  | ▲  | △  | G細久手宿 | ●  | ○  |
| C落合宿  | ■  | □  | H御嶽宿  | ●  | ○  |
| D中津川宿 | ★  | ☆  | I伏見宿  | ●  | ○  |
| E大井宿  | ◆  | ◇  | J太田宿  | ▼  | ▽  |

図3-6-10 宿場町における観光客性別別評価傾向

## ②宿場町間

宿場町間における観光客性別別評価傾向を図3-6-11に示す。

「Ⅰ軸 伝統自然」については、Ⅰ妻籠～馬籠、Ⅲ落合～中津川、Ⅴ大井～大湫、Ⅵ大湫～細久手で男性の評価が高いが、Ⅱ馬籠～落合、Ⅳ中津川～大井、Ⅶ細久手～御嶽、Ⅷ御嶽～伏見、Ⅸ伏見～太田で女性の評価が高い。

「Ⅱ軸 宿泊休憩」については、Ⅴ大井～大湫で男性の評価が高いが、Ⅰ妻籠～馬籠、Ⅱ馬籠～落合、Ⅲ落合～中津川、Ⅶ細久手～御嶽、Ⅷ御嶽～伏見、Ⅸ伏見～太田で女性の評価が高い。

「Ⅲ軸 観光案内」については、Ⅲ落合～中津川、Ⅳ中津川～大井、Ⅴ大井～大湫、Ⅶ細久手～御嶽、Ⅷ御嶽～伏見、Ⅸ伏見～太田で男性の評価が高いが、Ⅰ妻籠～馬籠、Ⅱ馬籠～落合、Ⅵ大湫～細久手で女性の評価が高い。

「Ⅳ軸 交通土産」については、Ⅳ中津川～大井、Ⅷ御嶽～伏見、Ⅸ伏見～太田で男性の評価が高いが、Ⅰ妻籠～馬籠、Ⅱ馬籠～落合、Ⅲ落合～中津川、Ⅴ大井～大湫、Ⅵ大湫～細久手、Ⅶ細久手～御嶽で女性の評価が高い。

宿場町間に訪れた男性観光客は、「伝統自然」と「宿泊休憩」についてはⅠ妻籠～馬籠、Ⅱ馬籠～落合、Ⅲ落合～中津川、Ⅳ中津川～大井、Ⅴ大井～大湫、Ⅵ大湫～細久手、Ⅷ御嶽～伏見で高い評価を与えられたが、「観光案内」と「交通土産」についてはⅢ落合～中津川、Ⅳ中津川～大井、Ⅸ伏見～太田で高い評価を与えられた。宿場町間に訪れた女性観光客は、「伝統自然」「宿泊休憩」についてはⅠ妻籠～馬籠、Ⅱ馬籠～落合、Ⅲ落合～中津川で高い評価を与えられたが、「観光案内」と「交通土産」についてはⅠ妻籠～馬籠、Ⅳ中津川～大井、Ⅵ大湫～細久手で高い評価を与えられた。

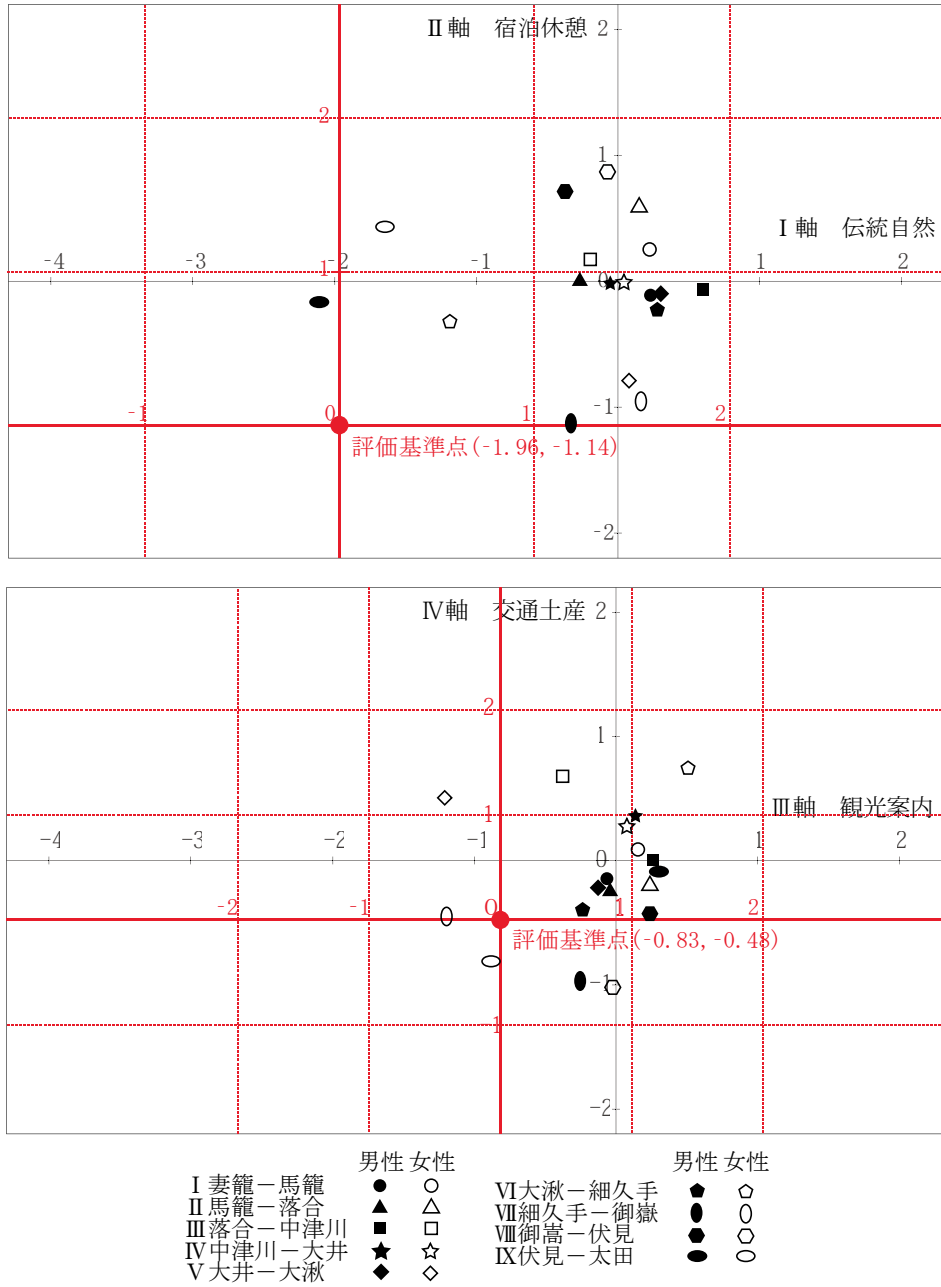


図3-6-1-1 宿場町間における観光客性別別評価傾向

## (7) 観光客の年齢別評価傾向

### ①宿場町

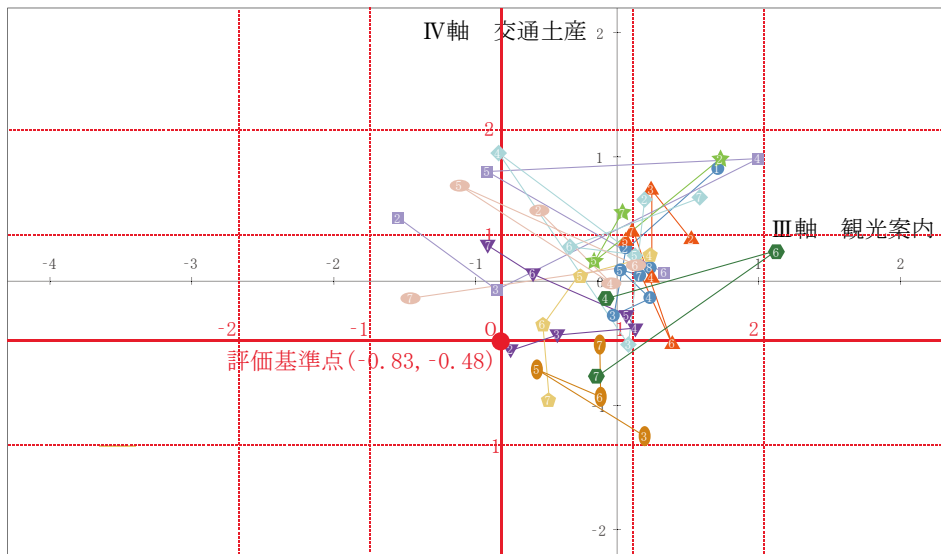
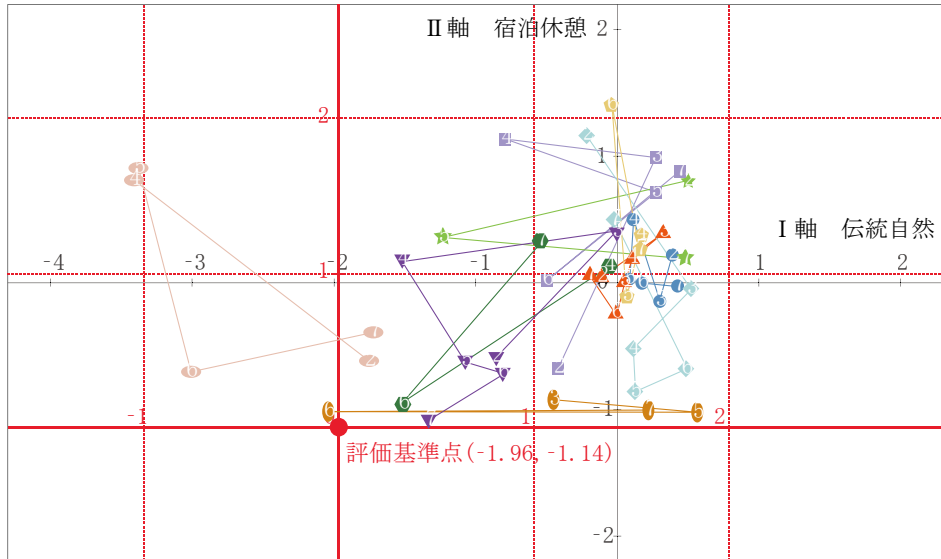
宿場町における観光客年齢別評価傾向を図3-6-12に示す。

「Ⅰ軸 伝統自然」については、A妻籠宿で70代、B馬籠宿で30代、C落合宿で70代、D中津川宿で20代と70代、E大井宿で30代と60代、F大湫宿40代と70代、G細久手宿で50代、H御嶽宿で40代、I伏見宿で20代と70代、J太田宿で30代の評価が最も高い。

「Ⅱ軸 宿泊休憩」については、A妻籠宿で40代、B馬籠宿で30代、C落合宿で40代、D中津川宿で20代、E大井宿で20代、F大湫宿で60代、G細久手宿で30代、H御嶽宿で70代、I伏見宿で50代、J太田宿で30代の評価が最も高い。

「Ⅲ軸 観光案内」については、A妻籠宿で10代、B馬籠宿で20代、C落合宿で40代、D中津川宿で70代、E大井宿で70代、F大湫宿で40代、G細久手宿で30代、H御嶽宿で60代、I伏見宿で60代、J太田宿で40代の評価が最も高い。

「Ⅳ軸 交通土産」については、A妻籠宿で10代、B馬籠宿で30代、C落合宿で40代と50代、D中津川宿で70代、E大井宿で40代、F大湫宿で40代、G細久手宿で70代、H御嶽宿で60代、I伏見宿で50代、J太田宿で70代の評価が最も高い。



- |       |   |       |   |
|-------|---|-------|---|
| A妻籠宿  | ● | F大湫宿  | ◆ |
| B馬籠宿  | ▲ | J細久手宿 | ● |
| C落合宿  | ■ | H御嶽宿  | ● |
| D中津川宿 | ★ | I伏見宿  | ● |
| E大井宿  | ◆ | J太田宿  | ▼ |

図3-6-12 宿場町における観光客年齢別評価傾向

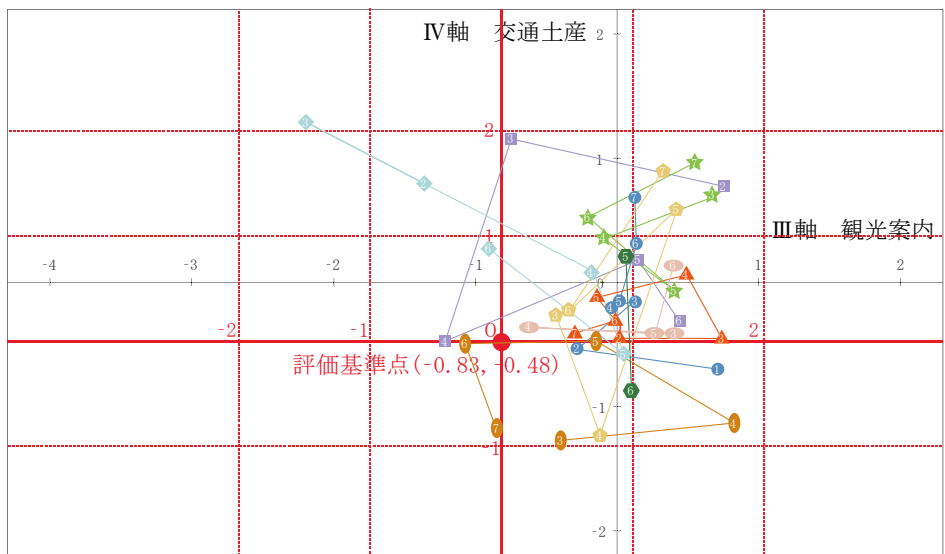
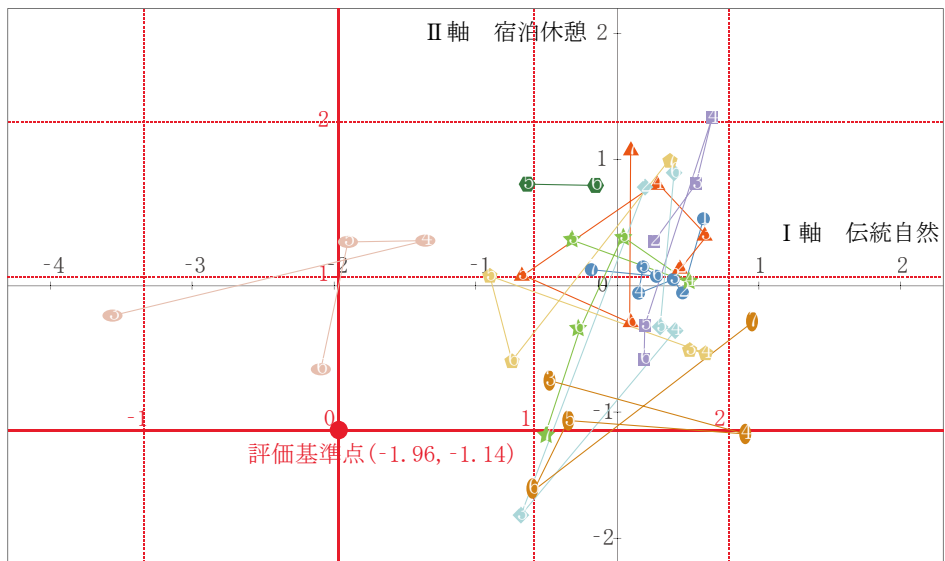
## ②宿場町間

「Ⅰ軸 伝統自然」については、Ⅰ妻籠～馬籠で10代、Ⅱ馬籠～落合で30代、Ⅲ落合～中津川で40代、Ⅳ中津川～大井で40代、Ⅴ大井～大湫で40代、Ⅵ大湫～細久手で40代、Ⅶ細久手～御嶽で70代、Ⅷ御嶽～伏見で60代、Ⅸ伏見～太田で40代の評価が最も高い。

「Ⅱ軸 宿泊休憩」については、Ⅰ妻籠～馬籠で10代、Ⅱ馬籠～落合で40代、Ⅲ落合～中津川で40代、Ⅳ中津川～大井で30代と50代、Ⅴ大井～大湫で60代、Ⅵ大湫～細久手で50代、Ⅶ細久手～御嶽で40代と70代、Ⅷ御嶽～伏見で50代と70代、Ⅸ伏見～太田で40代と50代の評価が最も高い。

「Ⅲ軸 観光案内」については、Ⅰ妻籠～馬籠で10代、Ⅱ馬籠～落合で30代、Ⅲ落合～中津川で20代、Ⅳ中津川～大井で30代、Ⅴ大井～大湫で50代、Ⅵ大湫～細久手で50代、Ⅶ細久手～御嶽で40代、Ⅷ御嶽～伏見で60代、Ⅸ伏見～太田で30代と60代の評価が最も高い。

「Ⅳ軸 交通土産」については、Ⅰ妻籠～馬籠で70代、Ⅱ馬籠～落合で40代、Ⅲ落合～中津川で30代、Ⅳ中津川～大井で70代、Ⅴ大井～大湫で30代、Ⅵ大湫～細久手で70代、Ⅶ細久手～御嶽で50代と60代、Ⅷ御嶽～伏見で50代、Ⅸ伏見～太田で60代の評価が最も高い。



- |            |   |            |   |
|------------|---|------------|---|
| I 妻籠-馬籠    | ● | VI 大湫-細久手  | ● |
| II 馬籠-落合   | ▲ | VII 細久手-御嶽 | ● |
| III 落合-中津川 | ■ | VIII 御嵩-伏見 | ● |
| IV 中津川-大井  | ★ | IX 伏見-太田   | ● |
| V 大井-大湫    | ◆ |            |   |

図3-6-13 宿場町間における観光客年齢別評価傾向

## (8) 観光客の国籍別評価傾向

### ①宿場町

宿場町における観光客国籍別評価傾向を図3-6-14に示す。

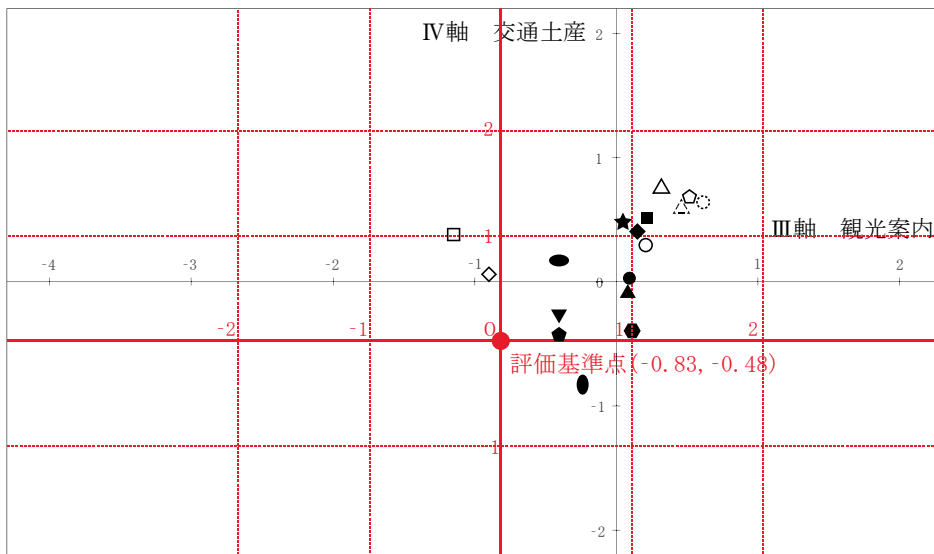
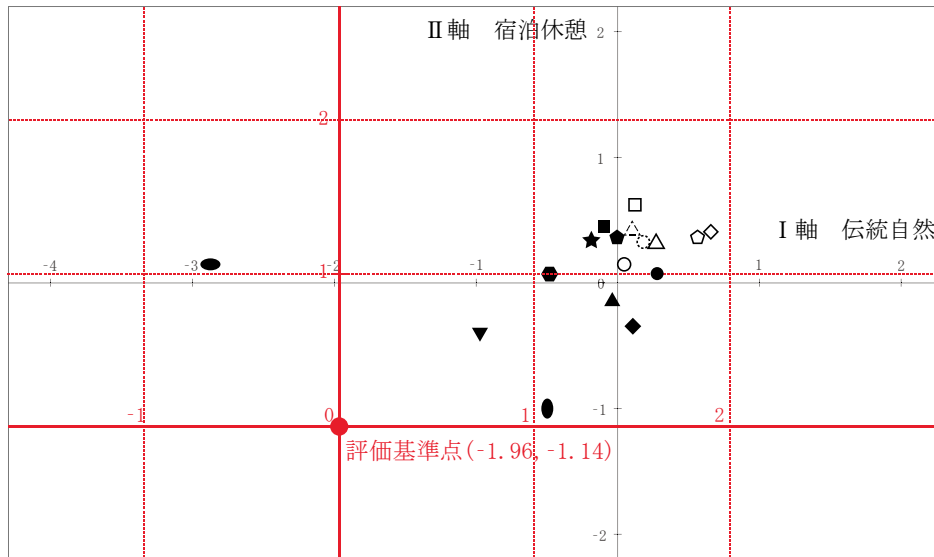
「Ⅰ軸 伝統自然」については、日本人観光客がA妻籠宿、E大井宿、F大湫宿、B馬籠宿の評価が最も高い。欧米人観光客はE大井宿、F大湫宿、B馬籠宿の評価が最も高い。

「Ⅱ軸 宿泊休憩」については、日本人観光客がC落合宿、F大湫宿、D中津川宿の評価が最も高い。欧米人観光客はC落合宿、E大井宿、F大湫宿、B馬籠宿の評価が最も高い。

「Ⅲ軸 観光案内」については、日本人観光客がC落合宿、E大井宿、H御嶽宿、A妻籠宿、B馬籠宿の評価が最も高い。欧米人観光客はF大湫宿、B馬籠宿、A妻籠宿の評価が最も高い。

「Ⅳ軸 交通土産」については、日本人観光客がC落合宿、D中津川宿、E大井宿の評価が最も高い。欧米人観光客はB馬籠宿、F大湫宿、A妻籠宿の評価が最も高い。





- |       |     |     |      |       |     |     |      |
|-------|-----|-----|------|-------|-----|-----|------|
|       | 日本人 | 欧米人 | アジア人 |       | 日本人 | 欧米人 | アジア人 |
| A妻籠宿  | ●   | ○   | ○    | F大湫宿  | ●   | ○   | ○    |
| B馬籠宿  | ▲   | △   | △    | G細久手宿 | ●   | ○   | ○    |
| C落合宿  | ■   | □   | □    | H御嵩宿  | ●   | ○   | ○    |
| D中津川宿 | ★   | ◇   | ◇    | I伏見宿  | ●   | ○   | ○    |
| E大井宿  | ◆   | ◇   | ◇    | J太田宿  | ▼   | ○   | ○    |

図3-6-14 宿場町における観光客国籍別評価傾向

## ②宿場町間

「Ⅰ軸 伝統自然」については、日本人観光客がⅢ落合～中津川、Ⅰ妻籠～馬籠、Ⅳ中津川～大井、Ⅴ大井～大湫の評価が最も高い。欧米人観光客はⅡ馬籠～落合、Ⅴ大井～大湫、Ⅵ大湫～細久手の評価が最も高い。

「Ⅱ軸 宿泊休憩」については、日本人観光客がⅧ御嶽～伏見、Ⅱ馬籠～落合、Ⅸ伏見～太田の評価が最も高い。欧米人観光客はⅡ馬籠～落合、Ⅵ大湫～細久手、Ⅳ中津川～大井の評価が最も高い。

「Ⅲ軸 観光案内」については、日本人観光客がⅧ御嶽～伏見、Ⅸ伏見～太田、Ⅱ馬籠～落合の評価が最も高い。欧米人観光客はⅢ落合～中津川、Ⅱ馬籠～落合、Ⅳ中津川～大井の評価が最も高い。

「Ⅳ軸 交通土産」については、日本人観光客がⅣ中津川～大井、Ⅲ落合～中津川、Ⅴ大井～大湫の評価が最も高い。欧米人観光客はⅡ馬籠～落合、Ⅲ落合～中津川、Ⅰ妻籠～馬籠の評価が最も高い。

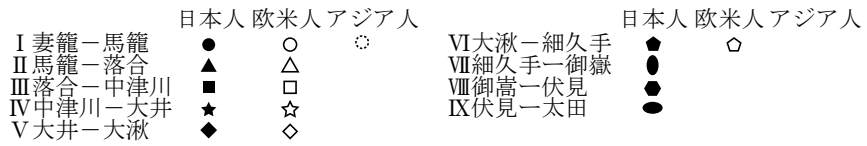
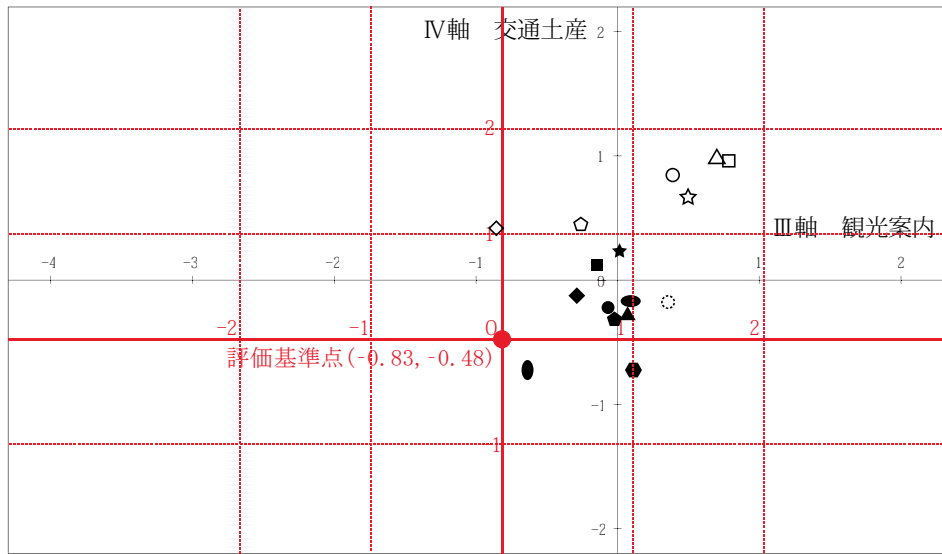
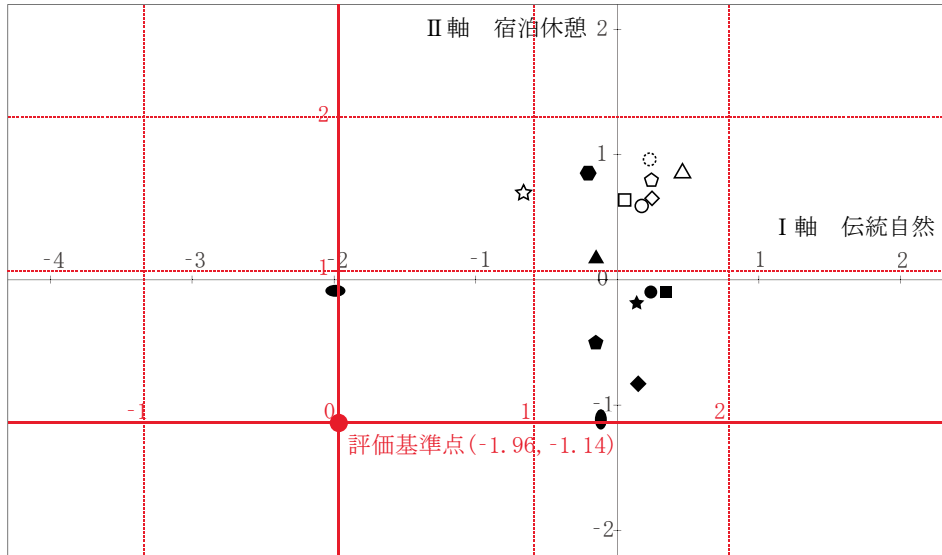


図3-6-15 宿場町における観光客国籍別評価傾向

## (9) 観光場所別評価傾向

### ①宿場町

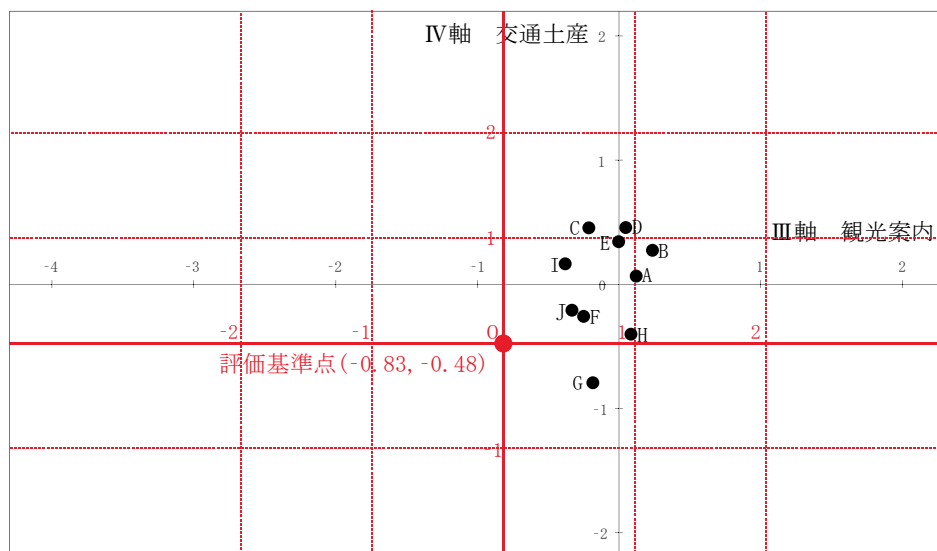
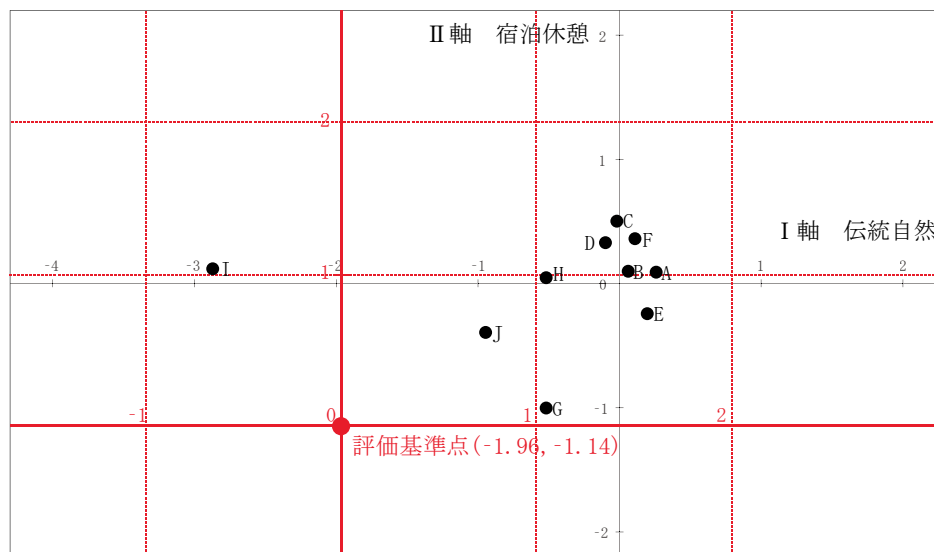
宿場町における観光場所別評価傾向を図3-6-16に示す。

「Ⅰ軸 伝統自然」については、A 妻籠宿、E 大井宿、F 大湫宿、B 馬籠宿の評価が最も高い。

「Ⅱ軸 宿泊休憩」については、C 落合宿、F 大湫宿、D 中津川宿の評価が最も高い。

「Ⅲ軸 観光案内」については、B 馬籠宿、A 妻籠宿、H 御嶽宿の評価が最も高い。

「Ⅳ軸 交通土産」については、C 落合宿、D 中津川宿、E 大井宿の評価が最も高い。



- |       |       |
|-------|-------|
| A妻籠宿  | B馬籠宿  |
| C落合宿  | D中津川宿 |
| E大井宿  | F大湫宿  |
| G細久手宿 | H御嶽宿  |
| I伏見宿  | J太田宿  |

図3-6-16 宿場町における観光客国籍別評価傾向

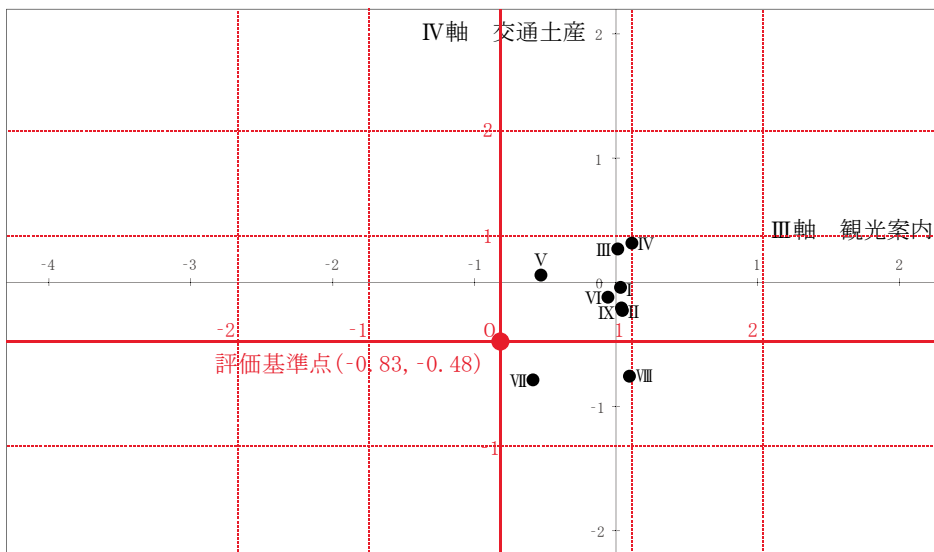
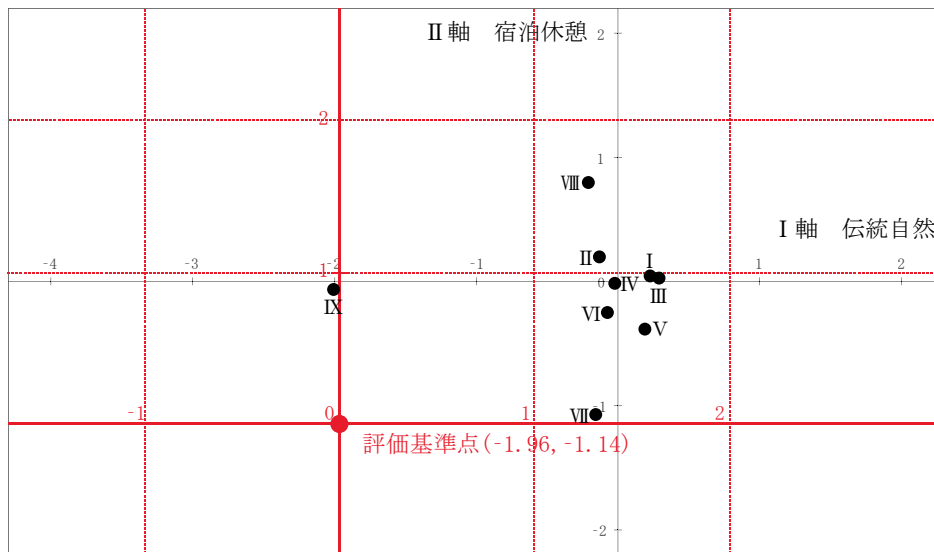
## ②宿場町間

「Ⅰ軸 伝統自然」については、Ⅲ落合～中津川、Ⅰ妻籠～馬籠、Ⅳ中津川～大井、Ⅴ大井～大湫の評価が最も高い。

「Ⅱ軸 宿泊休憩」については、Ⅷ御嶽～伏見、Ⅱ馬籠～落合、Ⅰ妻籠～馬籠の評価が最も高い。

「Ⅲ軸 観光案内」については、Ⅷ御嶽～伏見、Ⅳ中津川～大井、Ⅱ馬籠～落合、Ⅰ妻籠～馬籠の評価が最も高い。

「Ⅳ軸 交通土産」については、Ⅳ中津川～大井、Ⅲ落合～中津川、Ⅴ大井～大湫の評価が最も高い。



- |            |            |
|------------|------------|
| I 妻籠—馬籠    | II 馬籠—落合   |
| III 落合—中津川 | IV 中津川—大井  |
| V 大井—大湫    | VI 大湫—細久手  |
| VII 細久手—御嵩 | VIII 御嶽—伏見 |
| IX 伏見—太田   |            |

図3-6-17 宿場町における観光客国籍別評価傾向

## 第7節 小結

本章では、中山道東美濃路の宿場町と宿場町間に訪れる日本人及び外国人観光客を対象とし、インタビュー式アンケート調査を行い、得られた成果を統括し以下に示す。

(1) 今まで中山道が通る岐阜県で宿場町に着目した観光や歴史的建造物に関する既往研究は多数あるものの、宿場町間の街道の魅力及び街道を散策する観光客の動向についての研究は未だ為されていないため、本章は宿場町間に注目し、中山道東美濃路を一体とした観光客動向及び観光環境評価についての特質を抽出した。

(2) 旧街道へ歴史探訪する日本人観光客だけではなく、欧米人観光客にも街道トレックキング、健康志向によるウォーキング、アジア人観光客が宿場町を中心に観光することが増やしていく傾向があり、単に宿場町だけでなく宿場町間の徒歩散策は賑わいを見せている。そこで、日本人、欧米人、アジア人観光客の国籍、性別、年齢などの観光客属性を把握した。

宿場町に訪れる観光客は、国籍と関わらず、女性が少々上回っている。日本人観光客は「50代」以上が多いが、欧米人とアジア人観光客は「20代」、「30代」が多い。

宿場町間に訪れる観光客は、国籍と関わらず、男性が多い。日本人観光客は「40代」以上が多いが、欧米人観光客はI妻籠～馬籠で「30代」、IV中津川～大井とVI大湫～細久手で「50代」が多く、他の宿場町間で「40代」以上が多い。

(3) 中山道東美濃路の宿場町と宿場町間に訪れる日本人及び外国人観光客の観光形態、リピート率、宿泊先、交通手段、情報収集方法などの観光動向を把握し、景観資源を活用し、地元住民の生活を豊かにすること共に、観光利便性を向上す



る条件、観光環境を整備する方針を明らかにした。

宿場町に訪れる日本人観光客観光客については、観光形態は「個人」観光、リピート率は「2回～5回」、宿泊先は「自家」、交通手段は「車」が各6割程度を超えている。欧米人観光客については、観光形態は「団体」観光、リピート率は「初めて」が各9割程度を超えている。宿泊先は「民宿」と「ホテル」がそれぞれ半数を占める。交通手段は「徒歩」、「電車」、「バス」が各3割を占める。情報収集手段は「観光ツアー」が7割程度で最も高い。アジア人観光客観光客については、観光形態は「団体」観光、リピート率は「初めて」が各9割程度を超えている。宿泊先は「ホテル」が8割程度を占める。交通手段は「バス」が6割以上を超えている。情報収集手段は「インターネット」が4割程度で最も多く、次に「元々知っていた」が3割で最も多い。

宿場町間に訪れる日本人観光客観光客については、観光形態は「個人」観光、リピート率は「初めて」が各6割程度を超えている。宿泊先は「自家」が7割を超える。、交通手段は「車」4割で最も多く、次に「徒歩」が3割で多い。情報収集手段は「元々知っていた」が3割程度で最も多い、次に「インターネット」が3割程度で多い。欧米人観光客観光客については、観光形態は「個人」観光、リピート率は「初めて」が各6割程度を占める。宿泊先は「民宿」が8割以上を超える。交通手段は「徒歩」が5割程度で多い、次に「電車」が4割で多い。情報収集手段は「インターネット」が5割で最も高くなっている。アジア人観光客は今回宿場町間の調査で少数であるため、除いた。

(4) 日本人、外国人観光客の受入環境の魅力を高めるために、観光客の観光目的及び宿場町間で徒歩観光客における困ったこと、観光案内所の立ち観光案内所で最も欲しいサービスなどの観光意識を把握した。

宿場町に訪れる観光目的は国籍と関わらず、「自然景観を堪能する」が最も多く、次に「歴史的建造物の見物」と「日本伝統文化にふれる」が高い。宿場町間に訪れる日本人観光客の観光目的は、「自然景観を堪能する」が3割程度で最も多く、

次に「ショッピングをする」と「歴史的建造物の見物」が2割程度を占める。欧米人とアジア観光客は「自然景観を堪能する」と「日本伝統文化にふれる」が最も多く、次に「歴史的建造物の見物」と「日本食を味わう」が多い。

宿場町間で徒歩観光客についてのインタビュー調査により、日本人観光客が最も困っていたのは「経路情報」や「公共交通情報」、「飲食店情報」である。欧米人観光客は「コミュニケーション」ことが最も問題点と指摘されている。次に、「飲食店情報」や「LAN」、「宿泊施設予約」に困っている。観光案内所立地については、日本人観光客は「宿場町・観光名所」と「電車駅周辺」が各4割程度を超える。欧米人観光客は「電車駅周辺」が4割以上で最も高く、次に「宿泊施設」が2割以上を超える。観光案内所で最も欲しいサービスについては、日本人観光客は「公共交通情報」が最も多く、次に「飲食店情報」が多くなっている。欧米人観光客は「外国語対応」の要望が最も多く、次に、「飲公共交通情報」や「飲食店情報」が多くなっている。

(5) 日本人、外国人観光客の視点から各宿場町及び宿場町間についての観光環境魅力の特質を抽出するために、観光客の印象評価を把握した。

宿場町の「伝統自然」について、「男性」は「女性」により良い。「20代」、「70代」での評価が最も高い。「欧米人」観光客の評価は「日本人」、「アジア人」よりよい。「宿泊施設」については、全国籍の評価が良い傾向であるが、「女性」は「男性」により良くなっている。。「40代」、「50代」での評価が最も高い。「観光案内」について、「男性」は「女性」により良い。「60代」での評価が最も高く、「欧米人」観光客の評価は「日本人」よりよい。「交通土産」について、「女性」は「男性」により良く、「50代」での評価が高い。「欧米人」観光客の評価は「日本人」より良くなっている。

宿場町間の「伝統自然」について、全国籍の評価が良い傾向であるが、「男性」は「女性」により良い。「40代」、「50代」での評価が最も高い。「宿泊施設」については、「女性」は「男性」により良い。「50代」、「60代」での評価が最も高く、「欧米人」観光客の評価は「日本人」より良くなっている。。「観光案内」について、「男

性」は「女性」により良くなっている。「30代」、「40代」での評価が最も高く、「欧米人」観光客の評価は「日本人」より良くなっている。「交通土産」について、「女性」は「男性」により良く、「70代」での評価が高い。「欧米人」観光客の評価は「日本人」より良くなっている。

場所別においては、「伝統自然」の評価が最も高い宿場町はA妻籠宿、E大井宿、F大湫宿である、評価が最も高い宿場町間はⅢ落合～中津川、I妻籠～馬籠である。「宿泊休憩」の評価が最も高い宿場町はA妻籠宿、C落合宿、D中津川である、評価が最も高い宿場町間はⅧ御嵩～伏見、Ⅱ馬籠～落合、I妻籠～馬籠である。「観光案内」の評価が最も高い宿場町はB馬籠宿、A妻籠宿、H御嶽宿である、評価が最も高い宿場町間はⅣ中津川～大井、Ⅷ御嶽～伏見、Ⅱ馬籠～落合である。「交通土産」の評価が最も高い宿場町はD中津川宿、C落合宿、E大井宿である、評価が最も高い宿場町間はⅣ中津川～大井、Ⅲ落合～中津川、V大井～大湫である。

### 第3章に関する参考・引用文献

- 1) 藤岡雄太・熊野 稔：観光街づくりにおける外国人観光客の評価と方向性，日本建築学会中国支部研究報告集，p769-772，2007
- 2) 相澤 美穂子：地方旅行したい外国人観光客 呼び込む秘策はある，毎日新聞出版，2015.11.17
- 3) 小川圭一・漆谷友香・安 隆浩：外国人観光客を対象とした京都市における観光資源としての文化遺産の評価，歴史都市防災論文集，143-150，2015.7.4
- 4) 北田晃司：長崎県における国際観光の動向と展望，地理学論集 89(2)，56-66，2015
- 5) 伊藤正太・口邦雄：観光まちづくり地における観光客と地域住民の違いによる景観の評価傾向と来訪意向に関する研究：秋田県仙北市角館中心市街地を対象として，日本建築学会東北支部研究報告集，計画系（75），83-84，2012.6.16
- 6) 橋本敬治郎：太田宿の町並構成と屋敷割について，中山道宿駅の研究 その6，日本建築学会学術講演梗概集，931-932，1987.8.25
- 7) 和田章仁・池田岳史：飛騨高山における観光活性化の方向性に関する考察 その4，日本建築学会近畿支部研究報告集，計画系（47），473-476，2007.5.22
- 8) 縦山秀俊・和田章仁・益岡了：観光客の意識からみた歴史的町並みに関する考察：金沢市東山ひがしを事例として，日本建築学会近畿支部研究報告集，計画系（41），545-548，2001.5.25
- 9) 砂本文彦：「国際観光委員会」の組織と都市施設整備課題：国際観光政策に伴う都市施設整備に関する研究 その1，日本建築学会計画系論文集，187-194，1998.1.30

## 第4章

### 地元官、民による中山道東美濃路地域のまちづくり意識



## 第1節 はじめに

本章では、東美濃地方各行政、地元住民まちづくり団体のまちづくり活動・意識や観光客の対応を調査することを通して、東美濃地方各自治体と木曾地方との連携を強化し、複数地域の連合として扱うことでこの地域の歴史的な魅力の幅が増し、地元の生活環境を豊かにするとともに、この地域への国内外からの観光客を増大させ地域が一体となったまちづくり方針を抽出することを目的とする。

### (1) 中山道に隣接する自治体の現状

地方都市の中小都市の多くは、現在、過疎や高齢化、少子化に見舞われている。都市を活性化するために多くの都市で様々なまちづくり活動がなされている。2004年の景観法の施行により、景観計画が日本各地で策定され、まちづくりのひとつの潮流となっている。その中で、景観の目玉として歴史遺産や伝統的な環境が位置づけられている。この中山道東美濃路地域においても、南木曾町や中津川市、恵那市、瑞浪市、御嵩町、美濃加茂市においてそれぞれ別々に景観計画を策定しており、都市をつなぐ連携については関心が薄い現状である。

### (2) 外国人観光客の受入に係る岐阜県及び他県の動向

岐阜県では、平成25年度に従来型の「見る」、「体験する」「学ぶ」観光への関心の高まりなど、旅行者のニーズが多様化する中、県が有する、美しい自然、伝統文化、食、モノなど、全国に誇れる資源を最大限活用し、岐阜県でのみ味わうことができる「高品質」かつ「本物」の魅力を満喫し心身ともに癒される新たな宿泊滞在型の旅のスタイル「ぎふウェルネス・ツーリズム」を創出した。ぎふウェルネス・ツーリズムを通して、宿泊滞在型の観光地づくりを進めるとともに、国内外からの誘客強化により、県における宿泊滞在型観光の促進を図り、観光消費額の拡大、さらには観光産業の基幹産業化を目指している〔参考文献1〕。

長野県では、平成20年から平成24年までに「観光立県長野」再興計画を策定し、5年後までの外国人旅行者「倍増」に向けて、国や客層などターゲットを絞り込んだ戦略的な誘客宣伝活動の展開に加えて、県下各地で外国人旅行者の受入環境の整備が具体化されることにより、「県民一人ひとりがおもてなしの主演」となり、「誰もが外国人旅行者を温かく迎えるNAGANO」をめざすことにより、冬季オリンピック・パラリンピック開催県である長野県が国際的な観光地として今後一層発展していくことを努力している〔参考文献2〕。

沖縄県では、県内観光関連産業の経営基盤の強化、経営革新への取り組みを促し、質の高い沖縄観光を実現するため、沖縄観光をリードする人材（経営者等観光コア人材）の育成を図る。また、各種観光施策が戦略的に展開され、持続的な観光振興が図られるよう、観光統計やマーケティング等の各種調査を充実させ、本県観光の実態把握や分析等に努めるとともに、増大するレンタカー観光への対応、バリアフリーの促進等、誰もが楽しめる優しい観光地作り、国が進める観光立国と連携した外国人観光客の受入体制の整備等に努める〔参考文献3〕。



## 第2節 行政、まちづくり団体、観光案内施設についてのアンケート調査

本節では中山道東美濃路のを貫いた南木曾町、中津川市、恵那市、瑞浪市、御嵩町、美濃加茂市の市役所や商工会議所などの行政組織、地元住民やNPO法人などのまちづくり団体、観光案内所や観光案内センターなどの観光案内施設に向きアンケート調査の実施を依頼した。

### 4-2-1 調査概要

#### (1) 調査対象

中山道東美濃各地区（南木曾町、中津川市、恵那市、瑞浪市、御嵩町、美濃太田市）の市役所、観光協会、商工会議所などの行政機関、まちづくり団体、NPO法人、協議会、青年会議所などの住民団体、観光案内所、観光案内センターなどの観光案内施設を調査対象とした。

#### (2) 回答率：

回答率は表4-2-1に示す。行政の回答率は75%、まちづくり団体の回答率は87.50%、観光案内施設の回答率は83.30%であった。

行政の回答数については、南木曾町が2、中津川市が4、恵那市が2、瑞浪市が3、御嵩町と美濃太田市が各1であった。まちづくり団体の回答数については、南木曾町が1、中津川市が1、恵那市が4、瑞浪市が3、美濃太田市が各1であった。観光案内施設の回答数については、南木曾町が1、中津川市が2、御嵩町が1、

表4-2-1 回答率

調査対象	回答率
行政	75%
まちづくり団体	87.50%
観光案内施設	83.30%

(3) 調査方法：

調査対象に対して調査を行う都合を確認した上で、以下2つの調査方法でアンケート調査を実施した。

①調査員が伺い、その場で調査対象者にインタビュー方式によるご回答する。

②調査票を郵送し、回答したものを返送する。

表4-2-2 調査対象と調査方法

市村町	区分	組織	調査方法
南木曾町	行政	南木曾町役場観光課	②
	行政	妻籠観光協会	②
	まちづくり団体	妻籠愛する会	②
	観光案内施設	妻籠観光案内所	②
中津川市	行政	馬籠観光協会	②
	観光案内施設	馬籠観光案内所	②
	行政	中津川市役所商工観光部観光課	②
	行政	中津川市商工会議所	②
	行政	中津川観光協会	②
	観光案内施設	中津川市観光センター	②
	まちづくり団体	本町中山道景観協議会	①
恵那市	行政	恵那商工会議所	②
	行政	恵那市観光協会	②
	まちづくり団体	大井町まちづくり協議会	①
	まちづくり団体	長島町まちづくり協議会	②
	まちづくり団体	武並町まちづくり町民議会	②
	まちづくり団体	恵那市まちづくり市民協会	②
瑞浪市	行政	瑞浪市商工課	①
	行政	瑞浪市観光協会	②
	行政	大湫コミュニティセンター	②
	まちづくり団体	大湫町コミュニティ推進協議会	②
	まちづくり団体	日吉町まちづくり推進協議会	②
	まちづくり団体	瑞浪市景観計画策定委員会	①
御嵩町	行政	御嵩町観光協会	②
		御嵩町まちづくり課	②
	観光案内施設	御嵩町観光案内所	②
美濃加茂市	行政	美濃加茂市産業振興課	②
	観光案内施設	みのかも観光案内所	②
	まちづくり団体	NPO法人 宿木	②

#### 4-2-2 調査内容

中山道東美濃路に訪れる観光客へのアンケート調査内容構成は図4-2-1(a)～(c)に示す。

行政については、住み続けたい住民にの事業やまちづくり団体の支援・協働事業などの地元住民支援事業の現状、観光客を増大するための活動、マップ・パンフレットの配置状況、多言語対応などの観光客にの対応策、地域特徴や問題点、現在課題、将来像等の中山道地域のまちづくり活動をとした調査を行った。

まちづくり団体については、グループ規模やメンバー状況などのまちづくり団体の属性、まちづくり活動の内容や範囲、問題点などの地元住民まちづくり活動の現状、観光客の評価や困ったことなどの観光客にの対応、地域特徴や問題点、現在課題、将来像等の中山道地域のまちづくり意識とした調査を行った。

観光案内施設については、立地場所、営業内容などの施設状況、提供できるサービス、多言語対応などの観光客にの対応、地域特徴や問題点、現在課題、将来像等の中山道地域のまちづくり意識とした調査を行った。

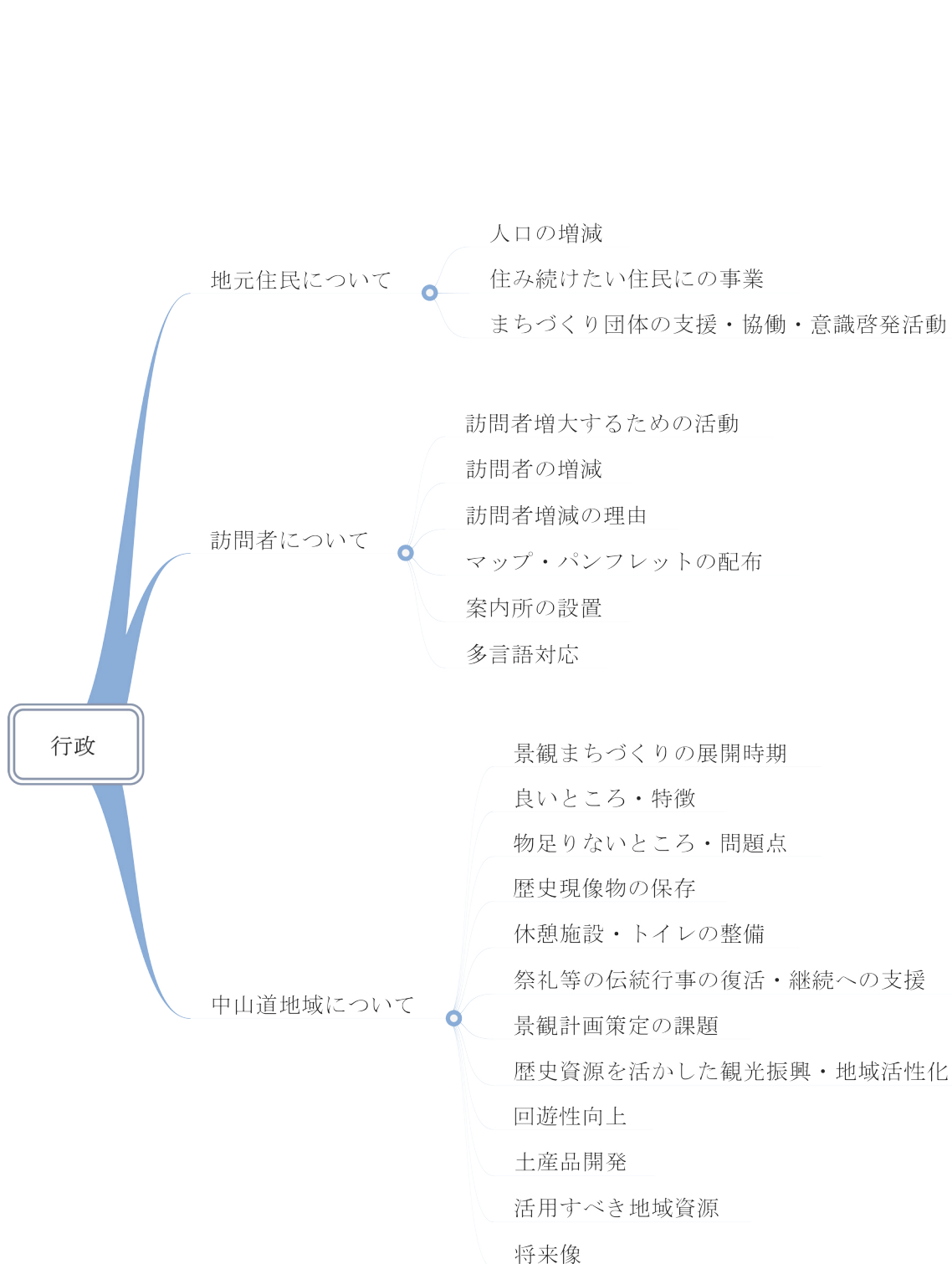


図 4-2-1 (a) 行政アンケート内容構成

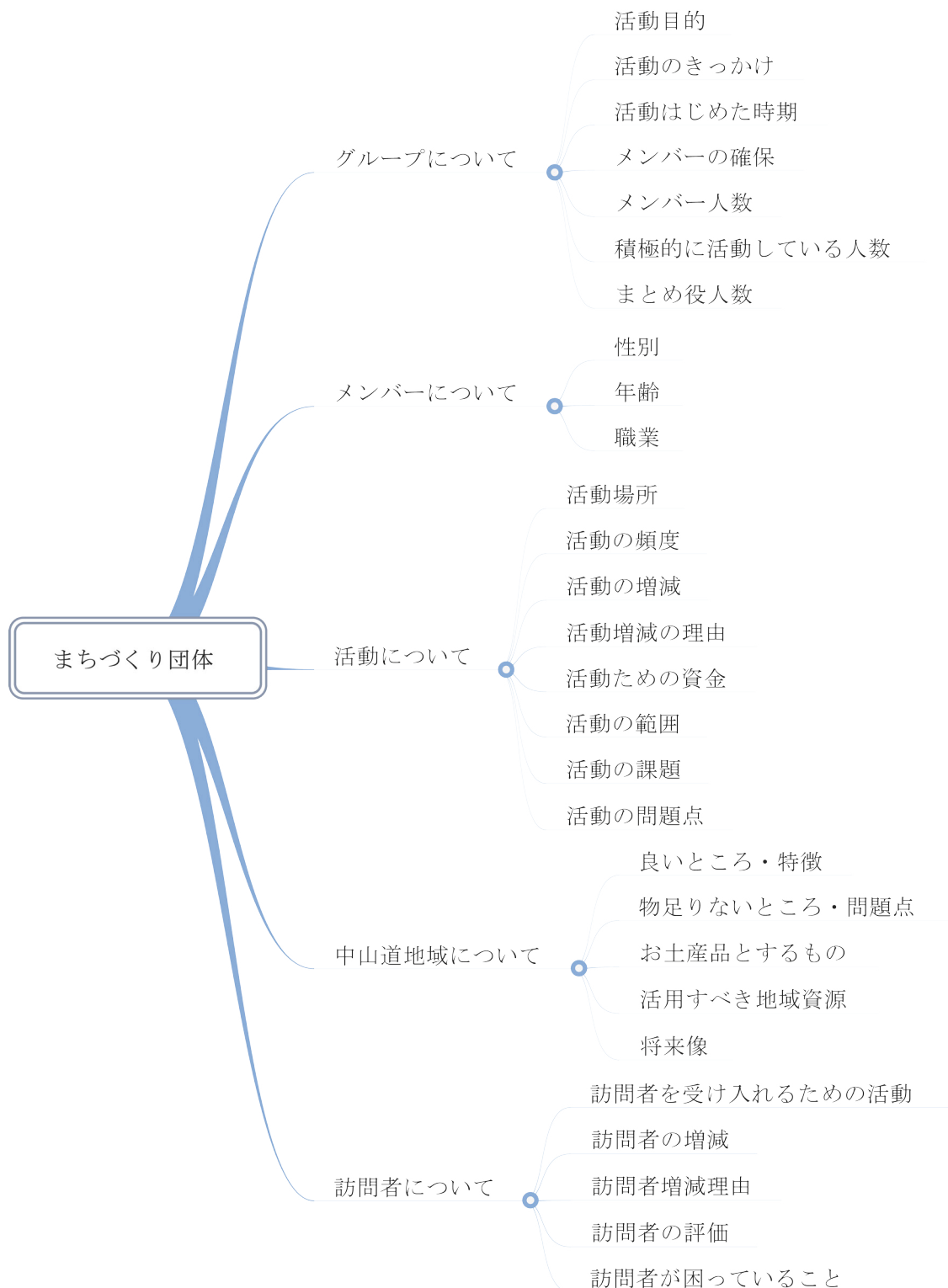


図 4-2-1 (b) まちづくり団体アンケート内容構成

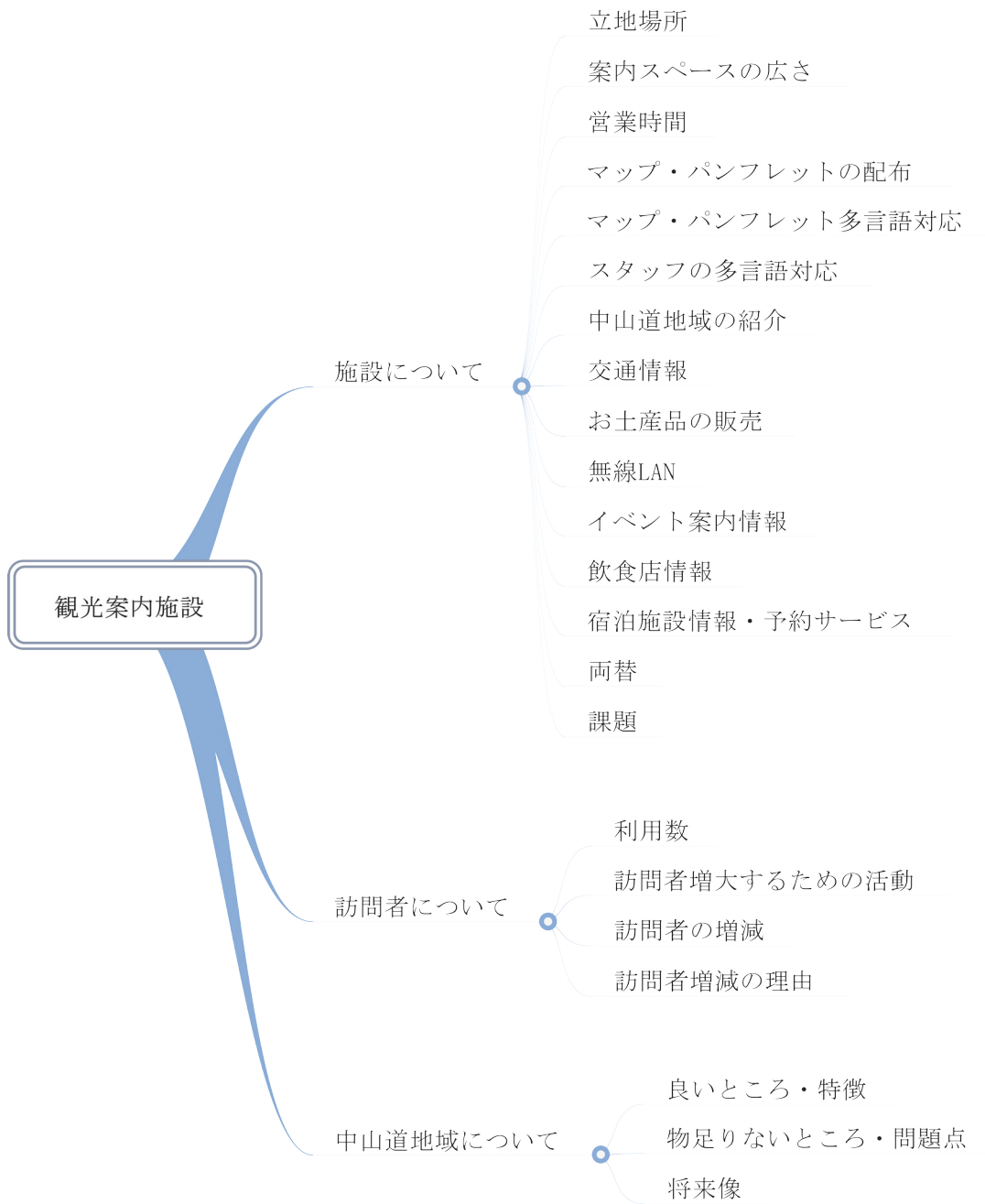


図 4-2-1 (c) 観光案内施設アンケート内容構成

### 第3節 行政のまちづくり事業と観光客を受け入れる意識

本節では中山道東美濃路沿道地域各行政のまちづくり事業の内容や課題、観光客観光意識及び対応策、中山道地域の魅力、まちづくり活動の現状や問題点を明らかにする。

#### 4-3-1 まちづくり事業

##### (1) 歴史まちづくりの展開時期

妻籠宿が日本初の重要伝統的建造物群保存地区に指定されたため、南木曾町の歴史まちづくり活動は60年代からはじめていた。2004年に景観法の施行に伴う歴史景観美しいまちづくりが大きな潮流となり、各行政が歴史まちづくり活動に対し助成をはじめた。

表4-3-1 歴史まちづくり展開時期

市	組織名称	歴史まちづくりの展開時期
南木曾町	南木曾町商工観光課	1968年
	妻籠観光協会	1965年
中津川市	中津川市役所	2007年
	中津川観光協会	不明
	馬籠観光協会	不明
恵那市	恵那商工会議所	不明
瑞浪市	瑞浪市商工課	1975年
	瑞浪市観光協会	2000年
	大湫コミュニティーセンター	1980年
御嵩町	御嵩町観光協会	2008年
美濃加茂市	美濃加茂市産業振興課	1991年

(2) 「住みたいまち」になるための取組み

各行政が「住みたいまち」になるための取組みを表4-3-2に示す。各行政が「医療・福祉施策」、「企業誘致」、「市街地活性化」、「観光振興」などの様々な取組みを行っている。

表4-3-2 「住みたいまち」になるための取組み

	行政	南木 曾町	中津 川市	恵那 市	瑞浪 市	御嵩 町	美濃加 茂市
「住み続けたい」の取組み							
1	子供や高齢者の医療・福祉施策の充実	○	○	○	○	○	○
2	企業誘致、産業振興によるまちおこし	○	○	○	○		○
3	市街地、商店街の活性化	○	○	○	○	○	
4	観光の振興	○	○	○	○		○
5	その他	○					

(3) 歴史まちづくりの取組み

各行政が歴史まちづくりの取組みを図4-3-3に示す。南木曾町や中津川市、瑞浪市は「景観資源の調査・発掘・保全・登録」や「まちづくり団体への支援」などの取組みが極めて重要であると認識していると見られる。

表4-3-3 歴史まちづくりの取組み

	行政	南木 曾町	中津 川市	恵那 市	瑞浪 市	御嵩 町	美濃加 茂市
歴史まちづくりの取組み							
1	歴史的資源調査	○	○		○		
2	史跡や埋蔵文化財の調査	○	○		○		
3	文化財等としての登録活動	○	○		○	○	
4	歴史的市街地の防災対策	○	○		○		
5	歴史建造物や史跡等の復原	○	○	○	○		○
6	歴史建造物の修景に対する支援	○	○		○	○	○
7	歴史資源周辺の環境保全・景観誘導	○	○	○	○		
8	まちなみ環境整備	○	○				
9	伝統的な産業の継続への支援		○				
10	伝統行事の復活・継続への支援	○	○	○	○		
11	歴史まちづくり団体等への支援	○	○	○	○		○
12	歴史まちづくり意識啓発活動		○		○		



#### (4) 歴史まちづくり活動課題

各行政が歴史まちづくりの取組みを表4-3-4に示す。南木曾町や中津川市、瑞浪市の歴史まちづくり活動には「人口減少」、「歴史建造物の老朽化」、「景観資源の支援措置がない」、「歴史雰囲気になじまない建築活動」などの課題に直面しているが、各行政においては「住民の歴史価値認識が不足」が歴史まちづくり活動共通の課題である。

表4-3-4 歴史まちづくり活動課題

歴史まちづくり活動課題	南木曾町	中津川市	恵那市	瑞浪市	御嵩町	美濃加茂市
1 人口の減少	○	○		○	○	
2 歴史建造物の老朽化	○	○		○	○	
3 自然・歴史資源の活用の不十分		○		○		○
4 景観資源の支援措置がない	○	○		○		
5 歴史雰囲気になじまない建築活動	○	○		○		
6 住民の歴史価値認識が不足	○		○	○	○	○

#### (5) 景観計画策定の課題

各行政が景観計画策定の課題を表4-3-5に示す。南木曾町や中津川市、瑞浪市のは「空き家・空き地の増加」、「歴史的建造物の建替え」、「伝統行事組織の人材不足」、「市民の関心の低さ」などの課題に直面しているが、恵那市、御嵩町は「歴史資源の活用不足」が景観計画策定の課題である。

表4-3-5 景観計画策定の課題

行政	南木曾町	中津川市	恵那市	瑞浪市	御嵩町	美濃加茂市
1 資源調査の不足				○		
2 空き家・空き地の増加	○	○	○	○	○	○
3 歴史的建造物の建替え	○	○		○		
4 歴史景観を阻害する建築行為		○		○		○
5 伝統工法等の職人等の減少	○			○		
6 伝統行事組織の人材不足	○	○		○		
7 市民の関心の低さ	○	○		○	○	
8 庁内の連携不足	○	○		○		
9 歴史資源の活用不足			○	○	○	

#### (6) 県内外の行政との連携

各行政が歴史まちづくりにおいて県内、外の行政との連携を表4-3-6に示す。南木曾町や瑞浪市、美濃加茂市は「県内行政と連携がある」が、中津川市や恵那市、御嵩町は「連携がない」である。

表4-3-6 県内外の行政との連携

行政		県内外の行政との連携					
		南木曾町	中津川市	恵那市	瑞浪市	御嵩町	美濃加茂市
1	県内行政と連携がある	○			○		○
2	県外行政と連携がある						
3	連携がない		○	○		○	

#### 4-3-2 まちづくり意識

##### (1) 地域特徴

各行政が認識された地域特徴を表4-3-7に示す。南木曾町や中津川市、恵那市、御嵩町、美濃加茂市は「歴史文化に恵まれている」、「自然景観が良い」であるが、瑞浪市は「交通利便性が良い」、「宿、飲食店などの快適性が良い」、「お土産品が充実している」である。

表4-3-7 地域特徴

行政		地域特徴					
		南木曾町	中津川市	恵那市	瑞浪市	御嵩町	美濃加茂市
1	歴史文化に恵まれている	○	○	○		○	○
2	景観資源がたくさんある	○	○			○	
3	自然景観が良い	○	○	○		○	○
4	交通利便性が良い			○	○		○
5	宿、飲食店などの快適性が良い				○		
6	お土産品が充実している		○		○		
7	安全性が良い		○	○	○		

## (2) 観光地としての問題点

各行政が認識された観光地としての問題点を表4-3-8に示す。中津川市や瑞浪市、御嵩町は「交通利便性が良くない」、「宿、飲食店などの快適性が良くない」であるが、恵那市と美濃加茂市は「景観資源が少ない」である。「お土産品になるものが少ない」が各地域共通の問題点である。

表4-3-8 観光地としての問題点

観光地としての問題点	行政	南木曾町	中津川市	恵那市	瑞浪市	御嵩町	美濃加茂市
1 歴史文化に恵まれていない							
2 景観資源が少ない				○			○
3 自然景観が良くない							
4 交通利便性が良くない		○	○		○	○	
5 宿、飲食店などの快適性が良くない			○		○	○	
6 お土産品になるものが少ない		○	○	○	○	○	○
7 安全性が良くない					○		

## (3) 活用すべき地域資源

各行政が認識された活用すべき地域資源を表4-3-9に示す。南木曾町は「一里塚、自然景観」、中津川市は「水路」、瑞浪市は「稲荷山展望台」、御嵩町は「願興寺、謡坂石畳」などの景観資源があげられた。

表4-3-9 観活用すべき地域資源

活用すべき地域資源	行政	南木曾町	中津川市	恵那市	瑞浪市	御嵩町	美濃加茂市
1 ある		○	○		○	○	
2 ない							○
3 その他				○			

(4) お土産品とするもの

各行政が認識された活用すべき地域資源を表4-3-10に示す。南木曾町は「和菓子」、中津川市は「栗を使用した和菓子」、瑞浪市は「農産物」、美濃加茂市は「御代桜醸造のお酒」などの景観資源があげられた。

表4-3-10 お土産とするもの

行政		南木	中津	恵那	瑞浪	御嵩	美濃加
		曾町	川市	市	市	町	茂市
お土産品とするもの							
1	ある	○	○		○		○
2	ない			○		○	

(5) 観光利便性の向上活動

各行政が観光利便性の向上するための活動を表4-3-11に示す。南木曾町と美濃加茂市は「観光案内施設の管理・運営」、「休憩施設・トイレの整備」、「多言語マップ・パンフレットの作成」をあげられた。恵那市と瑞浪市は「休憩施設・トイレの整備」、「多言語マップ・パンフレットの作成」をあげられている。御嵩町は「観光案内施設の管理・運営」、「観光人材育成」などの景観資源があげられた。

表4-3-11 観光利便性の向上活動

行政		南木	中津	恵那	瑞浪	御嵩	美濃加
		曾町	川市	市	市	町	茂市
観光利便性の向上							
1	観光案内施設の管理・運営	○	○			○	○
2	休憩施設・トイレの整備	○	○	○	○		○
3	回遊性向上	○	○	○	○		
4	土産品開発		○		○		
5	観光人材育成		○		○	○	○
6	多言語マップ・パンフレットの作成	○	○			○	○

(6) 中山道宿場町の将来像

各行政が認識した中山道宿場町の将来像を表4-3-12に示す。すべての行政が「豊かな自然と調和したまち」や「生活環境・観光環境の整ったまち」、「史跡・遺跡を生かした歴史まち」、「多くの観光客に訪れるまち」としての将来像が多い。

表4-3-12 宿場町の将来像

中山道宿場町の将来像		行政					
		南木曾町	中津川市	恵那市	瑞浪市	御嵩町	美濃加茂市
1	豊かな自然と調和したまち	○	○	○	○	○	○
2	生活環境・観光環境の整ったまち		○	○	○		○
3	史跡・遺跡を生かした歴史まち	○	○	○	○	○	
4	安全で安心して暮らせるまち		○	○	○		
5	人と人とがふれあうまち		○	○	○	○	○
6	多くの観光客に訪れるまち	○	○	○	○	○	
7	その他						

(7) 中山道宿場町間の将来像

各行政が認識した中山道宿場町間の将来像を表4-3-13に示す。すべての行政が「豊かな自然と調和した地区」や「生活環境・観光環境の整った地区」、「史跡・遺跡を生かした歴史地区」、「人と人とがふれあう地区」としての将来像が多い。

表4-3-13 宿場町間の将来像

中山道宿場町間の将来像		行政					
		南木曾町	中津川市	恵那市	瑞浪市	御嵩町	美濃加茂市
1	豊かな自然と調和した地区	○	○	○	○	○	○
2	生活環境・観光環境の整った地区	○	○	○	○		○
3	史跡・遺跡を生かした歴史地区	○	○	○	○	○	
4	安全で安心して暮らせる地区		○	○	○		
5	人と人とがふれあう地区		○	○	○	○	○
6	多くの観光客に訪れる地区	○	○	○	○	○	
7	その他						

### 4-3-3 観光客を受け入れる意識

#### (1) 観光客の増減

各地域における観光客の増減を表4-3-14に示す。瑞浪市、御嵩町、美濃加茂市は「日本人、外国人増加」している傾向であるが、中津川市で「外国人のみ増加」し、南木曾町は「日本人減少、外国人増加」していることをあげられた。

表4-3-14 観光客の増減

観光客の増減		行政					
		南木曾町	中津川市	恵那市	瑞浪市	御嵩町	美濃加茂市
1	日本人、外国人増加				○	○	○
2	外国人のみ増加		○				
3	日本人減少、外国人増加	○					
4	変わらない			○			

#### (2) 観光地としての特徴

各行政が認識した観光地としての特徴を表4-3-15に示す。中津川市と恵那市は多くの特徴が見られるが、南木曾町や瑞浪市、御嵩町は「歴史文化に恵まれている」、「景観資源がたくさんある」、「自然景観が良い」などの特徴をあげられ、美濃加茂市は「交通利便性が良い」、「案内標識が分かりやすい」などの特徴をあげられた。

表4-3-15 観光地としての特徴

観光地としての特徴		行政					
		南木曾町	中津川市	恵那市	瑞浪市	御嵩町	美濃加茂市
1	歴史文化に恵まれている	○	○	○	○	○	
2	景観資源がたくさんある	○	○	○	○	○	
3	自然景観が良い	○	○	○	○	○	○
4	交通利便性が良い		○	○			○
5	宿、飲食店などの快適性が良い		○	○			
6	お土産品が充実している		○	○			
7	安全性が良い	○	○	○	○		
8	休憩場・トイレの整備が良い	○	○	○	○		○
9	案内標識が分かりやすい	○	○	○	○		
10	観光情報が充実している	○	○	○			

(3) 日本人観光客が困っていること

各行政が認識した日本人観光客が困っていることを表4-3-16に示す。南木曾町や中津川市、瑞浪市は「交通不便」、「宿泊施設不足」などの問題をあげられ、恵那市は「観光・交通情報不足」、「休憩所・トイレ不足」、御嵩町と美濃加茂市は「お土産不足」などの問題をあげられた。「飲食店不足」は各地域共通の問題であると考えられる。

表4-3-16 日本人観光客が困っていること

日本人観光客が困っていること	行政	南木曾町	中津川市	恵那市	瑞浪市	御嵩町	美濃加茂市
1 観光・交通情報不足			○	○	○		
2 交通不便		○	○		○		
3 宿泊施設不足		○	○		○	○	
4 飲食店不足		○	○	○	○	○	○
5 道迷いやすい			○				
6 休憩所・トイレ不足				○	○	○	
7 お土産不足		○			○	○	○

(4) 外国人観光客が困っていること

各行政が認識した日本人観光客が困っていることを表4-3-17に示す。中津川市と瑞浪市は「交通不便」、「宿泊施設不足」などの問題をあげられ、恵那市は「観光・交通情報不足」、「休憩所・トイレ不足」、「飲食店不足」、「休憩所・トイレ不足」など多くの問題があげられた。恵那市や御嵩町、美濃加茂市は「多言語地図・パンフレット不足」、「コミュニケーションできない」などの問題があげられ、外国人観光客にの対応が不十分であると考えられる。

表4-3-17 外国人観光客が困っていること

外国人観光客が困っていること	行政	南木曾町	中津川市	恵那市	瑞浪市	御嵩町	美濃加茂市
1 観光・交通情報不足			○	○	○		○
2 交通不便			○		○		
3 宿泊施設不足			○		○	○	
4 飲食店不足			○		○	○	
5 道迷いやすい		○	○				
6 休憩所・トイレ不足			○		○	○	
7 お土産不足			○		○	○	○
8 多言語地図・パンフレット不足				○	○	○	
9 コミュニケーションできない			○	○	○	○	



(5) 観光客を受け入れる事業

各行政が認識した「訪れたい」町になるために必要な取組みを表4-3-18に示す。南木曾町と中津川市は「観光資源の発掘・活用」、「外国人旅行者を受け入れ体制」などの事業が行われている。恵那市と瑞浪市は「看板・トイレ・休憩所の整備」、御嵩町は「国内外の宣伝」、美濃加茂市は「観光資源の発掘・活用」などの事業が行われている。

表4-3-18 観光客を受け入れる事業

観光客を受け入れる事業	行政	南木曾町	中津川市	恵那市	瑞浪市	御嵩町	美濃加茂市
1 観光資源の発掘・活用		○	○		○		○
2 旅行者のマナーが改善され							
3 外国人旅行者を受け入れ体制		○	○				
4 国内外の宣伝			○			○	
5 その他				○	○		

(6) 「訪れたい」町必要な取組み

各行政が認識した「訪れたい」町になるために必要な取組みを表4-3-19に示す。中津川市や恵那市、瑞浪市は「イベント開催の支援」、「お土産の開発」、「地区の宣伝」などのことがあげられた。南木曾町は「住民に歴史価値の教育」、御嵩町は「お土産の開発」、美濃加茂市は「イベント開催の支援」などの必要な取組みがあげられた。各行政は「住民との協働を推進する」と「多言語地図・パンフレットの配置」が共通的な取組みと考えられる。

表4-3-19 「訪れたい」町必要な取組み

「訪れたい」町必要な取組み	行政	南木曾町	中津川市	恵那市	瑞浪市	御嵩町	美濃加茂市
1 住民との協働を推進する		○	○	○	○	○	○
2 イベント開催の支援			○	○	○		○
3 多言語地図・パンフレットの配置		○	○	○	○	○	
4 住民に歴史価値の教育		○	○	○			
5 お土産の開発			○	○	○	○	
6 地区の宣伝			○	○	○		



## 第4節 まちづくり団体の活動と観光客を受け入れる意識

本節では中山道東美濃路沿道地域各まちづくり団体の状況や活動の内容や課題、中山道地域の魅力と将来像などのまちづくり意識、観光客観光意識及び対応策を明らかにする。

### 4-4-1 まちづくり団体の現状

#### (1) メンバー数

各まちづくり団体のメンバー数を表4-4-1に示す。南木曾町地区の妻籠愛する会や恵那市地区の武並地区中山道保存会、恵那市まちづくり市民協会、瑞浪市地区の大湫町コミュニティ推進協議会、美濃加茂市地区の中山道会館NPO法人宿木は「100人以上」多数のメンバーがいる。ほかに中津川市地区の中津川本町中山道景観協議会、恵那市地区の大井町まちづくり協議会は「50～99人」、恵那市地区の中山道のれんコンテスト実行委員会は「20～49人」のメンバーがいる。中山道東美濃路地域においては多くの住民がまちづくり活動に熱心があると考えられる。

表4-4-1 まちづくり団体のメンバー数

市	組織名称	グループのメンバー
南木曾町	妻籠愛する会	100人以上
中津川市	中津川本町中山道景観協議会	50～99人
恵那市	中山道のれんコンテスト実行委員会	20～49人
	大井町まちづくり協議会	50～99人
	武並地区中山道保存会	100人以上
	恵那市まちづくり市民協会	100人以上
瑞浪市	大湫町コミュニティ推進協議会	100人以上
美濃加茂市	中山道会館NPO法人宿木	100人以上

## (2) メンバーの性別構成

各まちづくり団体のメンバーの性別構成を表4-4-2に示す。恵那市地区の中山道のれんコンテスト実行委員会、武並地区中山道保存会、美濃加茂市地区の中山道会館NPO法人宿木は「男性」が7割を超えている。中津川市地区の中津川本町中山道景観協議会、恵那市地区の大井町まちづくり協議会、瑞浪市地区の大湫町コミュニティ推進協議会は「男性」と「女性」がそれぞれ半数を占める。

表4-4-2 メンバーの性別構成

市	組織名称	男性	女性
南木曾町	妻籠愛する会	不明	
中津川市	中津川本町中山道景観協議会	50%	50%
恵那市	中山道のれんコンテスト実行委員会	90%	10%
	大井町まちづくり協議会	50%	50%
	武並地区中山道保存会	70%	30%
	恵那市まちづくり市民協会	不明	
瑞浪市	大湫町コミュニティ推進協議会	48%	52%
美濃加茂市	中山道会館NPO法人宿木	80%	20%

## (3) メンバーの年齢構成

各まちづくり団体のメンバーの年齢構成を表4-4-3に示す。南木曾町地区の妻籠愛する会、恵那市地区の恵那市まちづくり市民協会は「全住民」や「幅広い年代の人」であるが、ほかのまちづくり団体のメンバーの年齢は「60歳以上」が多い。

表4-4-2 メンバーの年齢構成

市	組織名称	メンバー年齢
南木曾町	妻籠愛する会	妻籠地区の全住民
中津川市	中津川本町中山道景観協議会	60歳以上が多い
恵那市	中山道のれんコンテスト実行委員会	60歳以上が多い
	大井町まちづくり協議会	60歳以上が多い
	武並地区中山道保存会	60歳以上が多い
	恵那市まちづくり市民協会	幅広い年代の人がいる
瑞浪市	大湫町コミュニティ推進協議会	60歳以上が多い
美濃加茂市	中山道会館NPO法人宿木	60歳以上が多い

#### 4-4-2 まちづくり活動

##### (1) 活動をはじめた時期

各まちづくり団体が活動をはじめた時期を表4-4-4に示す。南木曾町地区の妻籠愛する会は「1968年」で最も早く、恵那市地区の武並地区中山道保存会と瑞浪市地区の大湫町コミュニティ推進協議会は「1986年」、恵那市地区の恵那市まちづくり市民協会は「2003年」で景観法を発布した前で活動をはじめたが、ほかの街づくり団体は景観法を発布した後で活動をはじめた。

表4-4-4 まちづくり活動をはじめた時期

市	組織名称	活動をはじめた時期
南木曾町	妻籠愛する会	1968
中津川市	中津川本町中山道景観協議会	分からない
恵那市	中山道のれんコンテスト実行委員会	2008
	大井町まちづくり協議会	2005
	武並地区中山道保存会	1986
	恵那市まちづくり市民協会	2003
瑞浪市	大湫町コミュニティ推進協議会	1986
美濃加茂市	中山道会館NPO法人宿木	2006

## (2) 活動内容

各まちづくり団体が活動内容を表4-4-5に示す。南木曾町や中津川市、瑞浪市のまちづくり団体は「まちのルールや計画の作成」、「古民家、町家の改修」、「地域に花や緑の増加」、「都市基盤整備事業等に助言」など多くの活動をしている。恵那市のまちづくり団体は「まちなみの美化」、「商店街の活性化」、「まち歩き・講演会などを開催」などの活動をしている。美濃加茂市は「まち歩き・講演会などを開催」、「まちづくり学習のサポート」などの活動をしている。各市のまちづくり団体が共通的な活動は「歴史的な建物の維持・管理」である。

表4-4-5 まちづくり活動内容

活動内容	まちづくり団体	南木曾町	中津川市	恵那市	瑞浪市	美濃加茂市
1	まちなみの美化	○	○	○	○	
2	まちのルールや計画の作成	○	○		○	
3	古民家、町家の改修	○	○		○	
4	歴史的な建物の維持・管理	○	○	○	○	○
5	地域施設の維持・管理		○		○	
6	安心・安全なまちに協力	○			○	
7	地域に花や緑の増加	○	○		○	
8	商店街の活性化	○	○	○		
9	住みやすいまちに協力				○	
10	都市基盤整備事業等に助言	○	○		○	
11	まち歩き・講演会などを開催	○		○	○	○
12	まちづくり学習のサポート	○			○	○

## (3) 活動範囲

各まちづくり団体が活動範囲を表4-4-6に示す。南木曾町は「建造物群保存地区」である、中津川市は「商店街」である、恵那市は「特定の施設」と「市・町内」である、瑞浪市は「町丁目」である、美濃加茂市は「市・町内」である。

表4-4-6 まちづくり活動範囲

活動の範囲	まちづくり団体	南木曾町	中津川市	恵那市	瑞浪市	美濃加茂市
1	建造物群保存地区	○				
2	特定の施設			○		
3	商店街		○			
4	町丁目				○	
5	市・町内			○		○

#### (4) 活動場所

各まちづくり団体が活動場所を表4-4-7に示す。南木曾町のまちづくり団体は「建造物群保存地区」の公園や学校である、中津川市のまちづくり団体は「街道」である、恵那市と瑞浪市のまちづくり団体は「コミュニティーセンター」、「市民活動センター」である、美濃加茂市のまちづくり団体は「資料館・会館」である。

表4-4-7 まちづくり活動場所

活動場所	まちづくり団体	南木曾町	中津川市	恵那市	瑞浪市	美濃加茂市
1 妻籠宿伝統的建造物群保存地区		○				
2 公民館					○	
3 コミュニティーセンター				○	○	
4 市民活動センター				○	○	
5 資料館・会館						○
6 街道			○			

#### (5) 活動の頻度

各まちづくり団体が活動の頻度を表4-4-8に示す。南木曾町のまちづくり団体は「不定」である、中津川市と恵那市のまちづくり団体は「2、3か月に1回」である、瑞浪市のまちづくり団体は「月に1、2回」で最も頻度が高く、美濃加茂市のまちづくり団体は「6か月に1回」で最も頻度が低い。

表4-4-8 まちづくり活動の頻度

活動の頻度	まちづくり団体	南木曾町	中津川市	恵那市	瑞浪市	美濃加茂市
1 週に1回位						
2 月に1、2回					○	
3 2、3か月に1回			○	○		
4 6か月に1回						○
5 不定		○				

(6) 活動の増減

各まちづくり団体が活動の増減を表4-4-9に示す。各まちづくり団体は「増加している」傾向である、中津川市と瑞浪市のまちづくり団体は「変わらない」傾向である。

表4-4-9 まちづくり活動の増減

活動の増減		まちづくり団体				
		南木曾町	中津川市	恵那市	瑞浪市	美濃加茂市
1	増加している	○		○		○
2	減少している					
3	変わらない		○		○	

(7) 活動状況の公表

各まちづくり団体が活動状況の公表状況を表4-4-10に示す。各まちづくり団体は「総会等に報告」、「補助（交付）金の執行状況の報告」、「ホームページで公表」で公表することが多いが、ほかに南木曾町や恵那市、美濃加茂市のまちづくり団体は「紙媒体に公表」で、南木曾町と瑞浪市のまちづくり団体は「月刊広報紙発行」で公表している

表4-4-10 まちづくり活動状況の公表

活動状況の公表		まちづくり団体				
		南木曾町	中津川市	恵那市	瑞浪市	美濃加茂市
1	総会等に報告	○	○	○	○	○
2	補助（交付）金の執行状況の報告	○	○	○	○	○
3	ホームページで公表	○		○	○	○
4	SNSを活用して公表		○			
5	紙媒体に公表	○		○		○
6	月刊広報紙発行	○			○	

(8) 他まちづくり団体との連携

各まちづくり団体がまちづくり活動において他まちづくり団体との連携を表4-4-11に示す。南木曾町と恵那市のまちづくり団体は「当地区内まちづくり団地と連携がある」及び「当地区外まちづくり団地と連携がある」で、連携が充実している。中津川市と美濃加茂市のまちづくり団体は「当地区内まちづくり団地と連携がある」のみで、瑞浪市のまちづくり団体は「当地区外まちづくり団地と連携がある」のみである。

表4-4-11 他のまちづくり団体との連携

まちづくり団体		南木曾町	中津川市	恵那市	瑞浪市	美濃加茂市
他まちづくり団体との連携						
1	当地区内まちづくり団地と連携がある	○	○	○		○
2	当地区外まちづくり団地と連携がある	○		○	○	

#### 4-4-3 まちづくり意識

##### (1) 地域特徴

各まちづくり団体が認識された地域特徴を表4-4-12に示す。各まちづくり団体は「歴史文化に恵まれている」と「自然景観が良い」が地域の特徴として認められるが、ほかに南木曾町や中津川市、瑞浪市のまちづくり団体は「景観資源がたくさんある」、南木曾町や恵那市、瑞浪市、美濃加茂市のまちづくり団体は「安全性が良い」が地域の特徴としている。

表4-4-12 地域の特徴

地域特徴		まちづくり団体				
		南木曾町	中津川市	恵那市	瑞浪市	美濃加茂市
1	歴史文化に恵まれている	○	○	○	○	○
2	景観資源がたくさんある	○	○		○	
3	自然景観が良い	○	○	○	○	○
4	交通利便性が良い	○	○			
5	宿、飲食店などの快適性が良い	○				
6	お土産品が充実している	○				
7	安全性が良い	○		○	○	○

##### (2) 観光地としての問題点

各まちづくり団体が認識された観光地としての問題点を表4-4-13に示す。中津川市や瑞浪市、御嵩町、瑞浪市のまちづくり団体は「宿、飲食店などの快適性が良くない」、「お土産品になるものが少ない」を指摘しているが、南木曾町のまちづくり団体は「交通利便性が良くない」を指摘している。

表4-4-13 観光地としての問題点

観光地としての問題点		まちづくり団体				
		南木曾町	中津川市	恵那市	瑞浪市	美濃加茂市
1	交通利便性が良くない	○			○	○
2	宿、飲食店などの快適性が良くない		○	○	○	○
3	お土産品になるものが少ない		○	○	○	○
4	安全性が良くない					
5	問題点がない、わからない			○		
6	歴史的建造物の保存ができない	○				



### (3) 活用すべき地域資源

各まちづくり団体が認識された活用すべき地域資源を表4-4-14に示す。南木曾町のまちづくり団体は「明治天皇大井行在所」、中津川市のまちづくり団体は「地酒」、恵那市のまちづくり団体は「桜公園、東山道」、瑞浪市のまちづくり団体は「姫ホテル・ハッチョウトンボなど希少な動植物」、美濃加茂市のまちづくり団体は「太田宿」などの景観資源があげられている。

表4-4-14 観活用すべき地域資源

活用すべき地域資源 まちづくり団体		南木曾町	中津川市	恵那市	瑞浪市	美濃加茂市
		1 あり	○	○	○	○
2 ない						

### (4) お土産とするもの

各まちづくり団体が認識しているお土産とするものを表4-4-15に示す。南木曾町のまちづくり団体は「五平餅、栗きんとん」、恵那市のまちづくり団体は「栗や寒天、又はその加工品」、瑞浪市のまちづくり団体は「中山道じねんじょ」などの地産物がお土産とするものがあげられている。

表4-4-15 お土産とするもの

お土産とするもの まちづくり団体		南木曾町	中津川市	恵那市	瑞浪市	美濃加茂市
		1 あり	○		○	○
2 ない			○			○

(5) まちづくり活動課題

各まちづくり団体がまちづくり活動課題を表4-4-16に示す。各まちづくり団体は「人口の減少」、「歴史建造物の老朽化」、「景観資源の支援措置がない」などの共通課題としてあげている。ほかに、南木曾町と中津川市のまちづくり団体は「歴史雰囲気になじまない建築活動」、「住民の歴史価値認識が不足」などの課題があげ、恵那市と美濃加茂市のまちづくり団体は「住民の歴史価値認識が不足」の課題があげられ、瑞浪市のまちづくり団体は「自然・歴史資源の活用が不十分」の課題があげている。

表4-4-16 まちづくり活動課題

まちづくり活動課題	まちづくり団体	南木曾町	中津川市	恵那市	瑞浪市	美濃加茂市
1 人口の減少		○	○	○	○	○
2 歴史建造物の老朽化		○	○	○	○	○
3 自然・歴史資源の活用が不十分			○		○	
4 景観資源の支援措置がない		○	○	○	○	○
5 歴史雰囲気になじまない建築活動		○	○			
6 住民の歴史価値認識が不足		○	○	○		○
7 住民の高齢化		○				

(6) 中山道宿場町の将来像

各まちづくり団体が認識した中山道宿場町の将来像を表4-4-17に示す。すべてのまちづくり団体が「史跡・遺跡を生かした歴史まち」や「生活環境・観光環境の整ったまち」、「人と人がふれあうまち」、「多くの観光客に訪れるまち」としての将来像を多く考えている。

表4-4-17 宿場町の将来像

中山道宿場町の将来像	まちづくり団体	南木曾町	中津川市	恵那市	瑞浪市	美濃加茂市
1 豊かな自然と調和したまち		○		○	○	○
2 生活環境・観光環境の整ったまち		○	○	○	○	
3 史跡・遺跡を生かした歴史まち		○	○	○	○	○
4 安全で安心して暮らせるまち		○	○	○	○	
5 人と人がふれあうまち		○	○	○	○	○
6 多くの観光客に訪れるまち		○	○	○	○	○
7 商店街						

(7) 中山道宿場町間の将来像

各まちづくり団体が認識した中山道宿場町間の将来像を表4-4-18に示す。すべてのまちづくり団体が「豊かな自然と調和した地区」や「生活環境・観光環境の整った地区」、「史跡・遺跡を生かした歴史地区」、「人と人とはふれあう地区」としての将来像が多く考えている。

表4-4-18 宿場町間の将来像

まちづくり団体 中山道宿場町間の将来像	南木曾町	中津川市	恵那市	瑞浪市	美濃加茂市
1 豊かな自然と調和した地区	○		○	○	○
2 生活環境・観光環境の整った地区	○	○		○	○
3 史跡・遺跡を生かした歴史地区	○	○	○	○	
4 安全で安心して暮らせる地区		○	○	○	
5 人と人とはふれあう地区	○	○	○	○	○
6 多くの観光客に訪れる地区		○	○	○	○
7 商店街					

(8) 「訪れたい」町にするために行政への要望

各まちづくり団体が「訪れたい」町にするために行政への要望を表4-4-19に示す。南木曾町や中津川市、恵那市のまちづくり団体は「住民との協働を推進する」、「多言語紹介資料の作成・配置」、「住民に歴史価値の教育」などの要望が多くあげられ、ほかに中津川市や恵那市、瑞浪市、美濃加茂市のまちづくり団体は「イベント開催の支援」の要望があげられている。

表4-4-19 「訪れたい」町にするために行政への要望

まちづくり団体 「訪れたい」町 になるために行政への要望	南木曾町	中津川市	恵那市	瑞浪市	美濃加茂市
1 住民との協働を推進する	○	○	○		○
2 イベント開催の支援		○	○	○	○
3 多言語紹介資料の作成・配置	○	○	○	○	
4 住民に歴史価値の教育	○	○	○		
5 お土産の開発		○			○
6 地区の宣伝		○			
7 町並み保存、地域内史跡などの保存			○		

#### 4-4-4 観光客を受け入れる意識

##### (1) 観光客の増減

各まちづくり団体が認識した観光客の増減を表4-4-20に示す。中津川市や、瑞浪市、美濃加茂市のまちづくり団体は「日本人、外国人増加」している傾向にあるが、南木曾町と恵那市のまちづくり団体は「外国人のみ増加」し、南木曾町は「日本人減少、外国人増加」していることがあげられている。

表4-4-20 観光客の増減

観光客の増減		まちづくり団体				
		南木曾町	中津川市	恵那市	瑞浪市	美濃加茂市
1	日本人、外国人増加		○		○	○
2	外国人のみ増加	○		○		

##### (2) 観光地としての特徴

各まちづくり団体が認識した観光地としての特徴を表4-4-21に示す。各まちづくり団体は「歴史文化に恵まれている」という共通的な特徴があげられている。また、南木曾町や中津川市、恵那市のまちづくり団体は「景観資源がたくさんある」、多くの特徴が見られるが、南木曾町や瑞浪市、御嵩町は「歴史文化に恵まれている」、「自然景観が良い」などの特徴をあげられ、瑞浪市と美濃加茂市は「休憩場・トイレの整備が良い」などの特徴をあげている。

表4-4-21 観光地としての特徴

観光地としての特徴		まちづくり団体				
		南木曾町	中津川市	恵那市	瑞浪市	美濃加茂市
1	歴史文化に恵まれている	○	○	○	○	○
2	景観資源がたくさんある	○	○	○	○	
3	自然景観が良い	○	○	○		○
4	交通利便性が良い		○	○		
5	宿、飲食店などの快適性が良い		○			
6	お土産品が充実している	○	○			
7	安全性が良い		○			
8	休憩場・トイレの整備が良い	○	○		○	○
9	案内標識が分かりやすい	○	○	○		

(3) 日本人観光客が困っていること

各まちづくり団体が認識した日本人観光客が困っていることを表4-4-22に示す。各まちづくり団体は「宿泊施設不足」と「飲食店不足」の共通的な問題点があげられている。また、中津川市や恵那市、瑞浪市、美濃加茂市は「観光・交通情報不足」、「お土産不足」などの問題をあげられ問題があげられている。

表4-4-22 日本人観光客が困っていること

日本人観光客が困っていること		まちづくり団体	南木曾町	中津川市	恵那市	瑞浪市	美濃加茂市
1	観光・交通情報不足			○	○	○	○
2	交通不便		○			○	○
3	宿泊施設不足		○	○	○	○	○
4	飲食店不足		○	○	○	○	○
5	道迷いやすい						
6	休憩所・トイレ不足		○				
7	お土産不足			○	○	○	

(4) 外国人観光客が困っていること

各まちづくり団体が認識した外国人観光客が困っていることを表4-4-23に示す。各まちづくり団体は「観光・交通情報不足」、「交通不便」、「宿泊施設不足」、「飲食店不足」、「多言語地図・パンフレット不足」、「コミュニケーションできない」など様々な問題点をあげられ、外国人観光客への対応が不十分であると考えられている。

表4-4-23 外国人観光客が困っていること

外国人観光客が困っていること		まちづくり団体	南木曾町	中津川市	恵那市	瑞浪市	美濃加茂市
1	観光・交通情報不足		○	○	○	○	○
2	交通不便		○		○	○	○
3	宿泊施設不足		○	○	○	○	
4	飲食店不足		○	○	○	○	
5	道迷いやすい			○			
6	休憩所・トイレ不足				○		
7	お土産不足			○		○	○
8	多言語地図・パンフレット不足			○	○	○	○
9	コミュニケーションできない		○	○	○	○	
10	wifiがない			○			

(5) 観光客を受け入れる活動

各まちづくり団体が行っている観光客を受け入れる活動を表4-4-24に示す。各まちづくり団体は「観光案内」、「休憩所・トイレの管理」、「地元街並の美化」、「中山道街道の清掃」など様々な活動をしているが、「外国語対応できる体制」はあまり進んでおらず、外国人観光客への対応体制が十分ではない。

表4-4-24 観光客を受け入れる活動

まちづくり団体		南木曾町	中津川市	恵那市	瑞浪市	美濃加茂市
観光客を受け入れ活動						
1	観光案内	○		○	○	○
2	休憩所・トイレの管理	○	○		○	○
3	地元街並の美化	○	○	○	○	
4	中山道街道の清掃	○	○	○	○	
5	外国語対応できる体制	○			○	
6	活動していない			○		

## 第5節 観光案内施設の現状と観光客を受け入れ意識

本節では中山道東美濃路沿道地域各観光案内施設の状況やサービスの内容や課題、中山道地域の魅力と将来像などのまちづくり意識、観光客観光意識及び対応策を明らかにする。

### 4-5-1 観光案内施設のスタッフ現状

#### (1) スタッフ数

各観光案内施設のスタッフ数を表4-5-1に示す。中津川市の中津川市観光センターは「5～10人」で最も多く、次に南木曾町の妻籠観光案内所が「3～5人」で、ほかの観光案内施設は「1～3人」である。

表4-5-1 観光案内施設のスタッフ数

市	組織名称	スタッフ人数
南木曾町	妻籠観光案内所	3～5人
中津川市	馬籠観光案内所	1～3人
	中津川市観光センター	5～10人
御嵩町	御嵩町観光案内所	1～3人
美濃加茂市	みのかも観光案内所	1～3人

## (2) スタッフの性別構成

各観光案内施設のメンバーの性別構成を表4-5-2に示す。中津川市の馬籠観光案内所、中津川市観光センター、美濃加茂市のみのかも観光案内所はすべて「女性」である。南木曾町の妻籠観光案内所は「男性」と「女性」がそれぞれ半数を占めている。御嵩町の御嵩町観光案内所は「女性」が6割を超えている。

表4-5-2 スタッフの性別構成

市	組織名称	男性	女性
南木曾町	妻籠観光案内所	50%	50%
中津川市	馬籠観光案内所	0	100%
	中津川市観光センター	0	100%
御嵩町	御嵩町観光案内所	33%	67%
美濃加茂市	みのかも観光案内所	0	100%

## (3) スタッフが対応できる外国語

各観光案内施設のスタッフが対応できる外国語を表4-5-3に示す。南木曾町地区の妻籠観光案内所、中津川市の中津川市観光センターは「英語」で対応できている。中津川市の馬籠観光案内所は「中国語」対応できる。ほかの観光案内施設は「対応できない」できている。

表4-5-3 スタッフが対応できる外国語

市	組織名称	スタッフ対応外国語
南木曾町	妻籠観光案内所	英語
中津川市	馬籠観光案内所	その他
	中津川市観光センター	英語
御嵩町	御嵩町観光案内所	対応できない
美濃加茂市	みのかも観光案内所	対応できない



#### 4-5-2 観光案内施設の現状及び運営上の課題

##### (1) 立地場所

各観光案内施設の立地場所を表4-5-4に示す。南木曾町の観光案内施設は「宿場町内」で設置され、中津川市や御嵩町、美濃加茂市の観光案内施設は「鉄道駅周辺」で設置されている。

表4-5-4 立地場所

観光案内施設		立地場所			
		南木曾町	中津川市	御嵩町	美濃加茂市
1	鉄道駅周辺		○	○	○
2	宿場町内	○			

##### (2) 案内施設スペースの広さ

各観光案内施設の案内施設スペースの広さを表4-5-5に示す。南木曾町の観光案内施設は「40 m<sup>2</sup>～60 m<sup>2</sup>」で最も広く、中津川市の観光案内施設は「20 m<sup>2</sup>～40 m<sup>2</sup>」が多く、御嵩町の観光案内施設は「10 m<sup>2</sup>～20 m<sup>2</sup>」で最も狭い。

表4-5-5 案内施設スペースの広さ

案内施設スペースの広さ		案内施設スペースの広さ			
		南木曾町	中津川市	御嵩町	美濃加茂市
1	10 m <sup>2</sup> ～20 m <sup>2</sup>			○	
2	20 m <sup>2</sup> ～40 m <sup>2</sup>		○		
3	40 m <sup>2</sup> ～60 m <sup>2</sup>	○			
4	無回答				○

### (3) 提供できる情報

各観光案内施設が提供できる情報を表4-5-6に示す。南木曾町と中津川市の観光案内施設は「多言語マップ・パンフレット」から「公共交通の経路・情報」、「観光情報」、「飲食店情報」、「宿泊施設情報」など幅広い情報が提供できるが、御嵩町と美濃加茂市の観光案内施設は「マップ・パンフレットの配布」、「観光情報」、「飲食店情報」などの情報が提供できている。

表4-5-6 案内施設が提供できる情報

提供できる情報	南木曾町	中津川市	御嵩町	美濃加茂市
1 マップ・パンフレットの配布	○	○	○	○
2 多言語マップ・パンフレット	○	○		
3 公共交通の経路・情報	○	○	○	
4 公共交通の利用方法	○	○		○
5 観光情報	○	○	○	○
6 飲食店情報	○	○	○	○
7 宿泊施設情報	○	○		○
8 ツアー・旅行商品情報				

### (4) 提供できるサービス

各観光案内施設が提供できるサービスを表4-5-7に示す。南木曾町の観光案内施設は「無料公衆無線LAN環境」、「多言語スタッフの常駐」が外国人観光客を対応するサービスが提供できている。中津川市の観光案内施設は「宿泊施設の予約」、「無料公衆無線LAN環境」のサービスが提供できている。美濃加茂市の観光案内施設は「宿泊施設の予約」のサービスが提供できている。

表4-5-7 案内施設が提供できるサービス

提供できるサービス	南木曾町	中津川市	御嵩町	美濃加茂市
1 飲食店の予約				
2 宿泊施設の予約		○		○
3 ツアー・旅行商品の予約				
4 外国への電話のかけ方				
5 無料公衆無線LAN環境	○	○		
6 PC利用環境情報				
7 両替・ATM				
8 多言語スタッフの常駐	○			
9 無回答			○	

#### (5) 運営上の課題

各観光案内施設が運営上の課題を表4-5-8に示す。南木曾町の観光案内施設は「予算の確保」の課題があげられている。中津川市の観光案内施設は「提供情報の多言語化」、「予算の確保」、「外国語対応可能な職員の確保」、「効率的・効果的な情報提供方法」の多くの課題をあげられた。御嵩町の観光案内施設は「提供情報の多言語化」と「外国語対応可能な職員の確保」の課題があげられている。

表4-5-8 案内施設が運営上の課題

観光案内施設		南木曾町	中津川市	御嵩町	美濃加茂市
運営上の課題					
1	提供情報の多言語化		○	○	
2	予算の確保	○	○		
3	外国語対応可能な職員の確保		○	○	
4	効率的・効果的な情報提供方法		○		
5	交通機関との連携				
6	宿泊施設との連携				
7	飲食店との連携				
8	他の観光案内所との連携				
9	専門スタッフの育成・確保				
10	無回答				○

#### 4-5-3 まちづくり意識

##### (1) 地域特徴

各観光案内施設が認識された地域特徴を表4-5-9に示す。各観光案内施設は「歴史文化に恵まれている」と「自然景観が良い」が地域の特徴として認められるが、ほかに南木曾町や中津川市、美濃加茂市の観光案内施設は「景観資源がたくさんある」、「安全性が良い」が地域の特徴として認められる。

表4-5-9 地域の特徴

観光案内施設		南木曾町	中津川市	御嵩町	美濃加茂市
地域特徴					
1	歴史文化に恵まれている	○	○	○	○
2	景観資源がたくさんある	○	○		○
3	自然景観が良い	○	○	○	○
4	交通利便性が良い				○
5	宿、飲食店などの快適性が良い		○		○
6	お土産品が充実している				○
7	安全性が良い	○	○		○

## (2) 観光地としての問題点

各観光案内施設が認識された観光地としての問題点を表4-5-10に示す。中津川市の観光案内施設は「歴史文化に恵まれていない」、「景観資源が少ない」、「宿、飲食店などの快適性が良くない」、「安全性が良くない」など多くの問題点が指摘されているが、南木曾町の観光案内施設は「交通利便性が良くない」を指摘された。御嵩町は「お土産品になるものが少ない」と指摘され、美濃加茂市は「景観資源が少ない」、「自然景観が良くない」と指摘されている。

表4-5-10 観光地としての問題点

観光案内施設 観光地としての問題点	南木曾町	中津川市	御嵩町	美濃加茂市
1 歴史文化に恵まれていない		○		
2 景観資源が少ない		○		○
3 自然景観が良くない		○		○
4 交通利便性が良くない	○			
5 宿、飲食店などの快適性が良くない		○		
6 お土産品になるものが少ない			○	
7 安全性が良くない		○		
8 問題点がない、わからない		○		

## (3) 活用すべき地域資源

各観光案内施設認識された活用すべき地域資源を表4-5-11に示す。御嵩町の観光案内施設は「願興寺、謡坂石畳」が景観資源をあげられている。

表4-5-11 観活用すべき地域資源

観光案内施設 活用すべき地域資源	南木曾町	中津川市	御嵩町	美濃加茂市
1 ある			○	
2 ない	○	○		○

(4) お土産品とするもの

各観光案内施設が認識されたお土産品とするものを表4-5-12に示す。南木曾町の観光案内施設は「木製品、和菓子」、中津川市の観光案内施設は「栗きんとん、和宮道中御菓子」、美濃加茂市の観光案内施設は「山道ランチ」の地産物がお土産品としてあげられている。

表4-5-12 お土産とするもの

観光案内施設 お土産品とするもの		南木曾町	中津川市	御嵩町	美濃加茂市
		1 あり	○	○	
2 ない				○	

(5) まちづくり活動課題

各観光案内施設がまちづくり活動課題を表4-5-13に示す。南木曾町の観光案内施設は「景観資源の支援措置がない」、「住民の歴史価値認識が不足」の課題があげられている、中津川市の観光案内施設は「人口の減少」、「自然・歴史資源の活用の不十分」の課題があげられている、御嵩町の観光案内施設は「人口の減少」、「歴史建造物の老朽化」、「住民の歴史価値認識が不足」の課題があげられている、美濃加茂市の観光案内施設は「歴史建造物の老朽化」、「景観資源の支援措置がない」、「歴史雰囲気になじまない建築活動」の課題があげられている。

表4-5-13 まちづくり活動課題

観光案内施設 まちづくり活動課題		南木曾町	中津川市	御嵩町	美濃加茂市
		1 人口の減少		○	○
2 歴史建造物の老朽化				○	○
3 自然・歴史資源の活用の不十分			○		
4 景観資源の支援措置がない	○				○
5 歴史雰囲気になじまない建築活動					○
6 住民の歴史価値認識が不足	○			○	

(6) 中山道宿場町の将来像

各観光案内施設が認識した中山道宿場町の将来像を表4-5-14に示す。すべての観光案内施設が「人と人がふれあうまち」や「多くの観光客に訪れるまち」としての将来像が最も多くあげられている。次に「豊かな自然と調和したまち」、「史跡・遺跡を生かした歴史まち」、「安全で安心して暮らせるまち」が多くあげられている。

表4-5-14 宿場町の将来像

観光案内施設		南木曾町	中津川市	御嵩町	美濃加茂市
中山道宿場町の将来像					
1	豊かな自然と調和したまち	○	○	○	
2	生活環境・観光環境の整ったまち		○		○
3	史跡・遺跡を生かした歴史まち	○	○	○	
4	安全で安心して暮らせるまち	○	○		○
5	人と人がふれあうまち	○	○	○	○
6	多くの観光客に訪れるまち	○	○	○	○

(7) 中山道宿場町間の将来像

各観光案内施設が認識した中山道宿場町間の将来像を表4-5-15に示す。すべての観光案内施設が「豊かな自然と調和した地区」や、「人と人がふれあう地区」「多くの観光客に訪れるまち」としての将来像が最も多くあげられている。次に、「生活環境・観光環境の整った地区」や「史跡・遺跡を生かした歴史地区」、「安全で安心して暮らせる地区」が多くあげられている。

表4-5-15 宿場町間の将来像

観光案内施設		南木曾町	中津川市	御嵩町	美濃加茂市
中山道宿場町間の将来像					
1	豊かな自然と調和した地区	○	○	○	○
2	生活環境・観光環境の整った地区	○	○		○
3	史跡・遺跡を生かした歴史地区	○	○	○	
4	安全で安心して暮らせる地区	○	○		○
5	人と人がふれあう地区	○	○	○	○
6	多くの観光客に訪れる地区	○	○	○	○

#### 4-5-4 観光客を受け入れる活動

##### (1) 観光客の増減

各観光案内施設が認識した観光客の増減を表4-5-16に示す。南木曾町、御嵩町の観光案内施設は「日本人、外国人増加」しているが、中津川市の観光案内施設は「外国人のみ増加」し、美濃加茂市の観光案内施設は「日本人、外国人が減少」している。

表4-5-16 観光客の増減

観光案内施設		観光客の増減			
		南木曾町	中津川市	御嵩町	美濃加茂市
1	日本人、外国人増加	○		○	
2	外国人のみ増加		○		
3	日本人減少、外国人増加				
4	日本人、外国人減少				○

##### (2) 観光地としての特徴

各観光案内施設が認識した観光地としての特徴を表4-5-17に示す。各観光案内施設は「歴史文化に恵まれている」、「景観資源がたくさんある」、「自然景観が良い」が共通的な特徴としてあげられている。また、南木曾町と中津川市の観光案内施設は「安全性が良い」、「休憩場・トイレの整備が良い」が特徴としてあげられているが、美濃加茂市は「案内標識が分かりやすい」、「観光情報が充実している」が特徴としてあげられている。

表4-5-17 観光地としての特徴

観光案内施設		観光地としての特徴			
		南木曾町	中津川市	御嵩町	美濃加茂市
1	歴史文化に恵まれている	○	○	○	○
2	景観資源がたくさんある	○	○	○	○
3	自然景観が良い	○	○	○	○
4	交通利便性が良い				
5	宿、飲食店などの快適性が良い				
6	お土産が充実している				
7	安全性が良い	○	○		
8	休憩場・トイレの整備が良い	○	○		
9	案内標識が分かりやすい		○		○
10	観光情報が充実している	○	○		○



### (3) 日本人観光客が困っていること

各観光案内施設が認識した日本人観光客が困っていることを表4-5-18に示す。南木曾町の観光案内施設は「交通不便」の問題点があげられている。中津川市の観光案内施設は「観光・交通情報不足」、「交通不便」、「飲食店不足」、「お土産不足」多くの問題点があげられている。御嵩町の観光案内施設は「宿泊施設不足」と「お土産不足」の問題点があげられている。美濃加茂市の観光案内施設は「観光・交通情報不足」と「飲食店不足」があげられている。

表4-5-18 日本人観光客が困っていること

日本人観光客が困っていること	観光案内施設	南木曾町	中津川市	御嵩町	美濃加茂市
1 観光・交通情報不足			○		○
2 交通不便		○	○		
3 宿泊施設不足				○	
4 飲食店不足			○		○
5 道迷いやすい					
6 休憩所・トイレ不足					
7 お土産不足			○	○	

### (4) 外国人観光客が困っていること

各観光案内施設が認識した日本人観光客が困っていることを表4-5-19に示す。中津川市の観光案内施設は「観光・交通情報不足」、「交通不便」、「飲食店不足」、「コミュニケーションできない」多くあげられている。御嵩町の観光案内施設は「宿泊施設不足」や「お土産不足」、「多言語地図・パンフレット不足」があげられている。美濃加茂市の観光案内施設は「多言語地図・パンフレット不足」、「コミュニケーションできない」があげられている。

表4-5-19 外国人観光客が困っていること

外国人観光客が困っていること	観光案内施設	南木曾町	中津川市	御嵩町	美濃加茂市
1 観光・交通情報不足			○		
2 交通不便			○		○
3 宿泊施設不足				○	
4 飲食店不足			○		○
5 道迷いやすい					
6 休憩所・トイレ不足					
7 お土産不足				○	
8 多言語地図・パンフレット不足				○	○
9 コミュニケーションできない			○		○



(5) 観光客を受け入れる活動

各観光案内施設が行っている観光客を受け入れる活動を表4-5-20に示す。南木曾町の観光案内施設は「休憩所・トイレの管理」、「地元街並の美化」の活動をしている。中津川市の観光案内施設は「スタッフの語学力を向上する」、「外国語対応できる体制」、「飲食店不足」、「休憩所・トイレの管理」、「地元街並の美化」多くの活動をしている。御嵩町の観光案内施設は「地元街並の美化」の活動をしている。

表4-5-20 観光客を受け入れる活動

観光案内施設 観光客を受け入れ活動	南木曾町	中津川市	御嵩町	美濃加茂市
1 スタッフの語学力を向上する		○		
2 外国語対応できる体制		○		
3 休憩所・トイレの管理	○	○		
4 地元街並の美化	○	○	○	
5 観光道路の清掃				

(6) 「訪れたい」町になるため必要な取組み

各観光案内施設が「訪れたい」町になるため必要な取組みを表4-5-21に示す。各観光案内施設は「多言語地図・パンフレットの配置」が重要な取組みがあげられている。また、南木曾町の観光案内施設は「住民との協働を推進する」が必要だと考えている。中津川市の観光案内施設は「イベント開催の支援」、「住民に歴史価値の教育」、「お土産の開発」多くの取組みが必要だと考えている。御嵩町の観光案内施設は「住民との協働を推進する」、「お土産の開発」が必要だと考えている。美濃加茂市の観光案内施設は「イベント開催の支援」、「地区の宣伝」が必要だと考えている。

表4-5-21 「訪れたい」町になるため必要な取組み

観光案内施設 「訪れたい」町必要な取組み	南木曾町	中津川市	御嵩町	美濃加茂市
1 住民との協働を推進する	○	○	○	
2 イベント開催の支援		○		○
3 多言語地図・パンフレットの配置	○	○	○	○
4 住民に歴史価値の教育		○		
5 お土産の開発		○	○	○
6 地区の宣伝		○		○

## 第6節 行政、まちづくり団体、観光案内施設のまちづくり意識と観光客を受け入れる意識

本節では中山道東美濃路沿道地域各行政、まちづくり団体、観光案内施設における中山道地域の特徴、問題点、まちづくり活動の課題と将来像などのまちづくり意識、及び日本人、外国人観光客が困っていることや必要な取組みなどの観光客を受け入れる意識を明らかにする。

### 4-6-1 まちづくり意識

行政、まちづくり団体、観光案内施設のまちづくり意識を図4-6-1に示す。地域の特徴については、各行政、まちづくり団体、観光案内施設が「歴史文化に恵まれている」、「自然景観が良い」を認識している。問題点については、多くのまちづくり団体と観光案内施設が「宿、飲食店などの快適性が良くない」とし、多くの行政とまちづくり団体が「お土産品になるものが少ない」といった問題を共通的に指摘している。また、多くの行政が「交通利便性が良くない」、多くの観光案内施設が「景観資源が少ない」の問題を指摘している。お土産品とするものは「ある」と考えているが、活用すべき地域資源は多くの行政と観光案内施設が「ある」、多くのまちづくり団体が「ない」と思っている。歴史まちづくり活動課題については、各行政、まちづくり団体、観光案内施設は「人口の減少」、「歴史建造物の老朽化」、「景観資源の支援措置がない」、「住民の歴史価値認識が不足」を指摘した。また、「自然・歴史資源の活用の不十分」、「歴史雰囲気と不釣り合いな建築活動」などの課題が多くの行政とまちづくり団体に指摘している。中山道宿場町・宿場町間の将来像については、各行政、まちづくり団体、観光案内施設は「豊かな自然と調和したまち」、「生活環境・観光環境の整ったまち」、「史跡・遺跡を生かした歴史まち」、「人と人とがふれあうまち」、「多くの観光客に訪れるまち」という共通的な考え方を持っている。

まちづくり意識	組織		
	行政	まちづくり団体	観光案内施設
地域特徴	<p>歴史文化に恵まれている</p> <p>自然景観が良い</p>		
問題点	<p>交通利便性が良くない</p> <p>お土産品になるものが少ない</p>	<p>宿、飲食店などの快適性が良くない</p> <p>ない</p>	<p>景観資源が少ない</p>
活用すべき地域資源	<p>ある</p>	<p>ない</p>	<p>ある</p>
お土産品とするもの	<p>ある</p>		
歴史まちづくり活動課題	<p>人口の減少</p> <p>歴史建造物の老朽化</p> <p>景観資源の支援措置がない</p> <p>住民の歴史価値認識が不足</p> <p>自然・歴史資源の活用の不十分</p> <p>歴史雰囲気になじまない建築活動</p>		
中山道宿場町・宿場町間の将来像	<p>豊かな自然と調和したまち</p> <p>生活環境・観光環境の整ったまち</p> <p>史跡・遺跡を生かした歴史まち</p> <p>人と人とがふれあうまち</p> <p>多くの観光客に訪れるまち</p>		

図4-6-1 行政、まちづくり団体、観光案内施設のまちづくり意識

#### 4-6-2 観光客を受け入れる意識

行政、まちづくり団体、観光案内施設の観光客を受け入れる意識を図4-6-2に示す。

観光客の増減については、多くの行政、まちづくり団体、観光案内施設が「日本人観光客と外国人観光客の両方が増加している」を認識している。

日本人観光客が困っていることについては、多くの行政、まちづくり団体、観光案内施設は「飲食店不足」、「宿泊施設不足」、「観光・交通情報不足」、「お土産不足」、「交通不便」という共通的なことを指摘している。

外国人観光客が困っていることについては、多くの行政、まちづくり団体、観光案内施設が「多言語地図・パンフレット不足」、「コミュニケーションできない」などの共通的なことを指摘している。

また、多くの行政とまちづくり団体は「お土産不足」、「観光・交通情報不足」、観光案内施設は「交通不便」、「飲食店不足」などのことを指摘している。観光客を受け入れる活動については、多くの行政は「観光資源の発掘・活用」、「外国人旅行者を受け入れ体制」、「国内外の宣伝」に努めているが、多くのまちづくり団体と観光案内施設は「地元街並の美化」、「休憩所・トイレの管理」などの活動を行っている。多くのまちづくり団体は「観光案内サービス」と「中山道街道の清掃」などの活動を行い、多くの観光案内施設「外国語対応できる体制」、「スタッフの語学力を向上する」などのことに努めている。

各行政、まちづくり団体、観光案内施設は地元を「訪れたい」町になるため、「行政が住民との協働を推進する」、「多言語地図・パンフレットの配置」、「住民に歴史価値の教育」、「お土産の開発」、「地区の宣伝」などの取組みが必要であると考えている。

組織 観光客の対応	行政	まちづくり団体	観光案内施設
観光客の増減	日本人、外国人増加		
日本人観光客が困っていること	飲食店不足 宿泊施設不足 観光・交通情報不足 お土産不足 交通不便		
外国人観光客が困っていること	多言語地図・パンフレット不足 コミュニケーションできない		交通不便 飲食店不足
観光客を受け入れる活動	観光資源の発掘・活用 外国人旅行者を受け入れ体制 国内外の宣伝	地元街並の美化 休憩所・トイレの管理 観光案内サービス 中山道街道の清掃	外国語対応できる体制 スタッフの語学力を向上する
「訪れたい」町になるための必要な取り組み	行政が住民との協働を推進する 多言語地図・パンフレットの配置 住民に歴史価値の教育 お土産の開発 地区の宣伝 イベント開催の支援		

図4-6-2 行政、まちづくり団体、観光案内施設の観光客を受け入れ意識

## 第6節 小結

本章では、中山道東美濃路におけるまちづくり活動の現状や課題、まちづくり意識及び観光客の対応について行政、まちづくり団体、観光案内施設を対象とし、アンケート調査を行い、得られた成果を統括し以下に示す。

### (1) 各行政のまちづくり事業について

まちづくり事業は南木曾町が60年代からはじめ、2004年に景観法の実施をきっかけに、各地域で景観策定などのまちづくり事業を始めた。人口を確保のために、「医療・福祉施策」、「企業誘致」、「市街地活性化」、「観光振興」などの様々な取り組みを行っている。歴史まちづくりについては「歴史建造物や遺跡などの復原」や「歴史建造物の修景に対する支援」、「まちづくり団体への支援」などの事業を行った。特に南木曾町、中津川市、瑞浪市は「歴史景観、史跡などの調査」や「歴史的市街地の防災対策」、「伝統行事の継続」など様々な歴史地域活性化事業を行っている。まちづくりについての課題は各行政が「人口減少」や「歴史建造物の老朽化」、「住民の歴史価値認識が不足」などの共通な問題を指摘された。景観策定についての課題は各行政が「空き家・空き地の増加」、「市民の関心の低さ」などの共通な問題を指摘している。他の行政とのまちづくり事業の連携は南木曾町や瑞浪市、美濃加茂市が「県内行政と連携がある」、中津川市や恵那市、御嵩町が「連絡がない」状況である。

### (2) 各まちづくり団体のまちづくり活動について

中山道東美濃路地域まちづくり団体の規模は「100人以上」のが多く、年齢は「60代以上」が多い。活動の内容は「まちなみの美化」、「歴史的な建物の維持・管理」、「まち歩き・講演会などを開催」などの活動を行っている。活動の頻度は瑞浪市のまちづくり団体は「月に1、2回」で最も頻度が高く、中津川市と恵那市のまちづくり団体は「2、3か月に1回」、美濃加茂市のまちづくり団体は「6か月に1回」

である。他のまちづくり団体との連携は南木曾町と恵那市のまちづくり団体が「当地区内まちづくり団地と連携がある」及び「当地区外まちづくり団地と連携がある」、中津川市と美濃加茂市のまちづくり団体が「当地区内まちづくり団地と連携がある」のみで、瑞浪市のまちづくり団体が「当地区外まちづくり団地と連携がある」のみである。

### (3) 各案内施設の現状について

スタッフ数は中津川市観光センターは「5～10人」で最も多く、次に妻籠観光案内所が「3～5人」で、ほかの観光案内施設は「1～3人」である。外国語への対応については、妻籠観光案内所、中津川市観光センターが「英語を対応できる」、馬籠観光案内所が「中国語を対応できる」が、ほかの観光案内施設は「対応できない」である。各観光案内施設は「マップ・パンフレットの配布」、「観光情報」、「交通情報」、「飲食店情報」などの情報を提供できるが、「多言語マップ・パンフレット」は南木曾町と中津川市のみ提供している。運営上の課題は「提供情報の多言語化」や「外国語対応可能な職員の確保」などの問題を多く指摘している。

### (4) 行政、まちづくり団体、観光案内施設のまちづくり意識

中山道東美濃路は「歴史文化に恵まれている」、「自然景観が良い」地域を各行政、まちづくり団体、観光案内施設に認識されている。しかし、「宿、飲食店などの快適性が良くない」、「お土産品になるものが少ない」などの問題があると指摘されている。活用すべき地域資源とお土産品とするものが存在し、宣伝や開発する必要があると指摘されている。また、「人口の減少」、「歴史建造物の老朽化」、「景観資源の支援措置がない」、「住民の歴史価値認識が不足」、「自然・歴史資源の活用の不十分」、「歴史雰囲気と不釣り合いな建築活動」などの多くのまちづくり課題が明確になった。中山道宿場町・宿場町間の将来像については、各行政、まちづくり団体、観光案内施設は「豊かな自然と調和したまち」、「生活環境・観光環境の整っ

たまち」、「史跡・遺跡を生かした歴史まち」、「人と人がふれあうまち」、「多くの観光客に訪れるまち」の共通的な考え方を持っている。

#### (5) 行政、まちづくり団体、観光案内施設の観光客を受け入れる意識

中山道東美濃路地域は「日本人観光客と外国人観光客の両方が増加している」を地元で認識している。その中、行政、まちづくり団体、観光案内施設から日本人観光客は「飲食店不足」、「宿泊施設不足」、「観光・交通情報不足」、「お土産不足」、「交通不便」などのことに困っている。外国人観光客は「多言語地図・パンフレット不足」、「コミュニケーションできない」などのことに困っている。観光客を受け入れるために、ほとんどの行政は「観光資源の発掘・活用」、「外国人旅行者を受け入れ体制」、「国内外の宣伝」に極めて努めているが、ほとんどのまちづくり団体と観光案内施設は「地元街並の美化」、「休憩所・トイレの管理」などの活動を行っている。ほとんどのまちづくり団体は「観光案内サービス」と「中山道街道の清掃」などの活動を行い、多くの観光案内施設「外国語対応できる体制」、「スタッフの語学力を向上する」などのことに努めている。各行政、まちづくり団体、観光案内施設は地元を「訪れたい」町になるため、「行政が住民との協働を推進する」、「多言語地図・パンフレットの配置」、「住民に歴史価値の教育」、「お土産の開発」、「地区の宣伝」などの取組みが必要であると考えられる。



#### 第4章に関する参考・引用文献

- 1) 岐阜県観光連盟：平成25年度岐阜県観光連盟事業計画，岐阜県観光連盟，2013
- 2) 長野県：外国人旅行者の受入環境の整備に関する報告書，長野県，2009.4
- 3) 沖縄県：第2次沖縄県産業振興計画，沖縄県，2005
- 4) 稲本隆壽：内子町のまちづくり 住民と行政による協働のまちづくりの実践，晃洋書房，2015.3.28
- 5) 木下勇：ワークショップ 住民主体のまちづくりへの方法論，学芸出版社，2007.1.28
- 6) 南真二：まちづくり基本条例を創る 新発田市に見る市民と行政の協働に向けた取り組み，新潟日報事業社出版部，2008.9.28
- 7) 内藤伸浩：人口減少時代の公共施設改革 まちづくりがキーワード，時事通信出版局，2015.4.28
- 8) 国土総合研究機構：観光まちづくりのエンジニアリング 観光振興と環境保全の両立，学芸出版社，2009.11.28
- 9) 愛知東邦大学地域創造研究所：住民参加のまちづくり，唯学書房，2010.7
- 10) 佐々木一成：観光振興と魅力あるまちづくり 地域ツーリズムの展望，唯学書房，2010.7
- 11) 今西一男：住民による「まちづくり」の作法，公人の友社，2008.9
- 12) 住民主体のまちづくり研究ネットワーク：住民主体の都市計画 まちづくりへの役立て方，学芸出版社，2009.3
- 13) 稲本隆壽・鈴木茂：内子町のまちづくり 住民と行政による協働のまちづくりの実践，晃洋書房，2015.3
- 14) 山下柚実：五感で楽しむまちづくり 豊かな暮らし・にぎわい・つながりの創造，学陽書房，2011.1.28
- 15) 環境法政策学会：まちづくりの課題 その評価と展望 環境法政策学会誌，

商事法務研究会，2007. 6. 28

- 16) 宗田好史：町家再生の論理 創造的まちづくりへの方途，学芸出版社，  
2009. 2. 28

## 第5章

### 結論



## 第1節 結論

### 1. 統括

中山道東美濃路における景観資源と地域活性化について各章で明確となった点を以下に述べる。

第1章「序論」では、山道東美濃路における景観資源と地域活性化に関する研究を行う背景とその目的を明確した。

第2章「中山道東美濃路における景観資源の現状と特性」では、歴史地域であり、中山道東美濃路にある景観資源を対象とし、資料収集、現地踏査調査と検証調査を行い、景観資源の分布特性を把握した。

#### (1) 景観資源の分布状況について

宿場町については、I 伏見宿は「碑」、「道標」、「常夜灯」などの「歴史街道要素」が多い。他の宿場町は「寺院」、「文化財」、「本陣・脇本陣」などの「歴史建造物」が多い。

宿場町間については、I 妻籠宿～馬籠宿、II 馬籠宿～落合宿、VI 大湫宿～細久手宿、VII 細久手宿～御嶽宿、VIII 御嶽宿～伏見宿は「碑」、「道標」、「一里塚」などの「歴史街道要素」が多い。III 落合宿～中津川宿、IX 伏見宿～太田宿は「寺院」、「観音堂」などの「歴史建造物」が多い。IV 中津川宿～大井宿は「地蔵」、「石仏群」、「馬頭観音」などの「象徴物」が多い。V 大井宿～大湫宿は「坂」、「岩」などの「自然物」と「碑」、「道標」、「一里塚」などの「歴史街道要素」が多い。

#### (2) 宿場町と宿場町間における景観資源の分布特性について

宿場町については、C 落合宿、F 大湫宿は「歴史建造物」と「歴史街道要素」が多く、歴史的建造物の見物する宿場町である。A 妻籠宿、B 馬籠宿、J 太田宿

は各景観資源が多く、宿場町全体の雰囲気が良い宿場町である。D 中津川宿、H 御嵩宿は「歴史建造物」が多く、伝統的な雰囲気が濃い宿場町である。I 伏見宿は「歴史街道要素」が多く、景観資源の種類が少ない宿場町である。

宿場町間については、I 妻籠宿～馬籠宿、V 大井宿～大湫宿はX軸「山道」、「自然物」が多く、自然景観が多く見られる区間である。II 馬籠宿～落合宿、VI 大湫宿～細久手宿は「石畳」、「歴史街道要素」が多く、街道の歴史を感じられる区間である。III 落合宿～中津川宿、IV 中津川宿～大井宿、IX 伏見宿～太田宿は「歴史街道要素」と「歴史遺跡」を合わせた割合が高く、旧街道施設に接する区間である。VII 細久手宿～御嶽宿、VIII 御嶽宿～伏見宿は「歴史街道要素」と「象徴物」を合わせた割合が高く、旧街道文化に触れる区間である。

第3章「中山道東美濃路における観光客の旅行環境評価」では、中山道東美濃路を一体とした観光客動向及び観光環境評価を明確化した。

#### (1) 観光客の属性について

宿場町に訪れる観光客の性別構成は、国籍と関わらず、女性が少々上回っている。年齢構成について、日本人観光客は「50代」以上が多く、欧米人とアジア人観光客は「20代」、「30代」が多い。

宿場町間に訪れる観光客の性別構成は、国籍と関わらず、男性が多い。年齢構成について、日本人観光客は「40代」以上が多いが、欧米人観光客は「30代」が多い。

#### (2) 観光客の動向について

宿場町に訪れる日本人観光客の動向は、「個人」観光、リピート率は「2回～5回」、宿泊先は「自家」、交通手段は「車」が各6割程度に超えている。欧米人観光客は、「団体」観光、リピート率は「初めて」が各9割程度に超えている。宿泊先は「民宿」と「ホテル」が各半割程度に占める。交通手段は「徒

歩」、「電車」、「バス」が各3割に占める。情報収集手段は「観光ツアー」が7割程度で最も高い。アジア人観光客観光客については、観光形態は「団体」観光、リピート率は「初めて」が各9割程度に超えている。宿泊先は「ホテル」が8割程度に占める。交通手段は「バス」が6割以上に超えている。情報収集手段は「インターネット」が4割程度で最も多く、次に「元々知っていた」が3割で最も多い。

宿場町間に訪れる日本人観光客観光客については、観光形態は「個人」観光、リピート率は「初めて」が各6割程度に超えている。宿泊先は「自家」が7割を超える。、交通手段は「車」4割で最も多く、次に「徒歩」が3割で多い。情報収集手段は「元々知っていた」が3割程度で最も多い、次に「インターネット」が3割程度で多い。欧米人観光客観光客については、観光形態は「個人」観光、リピート率は「初めて」が各6割程度に占める。宿泊先は「民宿」が8割以上に超える。交通手段は「徒歩」が5割程度で多い、次に「電車」が4割で多い。情報収集手段は「インターネット」が5割程度最も高い。

### (3) 観光客の観光意識について

宿場町に訪れる観光目的は国籍と関わらず、「自然景観を堪能する」が最も多く、次に「歴史的建造物の見物」と「日本伝統文化にふれる」が高い。

宿場町間に訪れる日本人観光客の観光目的は、「自然景観を堪能する」が3割程度で最も多く、次に「ショッピングをする」と「歴史的建造物の見物」が2割程度に占める。欧米人とアジア観光客は「自然景観を堪能する」と「日本伝統文化にふれる」が最も多く、次に「歴史的建造物の見物」と「日本食を味わう」が多い。

宿場町間で徒歩観光客についてのインタビュー調査により、日本人観光客が最も困っていたは「経路情報」や「公共交通情報」、「飲食店情報」である。欧米人観光客は「コミュニケーション」ことが最も問題点と指摘されている。次に、「飲食店情報」や「LAN」、「宿泊施設予約」ができないところに困っている。観光

案内所立地については、日本人観光客は「宿場町・観光名所」と「電車站周辺」が各4割程度を超える。欧米人観光客は「電車站周辺」が4割以上で最も高く、次に「宿泊施設」が2割以上に超える。観光案内所で最も欲しいサービスについては、日本人観光客は「公共交通情報」が最も多く、次に「飲食店情報」が多い。欧米人観光客は「外国語対応」の要望が最も多く、次に、「飲公共交通情報」や「飲食店情報」が多い。

#### (4) 観光客の観光評価について

宿場町の観光評価については、「宿泊施設」は全国籍の評価が良い傾向であるが、「伝統自然」や「観光案内」、「交通土産」は欧米人の評価が良い。宿場町間の観光評価については、「宿泊施設」については、全国籍の評価が良い傾向であるが、「伝統自然」や「観光案内」、「交通土産」は欧米人の評価が良い。「日本人」観光客は「伝統自然」は全国籍の評価が良い傾向であるが、「宿泊施設」や「観光案内」、「交通土産」は欧米人の評価が良い。

場所別においては、「伝統自然」の評価が最も高い宿場町はA 妻籠宿、E 大井宿、F 大湫宿である、評価が最も高い宿場町間はⅢ 落合～中津川、Ⅰ 妻籠～馬籠である。「宿泊休憩」の評価が最も高い宿場町はA 妻籠宿、C 落合宿、D 中津川である、評価が最も高い宿場町間はⅧ 御嵩～伏見、Ⅱ 馬籠～落合、Ⅰ 妻籠～馬籠である。「観光案内」の評価が最も高い宿場町はB 馬籠宿、A 妻籠宿、H 御嶽宿である、評価が最も高い宿場町間はⅣ 中津川～大井、Ⅷ 御嶽～伏見、Ⅱ 馬籠～落合である。「交通土産」の評価が最も高い宿場町はD 中津川宿、C 落合宿、E 大井宿である、評価が最も高い宿場町間はⅣ 中津川～大井、Ⅲ 落合～中津川、Ⅴ 大井～大湫である。

第4章「行政、まちづくり団体、観光案内施設のまちづくり活動の内容・意識及び観光客を受け入れる意識」では、中山道東美濃路の行政、まちづくり団体、観光案内施設の現状や歴史まちづくり活動の内容、課題と観光客を受け入れる



ための活動や必要な取組みをあきらかにした。

### (1) まちづくり活動の現状

・対象地域のまちづくり活動には「人口減少」や「歴史建造物の老朽化」、「住民の歴史価値認識が不足」、景観策定には各「空き家・空き地の増加」、「市民の関心の低さ」などの深刻的な問題に直面しているをあげられた。

・まちづくり事業・活動において、各行政、まちづくり団体の連携が不足している。各行政のまちづくり事業についての連携は南木曾町や瑞浪市、美濃加茂市が「県内行政と連携がある」、中津川市や恵那市、御嵩町が「連絡がない」状況である。各まちづくり団体のまちづくり事業についての連携は南木曾町と恵那市のまちづくり団体が「当地区内まちづくり団地と連携がある」及び「当地区外まちづくり団地と連携がある」、中津川市と美濃加茂市のまちづくり団体が「当地区内まちづくり団地と連携がある」のみで、瑞浪市のまちづくり団体が「当地区外まちづくり団地と連携がある」のみである。

・行政は人口を確保のために、「医療・福祉施策」、「企業誘致」、「市街地活性化」、「観光振興」などの様々な取組みを行っている。また、「歴史建造物や遺跡などの復原」や「歴史建造物の修景に対する支援」、「まちづくり団体への支援」、「伝統行事の継続」などの歴史地域活性化事業を行っている。

・まちづくり団体は「まちなみの美化」、「歴史的な建物の維持・管理」、「まち歩き・講演会などを開催」などの活動を行っている。

### (2) 観光客を受け入れる意識

・中山道東美濃路は「歴史文化に恵まれている」、「自然景観が良い」地域である、「日本人観光客と外国人観光客の両方が増加している」と地元の行政、まちづくり団体、観光案内施設に認められる。

・「宿、飲食店などの快適性が良くない」、「お土産品になるものが少ない」などの問題や活用すべき地域資源とお土産品とするものが存在し、宣伝や開発

する必要があるなどの問題点がある。

- ・日本人観光客は「飲食店不足」、「宿泊施設不足」、「観光・交通情報不足」、「お土産不足」、「交通不便」などのことに困っている。

- ・外国人観光客は「多言語地図・パンフレット不足」、「コミュニケーションできない」などのことに困っていると指摘された。

- ・今まで良好な地元観光環境を創出するために、各行政は「観光資源の発掘・活用」、「外国人旅行者を受け入れ体制」、「国内外の宣伝」、まちづくり団体は「地元街並の美化」、「休憩所・トイレの管理」、「観光案内サービス」と「中山道街道の清掃」、観光案内施設「外国語対応できる体制を整える」、「スタッフの語学力を向上する」などに努めている。

- ・これから、多くの国内外の観光客を受け入れるために、各行政、まちづくり団体、観光案内施設は「行政が住民との協働を推進する」、「多言語地図・パンフレットの配置」、「住民に歴史価値の教育」、「お土産の開発」、「地区の宣伝」などの取組みが必要である。

## 2. 今後の課題

2020年に東京オリンピック開催が決定したことから、その開催前後に、国際会議などが多く開催されるなど、訪日外国人がさらに一定割合増加するものと想定し、成長著しいアジア地域及びヨーロッパでの中山道の知名度アップによる観光客誘致拡大し、海外や大都市圏等からの誘客から有効な観光客の誘致を促進する必要がある。

また、リニア中央新幹線の岐阜県内の中間駅とする中津川市をはじめ、中山道観光や中山道沿道地域産業振興、基盤整備の指針となるリニア活用戦略を作成する必要がある。

第2章「中山道東美濃路における景観資源の現状と特性」では、すばらしい眺望景観も景観資源である。しかし、眺望は、同じ対象を眺められる連続した眺望点群であり、眺望区間として扱う必要がある。同じ対象を同じ眺望点から眺めた場合でも、短期的には天候や季節により、長期的には自然や人の営みにより変化する動的なものであり、地元住民の意識調査や、四季ごとの写真撮影、過去の映像情報を収集し現況と比較する等、複雑な変化状況を把握することが必要になるといえる。以上の理由により、眺望区間は短期間では決定できないため、本研究では除いた。長期間が必要のため、眺望景観については別途の研究課題として現在進めておる。

第3章「中山道東美濃路における観光客の旅行環境評価」では、世界的な金融危機、日中関係、日韓関係の不安定な情勢と季節的に観光シーズンを過ぎていたなどの影響で予想より外国人旅行者が少なかった。ぜひ、計測して、多い時期に再調査が必要である。

第4章「行政、まちづくり団体、観光施設のまちづくり活動の内容・意識及び観光客を受け入れる意識」では、行政、まちづくり団体、観光施設の意識と

意識と観光客を受け入れる意識について調査を行い、その結果から行政、まちづくり団体が連携することが重要性を指摘した。今後は、中山道東美濃路地域の各宿場町と宿場町における連携法と連携による予想効果を明らかにする必要であろう。

## 謝辞

恩師、名古屋工業大学大学院工学研究科教授・工学博士 松本直司先生には、筆者が名古屋工業大学大学院工学研究科教授・工学博士 松本直司先生には、筆者在学中から今日に至るまで、8年間にわたり熱心なご指導をいただき深謝の意を表します。松本先生には本研究に関して始終温かい激励と鞭撻をいただきましたこと、ならびに留学生活全般において貴重な助言を賜りましたことに心より感謝申し上げます。

学位論文審査において、貴重な指導を助言をいただきました、名古屋工業大学大学院工学研究科教授・工学博士 兼田敏之先生、名古屋工業大学大学院工学研究科教授・博士（工学） 秀島栄三先生、名古屋工業大学大学院工学研究科准教授・博士（工学） 夏目欣昇先生に感謝の意を表します。

名古屋工業大学松本研究室の皆様と、先輩として多くの助言を頂きました博士・工学 瀬田恵之先生、博士（工学） 船曳悦子先生、青木一郎博士（工学）、Ahmed Mansouri 博士（工学）、Seo Hyemin 博士（工学）、Kacha Epe Mansouri Lemya 博士（工学）に感謝の意を表します。

さらに多くの助言や協力をいただいた、設計事務所アドリエサノ・博士（芸術工学） 道尾淳子先生、本学技術職員の東美緒氏と博士前期課程2年の加藤千尋氏、杉浦 大地氏、服部雄介氏、廣澤克典氏、楼玥含氏、劉雅婷氏、学部4年の市井暁氏、大橋怜氏、小林洵也氏、水上綾子氏、脇田亜佑美氏に深く感謝の意を表します。

また、アンケート調査を行いにあたり、支援、協力を頂きました南木曾町、中津川市、恵那市、瑞浪市、御嵩町、美濃太田市の各行政、住民まちづくり団体、観光案内所、観光案内センターの方々、ここに記すことが出来なかった多くの

以上のように本研究は、多数の人々のご協力によりまとめることができたものであり、そのすべての方々に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

2015年12月

尚 偉